

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XVII

境塚遺跡 IV 第4次調査

2021

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書 XVII

さかい づか  
境 塚 遺 跡 IV 第 4 次調査

2 0 2 1

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 序

一般国道49号は、太平洋側の福島県いわき市と日本海側の新潟市を結ぶ主要幹線道路です。また、同路線は沿線市町村と新潟市を結び、日常生活や地域経済を支える重要な基盤道路としての役割を果たしています。

しかし、現道は阿賀野市街地での幅員減少等の問題を抱え、近年の著しい交通量の増加に十分対応できておりません。その結果、交通混雑、交通騒音、交通事故の増加等、生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで、阿賀野市六野瀬から同市下黒瀬を結ぶ延長13.7kmの阿賀野バイパスの建設が計画されました。同バイパスは、安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと大いに期待されています。

本書は、阿賀野バイパスの建設に先立ち、2019（平成31・令和元）年度に実施した境塚遺跡第4次調査の報告書です。調査面積は小さいものの、鎌倉時代以降の掘立柱建物や井戸、溝などの遺構が見つかりました。遺構には重なっているものがあることから、同じ場所に継続して集落が営まれていたことがわかります。また、下の層から古墳時代前期の土器がまとまって出土した場所もあり、当地域の古墳時代の様相を知るうえでの貴重な調査事例となりました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための基礎資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御支援と御協力をいただいた阿賀野市教育委員会、並びに地元住民の方々、そして、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別のご高配をいただいた国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2021（令和3）年3月

新潟県教育委員会

教育長 稲 荷 善 之

## 例　　言

- 1 本報告書は、新潟県阿賀野市月崎字六日野境に所在する境塙遺跡の第4次発掘調査記録である。
- 2 発掘調査は一般国道49号阿賀野バイパスの建設に伴い国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所（以下、国交省）から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。
- 3 発掘調査は県教委の依頼を受けた公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が2019年度に実施した。発掘作業、整理作業および関連諸工事等の一部業務は吉田・帆舟特定共同企業体（株式会社吉田建設・株式会社帆舟組）に委託した。発掘調査面積は延べ1,119m<sup>2</sup>である。
- 4 出土品及び調査に係る各種資料は、すべて県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。データの有無や閲覧希望は、県教委に問い合わせ願いたい。
- 5 出土遺物には、原則として調査年度の下二桁と遺跡の略称を合わせた「19サカイ」に続けて通し番号を付した。
- 6 遺構図版に付した方位記号の北は、国家座標WGS系の座標北を示す。
- 7 遺跡の土刷及び出土遺物の色調は、『新版標準土色帖』[日本色研事業株式会社 1998]に基づき記述した。
- 8 引用文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 9 作成した図版のうち、既成の地図を使用した場合は、それぞれにその出典を記した。
- 10 調査成果の一部は、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』で公表しているが、本書をもって正式な報告とする。
- 11 本書の執筆は、石川智紀・塙野寛人（以上、埋文事業団）、笠澤正史・松井 智・中俣 茂（以上、株式会社吉田建設）、高橋 均・石橋夏樹（以上、株式会社帆舟組）があたり、編集は石川智紀が行った。執筆分担は以下のとおりである。

第I章：石川

第II章：笠澤・高橋

第III章：石川・中俣

第IV章1：石川、2～3A：中俣、3B：高橋・松井、3Ca・c・d：石橋、3Cb・D：塙野

第V章：笠澤

第VI章：石川

- 12 遺構・遺物図の各図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースとDTPソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

- 13 図書館等（著作権法第31条第1項に規定する図書館等をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

- 14 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。  
(敬称略　五十音順)

阿賀野市教育委員会　阿賀野川土地改良区　国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所

## 目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査経過	2
A 試掘調査（2008年度）	2
B 本発掘調査（第1～3次調査、2009・2014・2015年度）	3
C 本発掘調査・整理（第4次調査、2019年度）	3
D 調査・整理の体制	5
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	6
1 地理的環境	6
2 歴史的環境	7
A 古墳時代	7
B 古代・中世	8
第Ⅲ章 調査の概要	12
1 グリッドの設定	12
2 層 序	13
第Ⅳ章 遺 構	15
1 記述の方法と遺構の分類	15
A 基本方針	15
B 遺構の表記方法	15
C 遺構の形態分類	15
D 掘立柱建物	16
2 概 要	16
遺構・遺物の検出状況	16
A L区の遺構	16
B M区の遺構	17
1) 古墳時代の遺構	17
2) 中世以降の遺構	18
C N区の遺構	22
D O区の遺構	25
遺構・遺物の検出状況	25
各 説	25
第Ⅴ章 遺 物	27
1 古墳時代	27
A 遺構出土遺物	27
B 包含層出土遺物	28
C 小 結	28

2 古代	28
3 中世	28
A 土器	28
1) L 区	28
3) N 区	29
B 石製品	30
C 金属製品	30
D 木製品	30
E 小結	30
第VI章 まとめ	31
《引用・参考文献》	33
《観察表》	35

### 挿図目次

第 1 図 阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置	1	第 8 図 グリッド設定と調査区	12
第 2 図 試掘トレンチ位置	2	第 9 図 基本層序柱状図と位置図	13
第 3 図 墓塚遺跡（第 4 次調査）の調査経過	4	第 10 図 造構の平面・断面形態の分類	15
第 4 図 遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川	6	第 11 図 造構覆土の堆積形状の分類	15
第 5 図 墓塚遺跡周辺の古墳時代遺跡の分布	8	第 12 図 古墳時代前期土器の器種組成	27
第 6 図 白河莊の区分	9	第 13 図 中世造構全体図	32
第 7 図 周辺の中世遺跡分布	10	第 14 図 検出造構と土地更正図	32

### 表目次

第 1 表 墓塚遺跡周辺の古墳時代遺跡一覧	8	第 2 表 周辺の中世遺跡一覧	11
-----------------------	---	-----------------	----

## 図版目次

### 【図面図版】

- 図版 1 調査範囲図  
図版 2 中世遺構全体図  
図版 3 M区 古墳時代遺構分割図・遺構別図  
図版 4 L区 中世遺構分割図・遺構別図  
図版 5 M区 中世遺構分割図  
図版 6 M区 中世遺構剖別図(1)  
図版 7 M区 中世遺構剖別図(2)  
図版 8 M区 中世遺構剖別図(3)  
図版 9 M区 中世遺構剖別図(4)  
図版 10 N区 中世遺構分割図  
図版 11 O区 中世遺構分割図  
図版 12 N区 中世遺構剖別図(1)  
図版 13 N区 中世遺構剖別図(2)  
図版 14 N区 中世遺構剖別図(3)  
図版 15 N区 中世遺構剖別図(4)・  
O区 中世遺構剖別図  
図版 16 古墳時代の土器(1)  
図版 17 古墳時代の土器(2)、  
古代の土器・陶磁器、  
中世の土器・陶磁器(1)  
図版 18 中世の土器・陶磁器(2)  
図版 19 中世の石製品・金属製品・木製品

### 【写真図版】

- 図版 20 墓塚遺跡IV 全景  
図版 21 古墳時代の遺構・中世の井戸  
図版 22 M区 基本順序・古墳時代の遺構  
図版 23 M区 古墳時代の遺構・L区 中世の遺構  
図版 24 L・M区 中世の遺構  
図版 25 M区 中世の遺構  
図版 26 M区 中世の遺構  
図版 27 M区 中世の遺構  
図版 28 M区 中世の遺構  
図版 29 M区 中世の遺構  
図版 30 M・N区 中世の遺構・N区 基本順序  
図版 31 N区 中世の遺構  
図版 32 N区 中世の遺構  
図版 33 N区 中世の遺構  
図版 34 N区 中世の遺構・O区 基本順序  
図版 35 O区 中世の遺構  
図版 36 古墳時代の土器、古代の土器・陶器、  
中世の土器・陶磁器(1)  
図版 37 中世の土器・陶磁器(2)、  
石製品、金属製品、木製品

第Ⅰ章 序 説

## 1 調査に至る経緯

一般国道 49 号(福島県いわき市～新潟市)は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。県内では、沿線の阿賀町・阿賀野市と新潟市を結ぶ主要幹線道路として重要な役割を果たしている。道路は阿賀野市の市街地(旧安田町・旧水原町・旧京ヶ瀬村)を通過しており、幅員が狭小なため、その交通量に対応できず、交通混雑、交通騒音、交通事故等都市機能や生活環境に与える影響が問題となっている。これらの問題を解消し、安全かつ円滑に交通を処理することを目的に、「一般国道 49 号安田バイパス」(阿賀野市六野瀬～同市寺社間 5.6km)と「一般国道 49 号水原バイパス」(阿賀野市寺社～同市下黒瀬間 8.1km)が計画された。これら二つのバイパスは、平成 16 年の市町村合併に伴う阿賀野市の誕生を機に、「阿賀野バイパス」と呼称することになった(第 1 図)。

阿賀野バイパスのうち、安田バイパス区間は1985（昭和60）年の一部暫定供用を経て、2006（平成18）年に暫定2車線が開通している。水原バイパス区間は、1999（平成11）年3月に都市計画が決定し、2000（平成12）年度に事業化が決定した。2003（平成15）年度に用地取得に着手したことを受けて、国土交通省（以下、国交省）と新潟県教育委員会（以下、県教委）との間で、道路法線内の埋蔵文化財の取り扱いに関する協議が本格化した。水原バイパス区間の分布調査は、県教委から委託を受けた財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が2003（平成15）年12月に実施した。分布調査の結果、周知遺跡（石船戸遺跡）以外でも広範囲で古代・中世の遺物が採取されたことから、全域に対して試掘確認調査が必要である旨を県教委に報告した。

2005（平成17）年4月以降、阿賀野バイパスの試掘確認調査が本格化し、国交省から依頼を受けた県教委が、埋文事業団に委託する形で実施した。なお境塚遺跡は、バイパス事業に隣接する県営灌溝水防除事業に伴う試掘調査で、2008（平成20）年に阿賀野市教育委員会（以下、市教委）によって新規登録されている。バイパス事業16工区の区間内の、境塚遺跡周辺の試掘調査は、2008年5～7月に実施した。検出



第1図 阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置  
(国土地理院発行「新潟」「新津」1:50,000 要図)

された遺構・遺物の粗密を検討し、延べ面積 38,461m<sup>2</sup>に対して本発掘調査が必要であることを県教委に報告した。本発掘調査は、国交省から依頼を受けた県教委が、埋文事業団に委託して実施した。2009(平成 21)年度が第1次調査で、18,167m<sup>2</sup>(図版1:A～D区)を調査した。

その後、水原バイパス全城の試掘確認調査が終了したことから、国交省と県教委は2012(平成 24)年12月10日に「水原バイパスの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書」(以下、覚書)を締結し、完成4車線施工時と暫定2車線施工時の本発掘調査対象範囲を確定した。バイパスの早期開通のため、当面は暫定2車線施工範囲を対象に、本発掘調査を実施することとした。その後、2014(平成 26)年度の第2次調査で延べ 6,480m<sup>2</sup>(E～G区)、2015(平成 27)年度の第3次調査で延べ 6,579m<sup>2</sup>(H～K区、D区下層)の調査を実施し、覚書に基づく暫定2車線施工範囲の調査を完了した。

覚書締結時の工事設計に基づく範囲の調査は完了していたが、2019年2月に設計変更が国交省から示された。本発掘調査完了範囲と照合の結果、未調査範囲(=調査必要範囲)が生じた。国交省と県教委は協議し、一部事業計画を変更して対応することにした。国交省から本発掘調査の依頼を受けた県教委は、埋文事業団に調査を委託した。2019(平成 31)年度当初の依頼面積は、4地点で延べ 950m<sup>2</sup>である。バイパスの本体工事が進んでいること、調査対象地点ごとに現況が異なっていることから、工程を精査して4月から事前準備及び調査に着手した。

## 2 調査経過

### A 試掘調査(2008年度)

試掘調査は、埋文事業団が2008年5月23日～7月2日に行った。調査地点は、一般国道49号阿賀野バイパス用地であるJR羽越本線～小里川間と小里川右岸堤下～県道新聞停車場線間である(第2回)。

調査対象面積は 79,261m<sup>2</sup>、実質調査面積は 1,325.7m<sup>2</sup>、試掘率は 1.7% である。試掘調査は、調査対象地に試掘坑(試掘トレンチ:略号 T)を任意に設定し、重機(バックホー)及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録した。遺物はトレンチ西端及び北端から 4m ごとに区切り、層序別に取り上げた。試掘トレンチは、JR 羽越本線～小里川間(34T～62T)29か所、小里川右岸堤下～県道新聞停車場線間(63T～



第2回 試掘トレンチ位置(国交省新潟国道事務所阿賀野バイパス平面図に加筆)

105T) 43か所の合計 72か所を設定した。

JR 羽越本線－小里川間では、西側(42T～53T)と東側(40T～60T)の大きく2つの範囲で遺構・遺物を検出した。西側では土坑・溝などの遺構と、古代・中世の遺物が見つかった。また、49Tで縄文時代晩期の土器を見つけたが、これに伴う明確な遺構は検出できなかった。東側では、59T～62Tで土坑・溝などの遺構が濃く分布する傾向が認められ、検出状況から古代と中世の遺構が重複するものと推測した。この遺構・遺物の分布状況は、市教委が実施した隣接事業用地の試掘結果と同じで、境塚遺跡の遺跡範囲と認識された。小里川右岸の試掘では、63T～73Tで溝を主体とする遺構を検出し、古代・中世に所属する遺物が出土した。のことから、当該範囲は小里川左岸から境塚遺跡が続くものと想定した。また、これらの区間は昭和初期の耕地整理により遺物包含層の大半が削平されており、水田耕作土直下で遺構が検出されることも分かった。

以上の結果、バイパス本線に沿って長さ約 670m の範囲が境塚遺跡と判断され、延べ 38,461m<sup>2</sup>について本発掘調査が必要であると報告した。

## B 本発掘調査（第1～3次調査、2009・2014・2015年度）

阿賀野バイパス建設予定地における、境塚遺跡の本発掘調査対象の当初面積は約 38,461m<sup>2</sup>であった。耕地整理の影響で遺物包含層が削平を受けていたこともあり、当初は古代・中世の1面調査と考えられていた。しかしその後の調査によって、部分的に古墳時代（中層）、縄文時代（下層）の遺構・遺物が検出されたこと、また調査不要と判断した範囲も調査対象に変更になったことなどから、本発掘調査対象の面積は増加している。よって各年度調査の合計面積は、調査終了の平面積と同一ではない。2019年度までに、3回の本発掘調査（第1～3次調査）が実施されている。2009年度の第1次調査で 18,176m<sup>2</sup>（図版 1:A～D 区）、2014年度の第2次調査で 6,480m<sup>2</sup>（E～G 区）、2015年度の第3次調査で 13,363m<sup>2</sup>（H～K 区、D 区下層）の本発掘調査を行った。それぞれの成果は『境塚遺跡』[荒川・村上ほか 2012]、『境塚遺跡Ⅱ』[荒川・村上ほか 2016]、『境塚遺跡Ⅲ』[飯坂・荒川ほか 2018]として報告・刊行されている。また、調査区に隣接して阿賀野市教育委員会（以下、市教委）が県営灌水防除事業（安野川払幅工事）に伴い 2008・2009 年度に 3,412m<sup>2</sup>（阿賀野市 A・B 区）の調査 [古澤ほか 2011] を行っている。

## C 本発掘調査・整理（第4次調査、2019年度）

2012 年の覚書締結以降にバイパス工事の設計変更があったことから、国交省は本発掘調査を県教委に依頼した。第4次調査（境塚遺跡IVと呼称）は県教委から委託を受けた埋文事業団が、2019（平成 31・令和元）年 4 月 22 日から 6 月 21 日の期間で行った。年度当初の依頼面積は 4 地点で 950m<sup>2</sup> であるが、工事内容や工事の影響範囲を考慮し、最終的な調査範囲を確定した。

調査対象範囲は 4 地点に分かれており、過年度調査と隣接していることから、調査区名を引き継いで呼称することにした。南東側から L～O 区と仮称した。各調査区によって様相は異なるが、バイパスの本体工事が進んでいたため、工事用の搬出入路・駐車場・仮盛土などが存在し、過年度調査時の現況とは大きく異なっていた。各施工業者と調整を図り、調査の事前準備を進め、支障物件が比較的少ない L 区の調査を 4 月 22 日から着手した。各調査区における表土掘削、包含層掘削、遺構検出、遺構発掘の作業経過は第3図のとおりである。記録作業（図面作成・写真撮影など）、事前準備、撤収作業、埋戻しについては、各調査区の進捗で重複する部分も多いことからまとめて示した。

**L区** 調査範囲に支障物件は存在しなかつたが、地盤高が低く、工事の集水場となっていたため、短期で調査終了する必要があった。4月22日に表土掘削を開始し、翌日から遺構検出を行った。その結果、過年度調査区まで表土掘削が及んでいないことが判明し、部分的に拡張した。近世以降の可能性が高い溝SD3015を検出し、埋土の中位まで重機で慎重に掘削し、その後は人力で遺構掘削した。24・25日に検出遺構の掘削・記録作業（図面作成・写真撮影）を行い、25日午前中までに終了させた。全体写真撮影後、午後に県教委の終了確認を受け、そのまま埋戻し作業に着手し、4月26日に終了した。

**M区** 調査範囲は公共工事排土が置かれ、また橋脚工事用の進入路が存在したので、工事関係者の調整を要した。進入路をルート変更することで合意し、4月25日から盛土除去を開始した。5月16日に至り、調査区の範囲設定が可能となった。5月20日から本格的に調査区内の表土掘削を開始したが、上層の遺構検出面まで耕地整理や現代の搅乱が及んでいることが判明した。また古墳時代の遺物も上層遺構検出面付近で多く出土することから、部分的に中層まで影響を受けていることを確認した。5月23日から遺構掘削に着手したが、上層で検出できる遺構は、近世以降の遺構も含むことから、壁面の堆積状況や遺構埋土の色調に留意して調査を進めた。方形区画溝やビットを多数検出したが、近世以降と確証が得られない遺構は調査対象とした。5月30日までに上層の遺構掘削を終了し、31日に県教委の終了確認を受けた。その後、中層の包含層掘削に着手したが、遺物の出土分布は調査区北半に限られることから、南半は幅2mのトレンチを3か所掘削して終了した（図版3）。6月7日まで包含層掘削と遺構検出作業を併行し、10日から遺構掘削・記録作業を開始した。6月13日に終了確認を受け、14日に上層の全体撮影をした。上層遺構の埋土は地山との識別が困難な部分もあったことから、平面測量後に重機で慎重に掘り下げを行った。未検出遺構を追加で調査し、埋戻しも含めたすべての作業を6月20日に終了した。

**N区** 調査範囲に公共工事排土が存在したため、4月下旬に調査区外南側に搬出し、その後調査範囲の設定を行った。5月7日から表土掘削を開始し、北側と西側で過年度調査区との境を確認した。遺構はSD3066以北に集中することが確認され、また調査区東壁際で、調査区外に延びる大型の遺構を検出した。この大型遺構の取扱いについて県教委と国交省は協議し、後述するように、調査区を法線際（堤体に影響が出ない範囲）まで拡張して調査することにした。5月13日から遺構掘削を開始し、東壁際の大型遺構以外の掘削を17日までに完了した。また同日午後に調査区全体の完写真を撮影した。平面測量後、M区同様に5月22日から重機で掘り下げを実施した。その結果、十数基の遺構を検出し、遺構掘削・記録作業を行い、5月29日に終了した。

区	工程	4月		5月		6月	
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
L区	準備工	■					
	表土掘削		■				
	遺構検出			■			
M区	遺構発掘		■				
	表土掘削				■		
	包含層掘削					■	
N区	遺構検出				■	■	
	遺構発掘				■	■	
	表土掘削		■				
O区	遺構検出			■			
	遺構発掘			■			
	記録作業		■			■	
P区	記録作業					■	
	埋戻・埋戻		■				

※ L・N・O区は古代・中世の包含層なし。

第3図 墓塚遺跡（第4次調査）の調査経過

東側の調査区拡張の許可が6月7日に国交省から得られ、10日に重機及び人力による表土掘削を行った。拡張区では大型遺構も含めて十数基の遺構を検出したが、遺構掘削は大型遺構のみを対象とする前提であったことから、その他の遺構は平面プランの検出までに留めた。大型遺構は井戸（SE6006）であることが判明し、略完掘が終了した20日に合わせて、県教委からN区上層の終了確認を受けた。翌日、井戸側の取り上げが困難であることから、重機で西側を半削して最後の記録作業を行った。

O区 調査範囲はバイパス工事関係の駐車場及び資材置場となっていたので、工事関係者と工程を調整し、5月9日から14日にかけて砕石・造成土の除去及び表土掘削を行った。14日から遺構精査を開始したが、周辺調査区の状況と同様に、溝が主体の範囲であることが判明した。集落の周辺と想定されたが、水田などの生産域が検出される可能性があったので、留意して検出作業を行った。溝は埋土の観察ベルトを残して遺構掘削を行った。17日に遺構掘削を終了し、20日にN区と共に上層の完掘写真を撮影した。その後、平面図などの記録作業を実施し、30日にすべて終了した。

全体 M・N・O区の上層の空掘は、5月30日に行った。ただしこの段階ではN区の拡張区は許可が得られていない。調査区の埋戻し方法は、国交省と協議の上、土壌改良はせずに発生土をそのまま使用した。埋戻し及び撤収作業を6月26日までに終了し、28日に国交省へ現地を引き渡した。

整理作業は、本発掘調査と並行して遺物の洗浄・注記・接合・復元を株式会社吉田建設の整理室で行い、12月の上野跡調査終了後から本格的に開始した。整理期間は短いが、調査面積及び遺物量を勘案し、年度内に編集を終了させることにした。遺構図面修正・写真整理・遺構台帳などの基礎整理から開始し、遺物の実測・遺構・遺物の観察表の作成、各種図版作成、原稿執筆を行った。各種図版及び挿図を含む本文の編集作業は、有限会社不二出版に委託して作業の効率化を図った。

## D 調査・整理の体制

新潟県教育委員会が主体となり、以下の体制で行った。

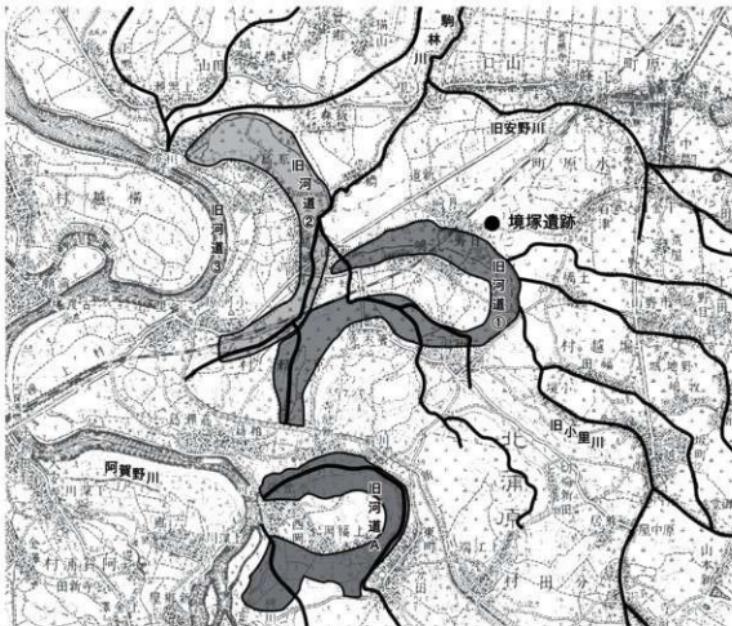
本発掘調査・整理作業（2019年度）		試掘調査（2008年度）
調査次数	第4次調査	—
調査期間	2019年4月22日～6月21日	2008年5月23日～7月2日
整理期間	2019年12月16日～2020年3月31日	—
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 稲荷善之）	新潟県教育委員会（教育長 武藤克己）
調査	公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団	財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総括	清野 一善（事務局長）	木村 正昭（事務局長）
管理	松田 英祐（總務課長）	齊藤 栄（總務課長）
庶務	小野澤浩嗣（總務課班長）	長谷川 靖（總務課班長）
調査総括	沢田 敦（調査課長）	藤巻 正信（調査課長）
調査担当	石川 智紀（調査課課長代理）	田海 義正（調査課試掘担当課長代理）
調査職員	塙野 寛人（調査課文化財調査員）	高野 義昭（調査課主任調査員）
支援組織	吉田建設・帆荔枝特定共同企業体	
	現場代理人：小川昭二（吉田建設）	
	調査員：笛澤正史、中俣 茂、松井 智 田中万里子、野口沙愛（以上、吉田建設） 高橋 均、石橋夏樹（以上、帆荔枝）	

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

境塙遺跡は、阿賀野市白津字境塙 16 番地 1 ほかに所在する（第4図）。阿賀野市は、新潟県の北東部に位置し、2004年4月に安田町・水原町・笛神村・京ヶ瀬村の4町村が合併して誕生した人口約4万1千人の新市である。周囲は、新潟市・新発田市・五泉市・東蒲原郡阿賀町と接する。阿賀野市の地勢は、東に標高 973.5m の菱ヶ岳を主峰とする山々が北東—南西方向に約 20km 連なる五頭山地と、山地との間に低地を挟んで標高 100m ほどの笛神丘陵が分布し〔笛神團体研究グループ 1976・1980〕、西・南・北には信濃川と阿賀野川の沖積作用により形成された越後平野が広がる。

五頭山地の大部分は、五頭花崗岩類と呼ばれる風化が著しいマサ化した花崗岩からなり〔笛神團体研究グループ 1976・1980〕、山地からは折居川・大荒川・安野川などの小河川が笛神丘陵を開削して平野に流れ込んでいる。これらの小河川は、北西から南東方向に狭い帯状の自然堤防を形成して福島潟へと流入し、福島潟の排水路としての機能を持つ新井郷川を経由して阿賀野川へと合流している〔新潟県 1975〕。



第4図 遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川 (第232集『境塙遺跡』から転載・一部加筆)

(大日本帝國陸地測量部発行 大正8年「新潟」「新津」1:50,000原図)

阿賀野川は、福島県南会津郡南会津町の荒海山を水源とし、会津盆地を抜け新潟・福島県境の峡谷を通して五泉市馬下付近で越後平野へ入り、阿賀野市水曾根・金瀬乙・新潟市沢海付近で大きく蛇行を繰り返しながら新潟市笹山付近で直線的な流路となって日本海へ注ぐ。現在の河口付近の流路は、1730（享保15）年の新発田藩による松ヶ崎堀割り開削とその後の洪水による流路変更で本流となつた【北陸地方整備局阿賀野川工事事務所 1988】もので、堀割り開削以前は新潟砂丘の手前で南に折れて信濃川と合流していた。この地は現在新潟港となっており、古代においては延喜式に記載される「蒲原津」として機能したと推定されている。

阿賀野川水害地形分類図【北陸地方整備局阿賀野川工事事務所 1984】や航空写真を見ると、かつての阿賀野川は笹山丘陵近くを流れていた痕跡があり、蛇行を繰り返す中で沖積作用により西へ流路を変更した結果、平野に自然堤防や微高地、潟湖、後背湿地を数多く残した。1645（正保2）年「正保越後国絵図」には、境塚遺跡に隣接する六日野の近くに「百津潟」が描かれており、また、1816（文化13）年「越後輿地全図」にも「古川蹟」と書かれた三日月状の範囲が記されていることから、阿賀野川の流路変更に伴い三日月湖となったものが百津潟と考えられている【成田 2000】（第4図）。さらに、1823（文政6）年「九月調の絵図」には百津潟に笹山丘陵から小河川が幾つか流れ込んでいた様子も描かれていて<sup>注1)</sup>。近世の頃には百津潟が福島潟同様に内水面交通の結節点として機能していたと推測されている【成田 2000】。

現在の境塚遺跡周辺は、1927～1931（昭和2～6）年ころに行われた耕地整理により水田地帯となっているが、これ以前は桑畑を中心とする畠地であり、比較的標高の高い場所であった。安定した自然堤防が存在し、旧阿賀野川を利用した内水面交通の便に適した場所であったことが、この地に境塚遺跡が成立した理由のひとつと考えられよう。

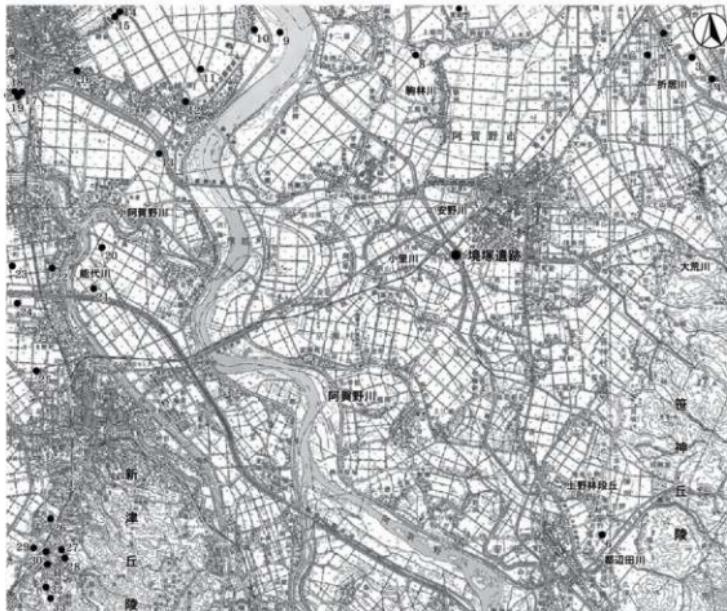
## 2 歴史的環境

### A 古墳時代

阿賀野市域の古墳時代の遺跡は、分布調査を含めても5遺跡に過ぎない。隣接する市町村まで範囲を広げても境塚遺跡周辺では50遺跡に満たず、現状での古墳時代の遺跡数は非常に少ない（第5図）。

これまで調査された古墳時代の遺跡は、旧阿賀野川により形成されたと考えられる自然堤防（1・6・10～12）、中・小河川の自然堤防（2～5・7・8・21・22）、後背湿地の微高地（13・20・23～25）、砂丘または砂丘間低地（14～19）、丘陵または丘陵縁辺（26～33）に立地している。自然堤防や丘陵・砂丘に遺跡が多く分布するのは、より安定した土地を居住の場とした結果であろう。一方で、低地の微高地にも幾つかの遺跡があり、多少不安定な土地であっても居住地や耕作地の拡充を図るために積極的に低地を開発していくものと考えられる。また、新津丘陵には、弥生時代後期～古墳時代初頭の高地性環濠集落である古津八幡山遺跡【渡邊ほか 2001】や古墳時代前期末～中期初頭の古津八幡山古墳【相田ほか 2014】があり、阿賀野川流域の拠点となっていた。

境塚遺跡周辺の古墳時代の遺跡は、旧阿賀野川と考えられる大河川の自然堤防に境塚（1）【古澤ほか 2011・荒川ほか 2016】・雲雀田遺跡（6）【渡辺 1973】、小河川である折居川の自然堤防に腰廻（2）【川上 2002】・上高廻（4）【中山・渡辺 2001】・前田（3）【川上 1999】・高畠遺跡（5）【遠藤 2003】が分布する。雲雀田遺跡の遺物は、詳細は不明ながらも報告写真から古墳時代前期と推定できる。境塚遺跡も前期の遺物のみの出土であり、旧阿賀野川と推定される河川の自然堤防に立地する遺跡は、流路変更による浸食・



第5図 境塚遺跡周辺の古墳時代遺跡の分布

(国土地理院地形図 2005「新潟」・1997「新潟」・1997「天王」・1999「津川」 1:50,000を改変)

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	境塚	4	白河荘	11	田原城	16	龜田八幡宮	21	神ノ島
2	腰掛	7	羽根	12	新田城南	17	日木庄	22	中村
3	前田	8	山田城敷	13	上郷	18	日木	23	高岡
4	上高岡	9	小谷中村	14	山人里	19	日木前	24	上郷
5	140m	10	柏原寺	15	日木	20	中村内	25	山人里
								26	東島大船
								31	高天
								32	古津ハ幡山古墳
								33	古津ハ幡山

第1表 境塚遺跡周辺の古墳時代遺跡一覧

氾濫等を受けやすかつたためか短期間で廃絶している。一方、折居川の自然堤防に立地する遺跡は、左岸に位置する高畠遺跡を除き古墳時代前期～中期もしくは後期まで存続しており、流路変更の影響が少ない丘陵側の右岸を主な生活の場としたことにより、長期に及ぶ活動が可能となつたのであろう。

## B 古代・中世

1134(長承3)年に藤原忠道の娘である嘉門院領として白河荘が立莊される。中野豈任は、白河荘の範囲は現在の阿賀野市域とおおよそ一致するとし(第6図)、その開発は荘名の由来となったと考えられる大荒川(白川)流域を中心に篠神丘陵西縁辺から進められたとしている〔中野1967〕。この地域は、福島潟へ流入する各小河川を利用した内水面交通による輸送の便もあり、丘陵で須恵器製作・製鉄などの手工業生産が行なわれるなど、古代においても盛んに開発が行われた。また、「健児」木簡が出土し「兵庫」があつたと考えられている発久遺跡や、腰廻遺跡などの官衙関連施設も設置されており〔相沢2004〕、篠神丘陵西縁辺は、古代における越後国の開発拠点の一つとして機能していた。

その後、白河荘は1180（治承4）年に嘉門院から猶子の九条良通へと譲与されて九条家領となるが、当時の阿賀野市域は「白川御館」と呼ばれた城助職を中心とする越後平氏の城氏一族の勢力下にあった〔樋口2004〕。阿賀野市寺社に所在する大坪遺跡は、11世紀後半～12世紀初頭頃の有力者層の居宅と考えられる大型四面庇付掘立柱建物や多数の建物、木棺墓が検出され、新潟県内では抜きんでた量の白磁II・IV・V類焼が出土していることから、旧阿賀野川の内水面流通網を掌握して成立した城氏の本拠地と目されている〔荒川ほか2006〕。白河荘立荘の背後には城氏の積極的な開闢も指摘されており〔樋口2004〕、白河荘成立以前の城氏一族の経済活動や権勢を推測させる遺跡として注目される。

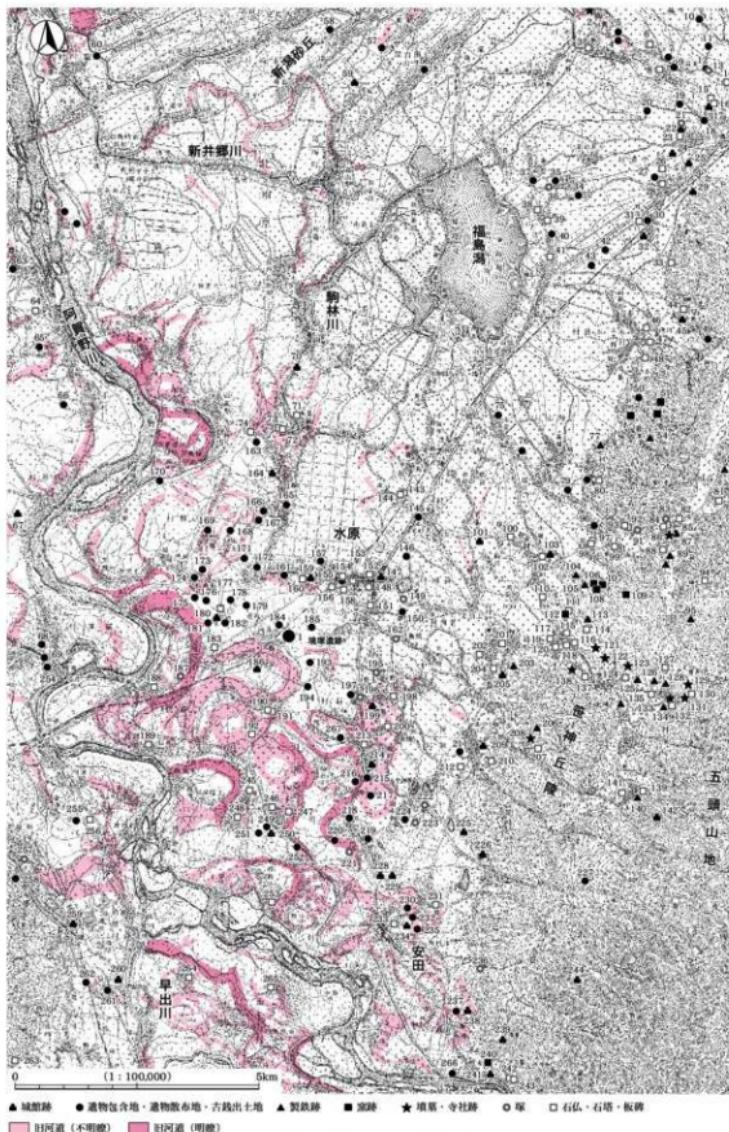
治承・寿永の内乱後城氏は没落し、越後国は源頼朝の將軍知行国となって鎌倉幕府の管轄となり、鎌倉御家人の大見氏が地頭職を得て入部する。大見氏が白河荘の地頭職を得た時期は明らかでないが、1281（弘安4）年に大見行定が譲状を作成していることからこれ以前であり、源頼朝の挙兵に応じた大見秀家が新恩で得たとされる〔田村1987〕。

鎌倉時代の白河荘は、上条の安田条と下条の山浦四箇条・水原条・船江条に区分され、下条の山浦四箇条を大見氏の惣領が、それ以外が庶子に伝領された。しかし、鎌倉時代末期に安達時頸が地頭職を拌領して以後は、1336（建武3）年の大見能登權守代加治岡政光忠状に「白河庄山浦条地頭大見能登權守」が見え、鎌倉幕府滅亡後大見氏が地頭職を再び一時に掌握した可能性も考えられている〔樋口2004〕が、以後の史料からは大見氏が室町時代以降も地頭職を得ていたかは不明である。地頭職罷免後は、一分地頭職と



第6図 白河荘の区分（中野〔1967〕から転載・加筆）

注1)「九月調の絵図」は、描かれている村の位置が作成されたとされる1823（文政6）年当時と異なる部分がいくつあることから、1823年以前の1757（宝曆7）年～1776（安永5）年ころの状況を描いたものと推測されている〔成田2000〕。



第7図 周辺の中世遺跡分布（第278集『境坂遺跡』から転載）

（大日本帝國陸地測量部発行 大正3年「津川」 大正8年「新潟」「新発田」「新津」 1:50,000原図、旧河道は大矢・加藤 [1984] を参考。）

もいうべき下級の地頭職を得て命脈を保ち、以後山浦氏・安田氏・水原氏を名乗って「白川之面々」と呼ばれる国人領主として所領の一部を保持して勢力を維持していたとされる〔樋口2004〕。

阿賀野市域の中世の遺跡は、平野の旧阿賀野川流域と中小河川の自然堤防に館や集落が立地し、丘陵と山地に山城や寺社・塚・石塔などの宗教関連施設、窯や製鉄などの生産遺跡が分布する（第7図）。

中世の境塙遺跡の盛期は、既往の調査成果から判断すれば、掘立柱建物の形式が梁間一間または二間主体であること、及び遺物の時期と年代測定値から13世紀中葉～14世紀前半にあり、大見氏の地頭在職期間とおむね一致している。検出された遺構は、道路状遺構を基軸として、溝で区画された複数の敷地内に建物や井戸等が配置されており、一定の計画の下に集落が形成された状況を示している〔荒川ほか2012・2016〕。荒川隆史は、区画のあり方や建物規模、大型井戸・埋納鉄・埋設甕等の遺構分布状況と、場所によって遺物組成が異なる点に注目して、境塙遺跡の集落構造を「居館エリア」、「町場エリア」、「流通エリア」と仮称して区分し、大見氏が閑与して成立した『町』と評価している〔荒川2016〕。また、上述の大坪遺跡は、13世紀～14世紀の遺物が定量出土していることから、城氏滅亡以降も水運の要所としての立地を生かして集落が再編されたと考えられる。文献史学の立場からも、白河荘内の跡跡が水運や陸上交通の要所に点在し、付近に舟着場や市が存在したとの見解〔中野1967〕が出されており、鎌倉御家人の入部以降、地頭をはじめとした有力者層が、白河荘内で館を拠点に物資を管理・輸送するのに適した場所で、土地開発を積極的に推進した様子が窺える。

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	塙跡	40	曾根	79	志本村	118	高畠草木古墳	157	新屋	196	七ツ屋
2	高寺寺跡	41	天守塙	80	德兵衛石垣	119	高山家宅古墳	158	無聲寺の石仏	197	原
3	常光寺石造物群	42	加治万代天塙	81	時村今石垣	120	高山家宅古墳	159	下条御跡	198	高田家蔵の石仏
4	五反畠	43	伊野	82	柳原石垣	121	高山鬼跡群	160	舟井寺の石造物	199	野坂城跡
5	本尾塙	44	岡田鬼跡	83	上条の塙跡群	122	高入寺鬼跡群	161	上条村	200	西条の石仏
6	西宮内高寺寺古墳群	45	河内鬼跡跡	84	朝日寺石垣	123	高光寺跡	162	泥原	201	人見城の石仏
7	埴塙	46	高森寺跡	85	猪俣家宅古墳	124	高石垣	163	山島城跡	202	御の石仏
8	西院の石塙	47	舟山寺今石垣	86	上ノ山鬼跡群	125	多良田御跡遺跡	164	飼翁堂古跡	203	糸
9	北森口	48	酒井小林石垣	87	女房跡	126	多良田	165	上内西	204	船岡寺の石仏
10	荒神塙	49	月岡カリンパーク	88	舟石寺	127	瀬ノ河原石垣	166	轟	205	山城跡
11	渡取塙	50	鹿島山	89	西山	128	祖	167	西河原町内C	206	タラノ里
12	上津田	51	北山塙	90	西山	129	中條中野墓地	168	大猪	207	寺谷石垣
13	北森口の塙	52	鍋立山御跡	91	2013年	130	豊多竹山遺跡群跡	169	吉原宿	208	バサキ寺
14	ツバキ明神古社	53	丸山	92	2014年	131	虎の山世界遺産	170	下呂谷	209	大城跡
15	長岡内鬼跡群	54	サガノ	93	星原寺石垣	132	高井伊世界遺産	171	大日山	210	御子今石仏群
16	長岡内石垣	55	佐木	94	大隈御跡	133	高井伊鬼跡跡	172	日吉宿	211	御跡
17	池之内鬼跡群	56	中島山	95	吉野	134	人見沢御跡	173	本出	212	上野沢
18	鳴塙	57	松原	96	家の岡	135	高山家宅古墳跡	174	町道上	213	山家家の石仏
19	九枝田	58	内鬼跡	97	光石寺石垣	136	大塚	175	村宿	214	御跡
20	難田	59	城内鬼跡	98	難田寺石垣	137	大林山高森遺跡	176	村東A	215	鹿尾
21	難化寺の塙	60	牛山	99	上ノ石垣	138	大林山高森遺跡	177	清水寺石垣	216	跡
22	下中ノ日御跡	61	下良川原	100	中野家宅石垣	139	曾根草木古墳	178	柄日本	217	御陣屋
23	下中ノ日石垣	62	森下古跡	101	海辺鬼跡群	140	大杉御跡	179	山口	218	佐和御跡B
24	法正御跡	63	入原	102	高柳寺石垣	141	村松石垣	180	下ノ御跡	219	入原
25	乙次御跡	64	山田石垣	103	曾根石垣	142	大杉城跡	181	船跡	220	八
26	明持石垣跡	65	楓山	104	中ノ原	143	中野の舟井櫻園石垣	182	森の木	221	八幡野
27	御田	66	御田	105	御田	144	御田の舟井の石垣	183	御田村	222	御場駅
28	石塙	67	越後御跡	106	御田中野跡	145	著	184	山口町中	223	御陣屋
29	志村中野御跡	68	羽村御跡	107	尾上石垣	146	十貫	185	二郎岡	224	志村中野石垣
30	竹保内	69	今子	108	光中野御跡	147	中原御跡	186	七鬼跡	225	竹保内
31	竹保内代高石垣	70	山丸御跡	109	曾根中野御跡	148	中野の石仏	187	カツラ蝶	226	代高石垣
32	油山内代御跡	71	甲敷野むら	110	志村山中野遺跡物	149	中野の塙	188	小堀宿	227	油山
33	万代御跡石垣群	72	上郷の石垣C	111	鶴飛石垣古石垣	150	舟井高森古石垣	189	高森山高森御跡	228	見附御跡
34	人坪	73	志村の石垣	112	鶴飛石垣跡	151	長塚今石	190	中野明神の石仏	229	高森山
35	越島	74	志村の石垣A	113	舟井の石垣	152	美栄今石の石仏	191	中野の舟井の石仏	230	人坪
36	足敷村	75	御跡	114	舟井石垣	153	川原宿	192	美林の石仏	231	足敷石垣
37	上郷の塙	76	山岡	115	高砂寺中道遺跡	154	雙吉寺	193	高砂寺	232	山岡
38	ツノ原石垣	77	御塙御跡	116	物音川神社石垣	155	山原	194	石井川東	233	季原今石の石仏
39	ツノ原石垣	78	高寺今石	117	山原御石垣	156	西原今石の石垣	195	久須寺の御中塙	234	山原御跡

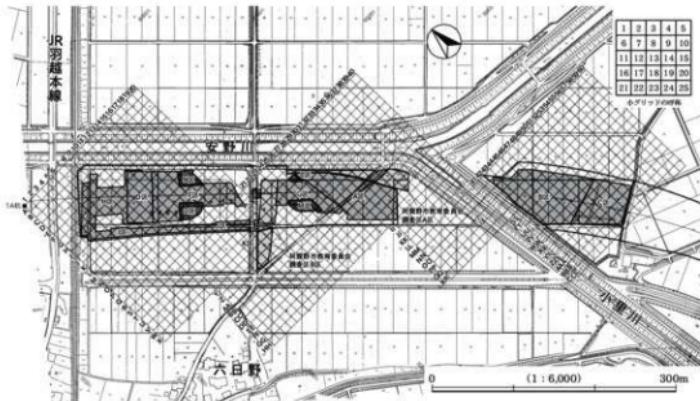
第2表 周辺の中世遺跡一覧（第278集『境塙道路図』から転載）

## 第III章 調査の概要

### 1 グリッドの設定

グリッドの設定は、2009年度に設定したものを踏襲した（第8図）。グリッドの方向は真北を基準に設定し、国家座標のX座標=203340.000（北緯37度49分49.23542秒）<sup>1)</sup>、Y座標=62300.000（東経139度12分27.87838秒）<sup>1)</sup>を基点（1A杭）<sup>2)</sup>とし、南北・東西それぞれ10mの方眼を組み、大グリッドとした。なお、座標値は2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（気象庁）」に伴う地殻変動の影響により、地震の前後で値に変動が生じた。地震後の1A杭の座標値はX座標=203339.784（北緯37度49分49.22816秒）、Y座標=62301.0296（東経139度12分27.92042秒）である。

大グリッドの呼称は、遺跡を覆う方眼を西から東に向けて算用数字（1・2・3…）、北から南に向けてアルファベット（A・B・C…）を付し、これを組み合わせた。両者の組み合わせにより「16K」「25X」のように表示した。小グリッドは大グリッドの中を2m四方に25分割した。小グリッドには1～25の番号を付し、北西隅を1、南東隅を25となるように配列した。グリッドは大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「16K2」「25X25」のように表記した。遺構の検出位置および、包含層出土遺物の地点などは、基本的に大グリッドと小グリッドを組み合わせて記録した。なお、本发掘調査区と阿賀野市教育委員会の調査区とはグリッド設定・呼称を統一している。

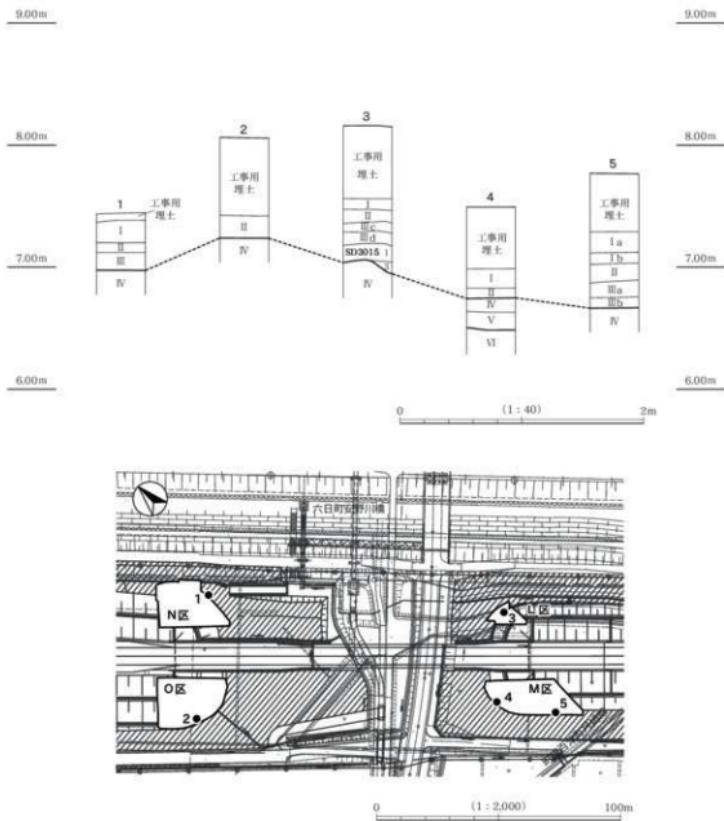


第8図 グリッド設定と調査区

1)『塙塙遺跡』〔荒川ほか2012〕・『塙塙遺跡II』〔荒川ほか2016〕報告の経緯度は間違いである。本報告の数値に訂正する。  
2)『塙塙遺跡』『塙塙遺跡II』『塙塙遺跡III』の各報告書における「基点（AO杭）」は誤表記で、「基点（1A杭）」に改める。

## 2 層 序

遺跡は旧阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する。現況は工事用の埋土で覆われており、以前の状態は、水田であった。調査区は昭和初期の耕地整理・開田によって遺物包含層が削平されており、耕作面直下が遺構検出面となる範囲が多い。基本層序は2014年度調査〔荒川ほか2016〕に準じてI～VI層に分層した(第9図)。遺構面は、上層・古代中世(V層)、中層・古墳時代(VI層)、下層・縄文時代晚期(VII層)の3面に存在することが明らかになっている〔荒川ほか2012, 2016〕。今回の調査区では、遺跡全体に広がっていた上層面と、M区北側で検出した中層面の調査を行った。



第9図 基本層序柱状図と位置図

- I層 表土・耕作土。M区南側で2層に細分され、Ia層・灰色シルト(N5/)は現代の耕作土、Ib層・褐灰色シルト(10YR4/1)は現代の圃場整備時における盛土である。
- II層 黄灰色シルト(2.5Y5/1)炭化物を微量含む。M区においては褐灰色シルト(10YR5/1)となり、スコリアらしき層を含む。近世以降～昭和以前の耕作土と考えられる。
- III層 褐灰色シルト(10YR4/1)を主体とする層である。L・M区では2層に細分できる。M区ではIIIa層(褐灰色シルト10YR4/1)とIIIb層(灰黄色シルト2.5Y6/2)の2層に、L区ではグライ化が進むためか、M区と若干色調が異なりIIIc層(灰黄褐色シルト10YR6/2)とIIId層(褐灰シルト7.5YR5/1)の2層に細分した。総じて中世の遺物包含層と考える。
- IV層 黄褐色シルト(10YR5/6)を主体とする層である。IV層上面は、2019年度調査区での中世の遺構検出面となっている。
- V層 黄褐色シルト(10YR5/6)を主体とする層である。M区北側では多くの古墳時代の土師器が確認されており、古墳時代の遺物包含層と考えられる。
- VI層 黄灰シルト(10YR6/1)を主体とする層である。2014年度調査では古墳時代の遺構検出面の可能性を示唆していたが、今回の調査でVI層上面が古墳時代の遺構検出面であることが確認できた。

# 第IV章 遺構

## 1 記述の方法と遺構の分類

### A 基本方針

遺構の説明は、本文（遺構各説）・観察表・図面図版・写真図版を用いた。すべての遺構について種別・グリッド・出土遺物・規模等を記載した観察表を作成した。遺構の平面形態及び計測値は、遺構検出面での数値である。特に重要と思われる遺構について、本文・図面図版・写真図版での解説を加えた。写真図版は選択して掲載した。遺構各説は、基本的に下記の種別（SB → SE → SK → SD → P）、遺構番号（小→大）の順で記述した。土層の色調は『新版 標準土色帖』[小山・竹原 1998]に掲載した。

### B 遺構の表記方法

遺構名は、遺構種別の略号と数字の組み合わせとした。遺構種別の略号は、掘立柱建物を「SB」、井戸を「SE」、土坑を「SK」、溝を「SD」、ピットを「P」とした。遺構番号（算用数字）は、時代・グリッド・種別に関係なくすべて検出順の通り番号とし、遺構種別の後ろに番号を付した。過年度調査との番号の重複を避けるため、2019年度調査との番号の重複を避けるため、2019年度調査は6001番から6247番を使用した。掘立柱建物も認識された時点と同様に番号を付したが、個々の柱穴の遺構名はそのままとした。なお、N区拡張区で検出された井戸（SE6006）以外の遺構は、今年度調査で掘削対象外とされたことから、別個に（1）～（11）の仮番号を付し、図版10及び遺構観察表に記載した。

### C 遺構の形態分類

遺構の平面形態及び断面形態は【加藤1999】の分類基準、埋土の堆積状況の分類基準は【荒川2004】に準拠した（第10・11図）。平面形の規模は主軸方向を考慮して計っているが、部分的に極端な張り出しがある場合は、全体の形状を考慮して、残存率が高い位置で計測している。短径は基本的に長径と直交する方向の最長部で計測した。深度（深さ）は遺構検出面からの最深部を計



第10図 遺構の平面・断面形態の分類 [加藤1999]



第11図 遺構覆土の堆積形状の分類 [荒川2004]

測した。井戸と土坑の分類については、規模及び埋土堆積状況や遺物出土状況を考慮して判断した。主軸方向は遺構の長軸を基準に真北から東西に傾く角度を測定し、「N-10°-E」のように表記した。

重複関係は「<」・「>」・「=」・「≠」の記号を用い、観察表に記した。記号の内容は「<P1」とは、P1に切られ、「>P1」とはP1を切っていることを示し、「=P1」はP1と同時期、「≠ P1」はP1と重複関係にあるが、新旧が不明なことを示す。

## D 掘立柱建物

柱穴（ピット）が方形または長方形に一定の間隔で並ぶものを掘立柱建物とした。柱間の多い方向を「桁行・桁間」（長軸）、少ない方向を「梁行・梁間」（短軸）とした。規模および床面積の値を本文及び観察表に示したが、桁行長・梁行長は最大値とし、床面積はその乗算値とした。軸方位は、主軸長の方向について真北を基準として東西に傾く角度を計測した。

## 2 概 要

### 遺構・遺物の検出状況

今回の調査において遺構は、調査区のはば全域で検出したが、一部N区南側およびO区北側で若干の遺構密度の希薄な一帯も確認できた。検出した遺構の大半は、IV層上面（中世以降）で検出した。内訳を調査区別にみると、L区では土坑1基、溝2条、ピット4基、M区では掘立柱建物4棟、土坑13基、溝14条、ピット99基（掘立柱建物の柱穴も含む）、N区では掘立柱建物3棟、井戸1基、土坑6基、溝3条、ピット87基、O区では溝8条、ピット5基である。このうちM区の土坑2基、溝1条、ピット2基はVI層上面で検出できることから古墳時代の所産と考えられる。

古代遺構の遺物は全体的に包含層のものも含めて少量であった。古墳時代の遺物はM区23・24X・YグリッドのV層およびSK6231・SD6232から比較的多く出土した。また、N区の中世の井戸SE6006から曲物を利用した水溜（71）とそれを固定するための杭（70）が出土した。

### A L区の遺構

#### a 土 坑 (SK)

SK6001 (図版4・23)

26W4グリッドに位置する。平面は円形で、断面は台形状を呈する。埋土は単層で、径10～20mmほどの大きさの地山ブロックを多量に含むことから、人為的に埋め戻された可能性が高い。

#### b 溝 (SD)

SD3015 (図版4・24)

26Vグリッドに位置する。2014年度調査G区のSD3015と同一遺構と判断したため、同一番号を付して調査を行った。また、M区SD6167および、阿賀野市調査A区のA2-117とも繋がると思われる。この溝の構築時期について、阿賀野市調査区では時期不明、県調査区（G区）では近世以降と判断されている。特徴的な形態として、両岸にテラス状の高まりを持っている。埋土はレンズ状に4層堆積しており、その状況から2時期にかけて埋まっていたものと推測できる。出土遺物は、26V1層から瀬戸・美濃焼

(30)、青磁(31～33)等の陶磁器が出土し、近世以降の遺物は出土しなかった。

#### SD3025 (図版4・24)

26Vグリッドに位置する。2014年度調査G区のSD3025と同一遺構と判断したため、同一番号を付して調査を行った。埋土はレンズ状に4層堆積しており、その状況からSD3015と同じく、2時期にかけて埋まっていたものと推測できる。出土遺物は土師質土器が2層から出土した。

### B M 区 の 遺構

#### 1) 古墳時代の遺構

##### a 土 坑 (SK)

土坑は2基検出した。土坑内及び土坑周辺の包含層からも多量の古墳時代の土師器壺、高杯、鉢、有孔鉢、甕が出土した。

##### SK6227 (図版3・21・22)

23X14・15・19・20、24X16グリッドに位置する。西側が調査区外で不明だが、平面形は主軸方位N-72°-Wの長方形に近い形状と考えられる。東側は深さ5cm程だが、西側は1段落ち込み、深さは51cmとなる。埋土は灰黄色シルトを主体とし、落ち込み部のみ2層に分層できたが、2層からの遺物の出土はなかった。遺物はSK6231・SD6232出土遺物と接合し、1層出土の土師器壺(1・2)の2点を図化した。

##### SK6231 (図版3・21～23)

23Y15・20、24Y11・16グリッドに位置し、西側が調査区外となる。SD6232と一部重複し、これより古い。主軸方位はN-74°-Eで、平面形は不整形を呈し、断面形は台形状で、深さは約15cmである。西側半分は現代の搅乱を受けていたが、残存する埋土は灰色シルトを主体とし、2層に分層できる。調査区全体の遺物分布状況でもこの遺構内外に遺物が集中することから、竪穴住居の可能性も考えたが、柱穴や明確な掘り込みが認められないことから土坑と判断した。遺物は埋土1層から土師器が多量に出土し、その中から壺(1・2)、器台か鉢の脚部(3・4)、鉢(5・6)、有孔鉢(7)、甕(8～16)の15点を図化した。

##### b 溝状遺構 (SD)・ビット (P)

溝状遺構1基、ビット2基を検出した。溝状遺構SD6232の出土遺物は、SK6227・6231の出土遺物と接合が確認されていることから、周溝の可能性も考えられる。

##### SD6232 (図版3・22・23)

24Y12グリッドを中心位置し、平面形は帯状の不整形で深さも浅く、南側は後世の地形改変で削られて形態が不明となる。遺物の出土状況や断面形態から溝状遺構とした。中世の遺構SD6168、P6183・6199・6215・6218・6230・6245に切られている。SK6231、P6246と重複しこれより新しい。主軸方位はN-38°-Eで、断面形は弧状を呈し、深さは20cmである。埋土は灰白色シルトの単層で、土師器が多量に出土した。SD6232内にP6246が、東側に近接してP6247が検出され、ビットを結ぶラインは、SD6168の主軸方位に直交することから関連する遺構の可能性が考えられる。遺物は土師器の器台(18)、壺(1・2・19)、甕(20)の4点を図化した。

## 2) 中世以降の遺構

### a 掘立柱建物 (SB)

上層では掘立柱建物を4棟検出した。すべて側柱建物になる。SB6145は西側が調査区外に続いていて、全容は不明である。SB6248は2014年度調査G区のピット群に繋がる可能性がある。G区の調査では、SD3015(M区SD6167)以東で検出された遺構は、埋土が灰色系のシルトを主体とする点が共通する。近世以降の遺物が多数出土するものが多く、また直線状の溝は明治時代の土地更正図と一致するものが認められる。よって近世以降の遺構である可能性が高いと判断され、平面形状の記録のみで調査を終了している。M区で検出した遺構も時代が降る可能性はあるが、ピット内から近世以降に属する遺物が出土しないこと、SD3015以西で検出した掘立柱建物(SB6145・6249)と主軸方位や柱穴で共通性が認められることから、今回は調査対象とした。ピット内からの出土遺物は、SB6249のP6197から瀬戸・美濃焼片が1点出土した。その他に明確な時期を特定できる遺物の出土はない。掘立柱建物の重複があるので少なくとも2時期の変遷が考えられる。

#### SB6138 (図版6・24・25)

24・25Y・Zグリッドに位置する。主軸方位の異なるSB6248の建物範囲と重複するが新旧関係は不明である。梁間1間、桁行3間の側柱建物で、P6148とP6123のほぼ中間にP6122が位置するので、建物を構成する柱穴と判断した。梁行長4.03m、桁行長7.67m、梁間柱間長4.03m、桁間柱間長2.25～3.32m、面積30.91m<sup>2</sup>、主軸方位はN-68°-Wである。柱穴は平面が円形または梢円形、断面はU字状または階段状を呈し、径29～45cm、深さは26～46cmである。

#### SB6145 (図版6・25・26)

24X・Yグリッドに位置する。SB6249と建物範囲が重複し、P6215(SB6145)とP6218(SB6249)の新旧関係からSB6249より古い。梁間1間、桁行3間以上の側柱建物で、梁行長4.83m、桁行長5.80m、梁間柱間長4.83m、桁間柱間長1.67～2.54m、面積28.01m<sup>2</sup>以上、主軸方位はN-77°-Wである。桁行は西側調査区外に続く可能性がある。柱穴は平面が円形または梢円形、断面は半円またはU字状、階段状を呈し、径27～57cm、深さは9～53cmである。遺物はP6218・6230から古墳時代の上器が出土しているが混入である。

#### SB6248 (図版7・25・26)

25Yグリッドに位置し、SB6138と建物範囲が重複するが新旧関係は不明である。北東側が過年度調査で不明だが、梁間2間、桁行2間以上の側柱建物と考えられる。梁行長3.56m、桁行長3.29m、梁間柱間長1.46～2.05m、桁間柱間長1.43～1.90m、面積11.71m<sup>2</sup>以上、主軸方位はN-80°-Eである。柱穴は平面が円形または梢円形、断面は半円またはU字状を呈し、径28～37cm、深さは15～51cmである。遺物はP6166から時期・種別不明の鉄製品が出土した。

#### SB6249 (図版7・25・26)

24X・Yグリッドに位置する。梁間1間、桁行3間の側柱建物と考えられる。柱筋から南北隅柱を検出できなかったが、SB6145のP6182と共有する可能性がある。SB6145の建物範囲と重複するが、前述のとおりSB6145より新しい。梁行長3.78m、桁行長5.98m、梁間柱間長3.78～4.32m、桁間柱間長1.74～2.22m、面積22.60m<sup>2</sup>、主軸方位はN-72°-Wである。柱穴は平面が円形または梢円形、断面はU字状または階段状を呈し、径30～48cm、深さは18～43cmである。遺物はP6197の埋土1層

から瀬戸・美濃焼片（34）が1点出土した。

### b 土 坑 (SK)

土坑は9基検出した。9基のうち6基は掘立柱建物に近接もしくは重複して検出されている。土坑も掘立柱建物と同様に、重複関係から少なくとも2時期の変遷が考えられる。遺物は、押印のある瓷器系陶器壺、古墳時代の土師器が出土している。

#### SK6095 (図版8・27)

23Y4・5グリッドに位置する。SD6191、SK6189と重複し、これより新しい。西側半分が調査区外となる。SB6145に近接し、平面形は梢円形を呈し、断面形は弧状で、深さは70cmである。主軸方位はN-31°-Eである。調査区西壁面で観察した埋土は5層に分層でき、全体にシルト質で、炭化物を少量含む黄褐色シルトを主体とするが、4層は黒褐色シルトとなる。

#### SK6139 (図版8・27)

24Y15、25Y11グリッドに位置する。SD6167、SB6248のP6166と重複し、これより新しい。平面形は円形を呈し、断面形は弧状で、深さは25cmである。主軸方位はN-48°-Eである。埋土は褐灰色シルトで、2層に分層できる。

#### SK6147 (図版8・27)

24Z4グリッド、SB6138の南隅に近接する。SD6113とほぼ重複するが、これより古い。平面形は梢円形を呈し、断面形は弧状で、深さは25cmである。主軸方位はN-12°-Eである。埋土は黄褐色シルトを主体とし、2層に分層できる。遺物は古墳時代の土師器が出土しているが混入である。

#### SK6163 (図版8・27)

調査区南東隅の25AA9グリッドに位置する。東側1/3が、2014年度調査区に位置するが、検出されていない。平面形は梢円形を呈し、断面形は弧状で、深さは32cmである。主軸方位はN-6°-Eである。埋土はマンガン粒子を含む黄灰色粘土で、2層に分層できる。

#### SK6189 (図版8)

23Y5・9・10グリッドに位置する。SK6095より古く、SD6187・6191より新しい。平面形は不整形を呈し、断面形は弧状で、深さは23cmである。主軸方位はN-6°-Eである。

#### SK6201 (図版8・27)

24Y9グリッドに位置し、SB6249の東側梁間に近接する。SK6202と重複し、これより新しい。平面形は梢円形を呈し、断面形は弧状で、深さは23cmである。主軸方位はN-9°-Eで、単層の埋土は炭化物を少量含む褐色シルトである。

#### SK6202 (図版8・27)

24Y9・14グリッドに位置し、SK6201より古い。平面形は梢円形を呈し、断面形は弧状で、深さは28cmである。主軸方位はN-39°-Wである。埋土は黄褐色シルト、褐色シルトの2層に分層できる。

#### SK6207 (図版8・28)

23X20・24・25グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、断面形は弧状で、深さは15cmである。主軸方位はN-41°-Eである。埋土は褐灰色シルト、灰黄色シルトの2層に分層できる。

#### SK6213 (図版8・28)

24Y13・14・18・19グリッドに位置し、SB6145の建物範囲と重複するが、SB6145との新旧関係

は不明である。P6220 より新しい。平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状で、深さは 17cm である。主軸方位は N-28°-E で、東側に隣接する SD3015 の主軸方向とほぼ同じである。埋土は暗褐色シルト、灰黃褐色シルトの 2 層に分層でき、炭化物を少量含む。遺物は古墳時代の土師器が出土しているが混入である。

#### SK6223 (図版 8・28)

24Y10 グリッド、SB6249 の東側に位置する。SD6167 と重複し、これより新しい。平面形は円形を呈し、断面形は弧状で、深さは 14cm である。主軸方位は N-63°-W である。埋土は黄褐色シルトを主体とし、2 層に分層できる。土坑底面からは押印のある瓷器系陶器壺（35）が出土した。

#### c 溝 (SD)

溝は 14 条検出した。北東から南西方向、主軸方位 N-22°～29°-E の範囲の溝が 4 条、その溝に直交もしくは L 字状、コの字状を呈す溝が 9 条である。全体が方形区画の溝は、他の調査区にも認められる。ほとんどの溝が 2014 年度調査 G 区の溝と繋がる。現代の溝である SD3007 と主軸方向がほぼ同じ（平行・直交）溝が多いが、それは平坦な地形の勾配に規制された場所に溝が構築された結果と考える。遺物は、土師質土器、珠洲焼、鉄製品、古墳時代の土師器が出土した。

#### SD6111 (図版 5・9・28)

24・25Z グリッドに位置する。一辺の長さ約 2.5m、現状ではコの字状を呈する溝で、南西側が調査区外に続いている。SD6132、P6185・6214 と重複し、これより古い。断面形は弧状で、深さは 6～8cm である。主軸方位は、東西 N-76°-W、南北 N-21°-E である。埋土は単層で、粘性の強い灰色粘土である。

#### SD6113 (図版 5・9・28・29)

2014 年度調査 G 区で検出された溝の延長で、24・25・26Z グリッドを東西方向に延びる。重複する SD6167、P6133 より古く、SD6177、SK6147 より新しい。断面形は弧状で、深さは 9～16cm である。主軸方位は N-71°-W である。埋土は単層で、粘性としまじりの強い褐灰色シルトである。

#### SD6114 (図版 5・9・28)

25Z・AA グリッドを東西方向に延び、西側は調査区外に続く直線状の溝である。重複する P6135 より古く、P6174 より新しい。断面形は V 字状で、深さは 11～50cm である。主軸方位は N-73°-W である。埋土は 3 層に分層でき、灰白色シルト、灰色シルトに分かれる。2014 年度調査 G 区の検出状況から SD6132・6164 と同一溝または関連する溝の可能性がある。

#### SD6115 (図版 5・9・29)

25Z グリッドに位置する。北から南方向に延び、南端で西に屈曲して調査区外に続く逆 L 字状の溝である。北側が SD6132 に切られ、平行・直交の関係にあることから、一連の溝の可能性もある。断面形は弧状で、深さは 18～25cm である。主軸方位は N-12°-E である。埋土は 2 層に分層でき、粘性の強い灰色粘土、灰色シルトに分かれる。

#### SD6132 (図版 5・9・29)

2014 年度調査 G 区で検出された溝（遺構番号なし）の延長で、24・25Z グリッドを東から西方向に延びる。25Z11 グリッドで南側に直角に曲がり、24Z10 グリッドで調査区外に続く。SD6111・6113・6115・6177 と重複し、これより新しい。断面形は V 字状で、深さは 12～40cm である。主軸方位は

東西方向 N-75°-W、南北方向 N-21°-E である。埋土は 2 層に分層でき、粘性の強い灰色粘土、灰白色シルトに分かれる。SD6114・6164 と一連の溝で、全体形状が長方形状を呈する可能性がある。

**SD6164** (図版 5・9・29)

25・26AA グリッドに位置する。南西から北東に直線状に延びる溝で調査区外に続く。断面形は弧状で、深さは 12 ~ 40cm である。主軸方位は N-25°-E である。埋土は 2 層に分層でき、褐色シルト、黄橙色シルトに分かれる。SD6114・6132 と一連の溝の可能性がある。

**SD6167** (図版 5・9・29)

2014 年度調査 G 区で検出された溝(SD3015)の延長で、24Y・Z グリッドを南北方向に直線状に延びる。南側は調査区外に続く。重複する SK6139・6223、P6103・6106・6117・6119・6120・6170・6172 より古く、SD6113、P6169・6179・6221 より新しい。断面形は台形状で、深さは 12 ~ 40cm である。主軸方位は N-29°-E である。埋土は単層で黄灰色シルトとなる。遺物は珠洲焼及び古墳時代の土師器が出土している。昭和初期の土地更正図と照合すると大字前山と大字百津の字境に位置する、近世の溝の可能性もあるが、今回は L 区も含めて中世以前の遺物しか検出されていない。

**SD6177** (図版 5・9・29)

2014 年度調査 G 区検出溝の延長で、25Y・Z グリッドを北東から南西方向に直線状に延びる。重複する SD6113・6132、P6157 より古く、P6152 より新しい。断面形は弧状で、深さは 8 ~ 18cm である。主軸方位は N-22°-E である。埋土は 2 層に分層でき、褐色シルト、黄橙色シルトに分かれる。SD6167 と並行関係にあり、主軸方向が同じ SB6138 がこの両溝の間に収まる。

**SD6186** (図版 5・9・29)

23・24X・Y グリッドに位置する。西側は調査区外に続き、現状ではコの字状の溝である。重複する SD6187、P6228・6245 より新しく、SD3007、P6178 より古い。断面形は台形状で、深さは 17 ~ 41cm である。主軸方位は東西 N-76°-W、南北 N-17°-E である。埋土は 4 層に分層でき、にぶい黄褐色シルト、灰黄褐色シルトに分かれる。遺物は古墳時代の土師器が出土しているが、混入である。

**SD6187** (図版 5・9・30)

23Y、24X・Y グリッドに位置する。東西方向に直線状に延びる溝で、重複する SK6095、SD3007・6186 より古く、P6217 より新しい。断面形は弧状で、深さは 12 ~ 40cm である。主軸方位は N-83°-E である。埋土は場所により違いが見受けられ、単層から 3 層に分層され、灰黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、灰黄色シルトに分かれる。遺物は古墳時代の土師器、時期・種別不明の鉄製品が出土した。土師器有孔鉢(17)は混入である。

**SD6191** (図版 5・8)

23Y、23・24X グリッドに位置する。南東側を現代溝 SD3007 に切られ、重複する SK6095・6189、SD6186 より古く、SD6187・6209 より新しい。断面形は弧状と推察される。深さは 3 ~ 24cm で、主軸方位は N-32°-E である。埋土は、大部分を SD3007 に切られているため詳細は不明である。

**SD6209** (図版 5・9・30)

23・24X グリッドに位置する。東西方向に直線状に延びる溝で、SD6186 と並行する。SD3007・6191 と直交して重複しこれより古いか、SD3007 を越えた位置では検出されなかった。断面形は弧状で、深さは 5 ~ 11cm、主軸方位は N-67°-W である。埋土は 2 層に分層でき、褐色シルト、灰黄色シルトに分かれる。遺物は古墳時代の土師器が出土しているが、混入である。

## C N 区 の 遺 構

## a 掘 立 柱 建 物 (SB)

## SB6025 (図版 12・30・31)

16・17L グリッドに位置する梁間 2 間、桁行 3 間の側柱建物である。10 基の柱穴で構成され、平面形は梁行の中央がやや外側に張り出す胸張形で、主軸方向は N-60°-W、床面積は 10.81m<sup>2</sup> である。梁間柱間長は 0.94 ~ 1.61m、桁行柱間長は 1.19 ~ 1.56m である。柱穴の形状は平面が円形または長方形、断面は U 字状または半円状である。規模は長径 0.25 ~ 0.47m、深さ 0.11 ~ 0.51m である。柱穴の内、7 基で柱痕を確認した (P6026・6042・6068・6072・6076・6084・6087)。埋土の色調は、柱痕が褐灰色～灰黄褐色で、掘形が地山ブロックを含む黄褐色系の組み合わせが多い。一方で地山との区別が不明瞭なものもあった。また、埋土の堆積状況から P6087 は柱の切取り、P6042・6072 は柱の抜取りが行われたと想定できる。遺物は P6042 の掘形から土師質土器片が 1 点出土した。SB6035 の建物範囲と重複するが、新旧関係は不明である。また、北東に位置する SB6059 と主軸が平行関係にあり、南東側の梁間は SB6059 の北西側梁間のラインとほぼ一致する。

## SB6035 (図版 13・30・31)

16・17L グリッドに位置する梁間 1 間、桁行 3 間の側柱建物である。8 基の柱穴で構成され、床面積は 32.96m<sup>2</sup>、主軸方向は N-39°-E である。梁間柱間長は 3.60 ~ 3.72m、桁行柱間長は 1.98 ~ 3.51m である。北東側桁行の柱間が他よりも狭く、廂が付属したか、または間仕切であった可能性がある。柱穴の形状は平面が円形または梢円形、断面は U 字状または半円状である。規模は長径 0.34 ~ 0.56m、深さ 0.41 ~ 0.68m である。柱穴の内、6 基で柱痕を確認した (P6036・6037・6046・6048・6049・6071)。埋土の色調は、柱痕が褐灰色～灰黄褐色で、掘形が地山ブロックを含む黄褐色系の組み合わせが多い。また、埋土の堆積状況から、P6048 は柱を切取ったと想定できる。P6040・6047・6093 と重複し、P6040・6093 より新しく、P6047 より古い。遺物は P6070 の 1 層から土師質土器皿 (42)、P6046 の 3 層から土師質土器片 1 点、P6049 の 1 層から土師質土器片 2 点が出土した。主軸方向がほぼ直交する SB6025・6059 の建物範囲と重複するが、新旧関係は不明である。SB6059 とは P6071 を共有するが、P6071 内で切り合いを確認できなかった。

## SB6059 (図版 12・30・32)

17L グリッドに位置する梁間 2 間、桁行 2 間の側柱建物である。8 基の柱穴で構成され、床面積は 11.68m<sup>2</sup>、主軸方向は N-58°-W である。梁間柱間長は 1.76 ~ 2.20m、桁行柱間長は 1.12 ~ 1.72m である。柱穴の形状は平面が円形、断面は U 字状または半円状である。規模は長径 0.24 ~ 0.43m、深さ 0.12 ~ 0.42m である。柱穴の内、7 基で柱痕を確認した (P6050・6060・6061・6064・6071・6088・6089)。埋土の色調は柱痕が褐灰色～灰黄褐色で、掘形が地山ブロックを含む黄褐色系の組み合わせが多い。一方で地山との区別が不明瞭なものもあった。また、埋土の堆積状況から P6089 は柱を切取ったと想定できる。遺物は P6063 の 1 層から土師質土器片が 1 点出土した。SB6035 と建物範囲が重複するが、新旧関係は不明である。南側に位置する SB6025 は主軸方向を同じくし、建物の規模もほぼ同じであることから同時期に存在した可能性がある。SB6035 とは P6071 を共有するが、P6071 内で切り合いを確認できなかつた。

**b 井 戸 (SE)****SE6006** (図版 14・21・32・34)

17L20・25、18L11・16・21 グリッドに位置する。SD3066・P6233・P6234 と重複し、これらの遺構より古い。主軸方向は N-29°-W である。形状は平面隅丸方形、断面漏斗状で、規模は長辺 288cm、短辺 245cm、深さ 220cm である。また、底面には水溜用の曲物 (71) が設置されており、東壁面と曲物との隙間に固定用の木製杭 (70) が打ち込まれている。埋土は、23 層に分層できる。1 ~ 14 層は黄褐色基調のシルトがレンズ状に堆積しており、自然堆積層と考えられる。11 層中で検出した扁平な自然礫は下部の水溜施設のほぼ中央に位置することから、井戸の廃棄行為に伴う礫の可能性がある。15・18・22 層は灰黄色基調の粘土層で、層の両側面(屑境)は遺存する水溜施設とほぼ同じ幅で垂直に立ち上がる。また調査中にこの屑境で埋土の剥離が認められた。よって、これらの層は井戸使用時の堆積層と考えられ、井戸の中層まで水溜施設が存在した可能性が高い。23 層は、灰黄色砂質シルトで、砂質の透水層から堆積したものと考えられる。16・17・19 ~ 21 層は、灰黄褐色基調の粘土と粘性の強いシルトが充填されており、水溜施設を据えるための裏込めの埋土と考えられる。出土遺物は、3・4 層から土師質土器小皿 (43、44)、4 層から珠洲焼片口鉢 (45)、8 層から砥石 (66)、水溜施設内の 22 層から種子が出土している。21・22 層の屑境に見られる階段状の痕跡は、水溜施設が複数の曲物によって構築された 2014 年度調査 E 区の SE3057 の検出状況 [荒川 2012] が参考になる。曲物と曲物が上下に重ね合わされている部分の堆積と似ており、当井戸も最低 2 段の曲物を据えていたものと考えられる。

**c 土 坑 (SK)****SK6008** (図版 14・33)

17L15 グリッドに位置する。平面は梢円形、断面は半円状である。主軸方位は N-7°-E である。埋土は 2 層に分層した。どちらも黒褐色シルトを主体とする。SD6007 の溝幅とほぼ一致するが、検出面で確認した切り合いから SK6008 が新しい。南西側に近接する SK6009 も同様に全体が SD6007 と重複することから、同じような性格をもった遺構の可能性がある。遺物は出土しなかった。

**SK6009** (図版 14・33)

17L14・15・19・20 グリッドに位置する。平面は梢円形、断面は半円状である。主軸方位は N-28°-E である。埋土は褐色シルトを主体とし、3 層に分層した。レンズ状に堆積し、2 ~ 3 層が底面に自然堆積したと考えられるのに対し、厚く堆積する 1 層は地山ブロックを多量に包含することから、人為的に埋め戻した可能性がある。SD6007 と主軸方向を同じくして重複し、SK6009 が新しい。同様な状況で検出した北東側の SK6008 と共通性がうかがえる。遺物は 1 層から青磁碗 (46) が出土した。

**SK6010** (図版 14・33)

17M2・7 グリッドに位置する。平面は梢円形、断面は半円状で、主軸方位は N-41°-W である。埋土はレンズ状に堆積し、2 層に分層した。1 層が黒褐色シルト、2 層が暗褐色シルトである。遺物は出土しなかった。主軸方向が南東側の SD6007 とほぼ直交することから、同時期の可能性がある。

**SK6024** (図版 15・33)

17L24・25、17M4 グリッドに位置する。平面は方形、断面は孤状で、主軸方位は N-39°-W である。埋土はほぼ水平に堆積し、2 層に分層した。1・2 層ともに黄褐色シルトを主体とする。SK6096,

SD3066・6007、P6125・6126・6127・6128・6154・6155・6156と重複し、SK6096、SD3066、P6125・6126・6127・6128・6154・6155・6156より古く、SD6007より新しい遺構である。平面形状や規模から土壤墓の可能性を考慮して調査したが、土層断面や底面に木棺等の痕跡を認めるることは出来なかった。遺物の出土はない。

#### SK6077 (図版 15・34)

17L8・9 グリッドに位置し、SB6035 の建物範囲と重複する。平面形は不整形な長方形、断面は台形状で、主軸方位は N-43°-E である。埋土はレンズ状に堆積し、2 層に分層した。1 層が黒褐色シルト、2 層が灰黄褐色シルトである。遺物は 1 層から鉄滓が少量出土した。

#### SK6096 (図版 15・34)

17L24・25、17M4・5 グリッドに位置する。平面は方形、断面は半円状で、主軸方位は N-28°-E である。埋土は 3 層に分層した。1 層は暗褐色シルト、2・3 層は明黄褐色シルトである。1 層のみ土質が異なり、2・3 層を切るように堆積することから、掘り直された可能性がある。SK6024、SD3066 と重複し、SD3066 より古く、SK6024 より新しい。遺物は出土しなかった。SK6024 の南東側、長軸延長方向に位置することから、一連の遺構の可能性も考えたが、別遺構と判断した。また、遺構の中心が溝 (SD3066) の中軸に位置する状況は SK6008・6009 と共通する。

### d 溝 (SD)

#### SD3066 (図版 10・14・15・34)

17・18L、17M グリッドに位置する。2014 年度調査で検出された SD3066 の延長と想定されることから、同じ番号を付して調査を行った。また、O 区で検出した SD6051 または SD6052 と同一遺構の可能性がある。主軸方位は N-31°-E で、北東-南西方向に延び、北西側に SD6007 が約 1m 間を開けて並走する。断面は半円状で、埋土は 2 層に分層した。1 層が暗褐色シルト、2 層が褐色シルトであり、2014 年度調査で検出された SD3066 埋土と類似する。SE6006、SK6024・6096 と重複し、これらの遺構より新しい。遺物は土師質土器楕 (47)・皿 (48)、青磁楕 (49)、珠洲焼壺 (50) の他、少量の土師質土器片と鉄釘 1 点が出土した。17L・M グリッドにかけて、いずれも 1 层から出土した。

#### SD3069 (図版 10・15・34)

16L・M グリッドに位置する。2014 年度調査で検出された SD3069 と同じ遺構の可能性があることから、遺構番号を SD3069 として調査した。南側の延長線上に 2014 年度調査区の SD3073 が存在するが、平面的に段差が生じるので、同一遺構か不明である。主軸方位は N-26°-E で、北東-南西方向に延びる。断面は半円状で、埋土は 2 層に分層でき、1 層が黒褐色シルト、2 層が灰黄褐色シルトである。溝底面にはマンガンの沈着がみられた。遺物は出土しなかった。

#### SD6007 (図版 10・15・34)

17・18L、16・17M グリッドに位置する。主軸方位は N-28°-E で、北東-南西方向に延びる。南東側に約 1m の間を開けて SD3066 と並走するが、北東端で北方向に強く屈曲して調査区外へと延びる。また、O 区で検出した SD6051 または SD6052 と同一遺構の可能性があるが、2014 年度調査区で検出されていないので不明である。SK6008・6009・6024、P6011・6013・6015・6018・6094 と重複し、これらの遺構より古い。並行する SD3066 は SK6024 より切り合いで新しいことから、同時期ではなくほぼ同じ位置に掘り返された溝の可能性がある。断面は台形状で、埋土は 3 層に分層した。1 层は暗褐色

シルト、2層は褐色シルト、3層はにぶい黄褐色シルトである。遺物は17Mグリッドの1層から土師質土器片が1点出土した。

## D O 区 の 遺構

### 遺構・遺物の検出状況

O区の北側・西側は、2014年度調査のE区に隣接する。検出した遺構は、溝8条とピット5基である。これらの遺構の検出面はすべてIV層であることから、中世以降の遺構と考えられる。出土遺物はSD6051・6052・6053・6054、P6080から土師質土器と須恵器、砥石が出土した。

### 各 説

#### SD6051 (図版11・15・35)

15P3から15Q2グリッドにかけて位置する。北東から南西方向に延びる溝で、南西側は調査区外に続く。北西側にSD6052が最大1mの間をあけて並走するが、北東端で重複する。主軸方向はN-22°-Eである。SD6052・6053・6054と重複し、これより古い。断面形は台形状で、深さは11～18cmである。埋土は2層に分層でき、共に灰褐色シルトである。遺物は15P7グリッドの1層から古代の土師器長胴甕(27)が出土した。北東の延長線上に、主軸方向が近似するN区SD3066またはSD6007が検出されていることから、これらと同一溝または関連する溝の可能性がある。

#### SD6052 (図版11・15・35)

15P3から15P21グリッドにかけて位置する。北東から南西方向に延びる溝で、南東側にSD6051が最大1mの間をあけて並走するが、北東端で重複する。また、南西端はSD6053に直交する形で切られ、詳細は不明である。重複するSD6051より新しく、SD6053より古い。主軸方向はN-26°-Eである。断面形は弧状～台形状で、深さは8～10cmである。埋土は2層に分層でき、共に黄橙色シルトである。遺物は15P3と15P7グリッドの1層から土師質土器皿が出土した。北東の延長線上に、主軸方向が近似するN区SD3066またはSD6007が検出されていることから、これらと同一溝または関連する溝の可能性がある。

#### SD6053 (図版11・15・35)

15P16から15Q3グリッドにかけて位置する。北西から南東方向に延びる直線的な溝で、南東側は調査区外に続く。SD6051・6052と重複し、これらより新しい。主軸方向はN-52°-Wである。断面形は半円状で、深さは10～15cmである。埋土は単層で、灰褐色シルトとなる。遺物は15P22グリッドの1層から珠洲焼片口鉢(52)が出土した。北西端がSD6052の南西端とほぼ同じ位置にあるが、両溝の関係は不明である。

#### SD6054 (図版11・15・35)

14O9から15Q1グリッドにかけて位置する。北西から南東方向に延びる溝で、南西側は調査区外に続く。重複するSD6051、P6058より新しく、SD6057より古い。主軸方向はN-13°-Wである。断面形は台形状で、深さは20～31cmである。埋土は2層に分層でき、1層が灰褐色シルト、2層がにぶい黄色シルトである。2層に地山を多量に含む。底面に高低差があり、特に14P15・20・25グリッドでは落ち込み部が存在し、破片であるが遺物がまとまって出土した。出土遺物は14P15・20・25グリッドの1層の検出面近くから土師質土器皿(53～56)、土師質土器小皿(57～64)、砥石(67)、14P9グリッド

ドの2層から須恵器が出土した。北側の延長線上には2014年度調査E区SD3061が検出されている。

**SD6055** (図版11・15・35)

14P9から14Q5グリッドにかけて位置する。南北方向に延びる溝で、南側は調査区外に続く。全体を通じて、形状が緩やかに湾曲し、北端部がSD6056の端部と近接する。SD6057と重複し、これより古い。主軸方向はN-10°-Wである。断面形は弧状で、深さは6~15cmである。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトとなる。

**SD6056** (図版11・15・35)

14P9から14P21グリッドにかけて位置する。北東から南西方向に延びる溝で、南西側は調査区外に続く。SD6057と重複し、これより古い。主軸方向はN-42°-Eの直線的な溝であるが、14P8・9グリッドで、東側に向かってわずかに湾曲する。断面形は弧状で、深さは7~12cmである。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトとなる。溝幅や深さが近似するSD6055の北端部が14P9グリッドで近接することから、両溝は一連の遺構の可能性がある。

**SD6057** (図版11・15・35)

14P1から15P21グリッドにかけて位置する。北西から南東方向に延びる直線的な溝で、重複するSD6054・6055・6056より新しい。主軸方向はN-50°-Wである。断面形は台形状で、深さは6~18cmである。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトとなる。溝の南東端は、規模及び主軸方向が近似するSD6053の北西端と、15P21グリッド付近で南西方向にずれるような位置関係である。

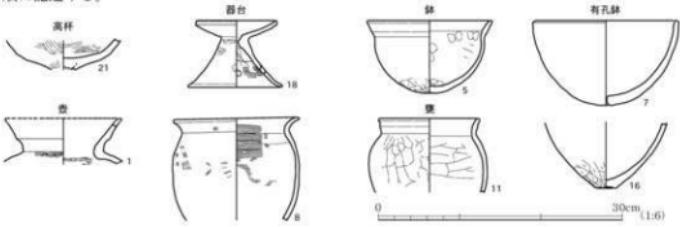
**SD6058** (図版11・15・35)

14O14から15O16グリッドにかけて位置する。東西方向に延びる溝で、南東側は調査区外へ続き、北西側はSD6054に切られる。主軸方向はN-75°-Wである。断面形は台形状で、深さは13~19cmである。埋土は2層に分層でき、灰褐色シルト、にぶい黄橙色シルトに分かれ。ただし、SD6054を超えた位置に、延長の溝が検出できなかったことから、SD6054と一連の溝である可能性を残す。

# 第V章 遺物

## 1 古墳時代

古墳時代の遺物は、すべて前期に所属し、M区からのみ出土している。隣接する2014年度調査G区〔荒川ほか2016〕と阿賀野市調査B区〔古澤ほか2011〕からも同時期の遺物が出土しており、遺跡範囲の南西側に古墳時代前期の集落が存在したと想定される。遺物量は少なく土器に限られるが、阿賀野市域の遺跡から古墳時代前期の遺物がまとまって出土した例は限られ、当地域の土器様相を知るための貴重な資料が得られた。器種は、高杯・器台・鉢・壺・甕がある(第12図)。以下、遺構出土遺物、遺構外出土遺物の順に記述する。



第12図 古墳時代前期土器の器種組成

### A 遺構出土遺物(図版16・17・36)

#### SK6227 (1・2)

有段口縁壺の口縁下部から肩部の破片(1)と、壺底部破片(2)が図化できた。ほかの遺物は、細片である。共に胴部が球脛に近い器形になると推測され、1はSK6231及びSD6232出土器と接合する。口縁有段部の形状から塗町編年〔田嶋1986〕8群または新潟シンポジウム「シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現実行委員会2005」8期前後の所産であろう。2は、SD6232出土器と接合する。

#### SK6231 (3～16)

今回の調査で、最も多くの土器が出土した。比較的器種も豊富で、器台または台付鉢の脚部(3・4)、鉢(5・6)、有孔鉢(7)、甕(8～16)がある。弥生時代後期以来の有段鉢は存在しない。甕は、図化できたものでは口縁端部が丸縁のもの(8・11・15)よりも面取りするもの(9・10・12～14)が多い。胴部外面の調整は、ハケメ調整(8)とヘラナデ・ケズリ調整(11・16)の2様がある。ヘラナデ・ケズリ調整が一定量あるのは、地域性や時期的な特徴を示すものか。時期は、口縁端部を面取りする甕が主体で有段鉢が存在しないことと、甕8・鉢5の大きさや器形的な特徴から新潟シンポジウム8期並行であろう。

#### SD6187 (17)

有孔鉢の底部1点のみ出土している。外面をハケメ、内面をハケメ後ヘラナデ調整している。

#### SD6232 (18～20)

遺物の出土量は多かったが、接合しない細片が多く、図化できたものは少ない。器種は、器台(18)・

壺（19）・甕（20）がある。器台は、全形が分かる好資料で、口縁端部を面取りしている。風化のため、調整は観察しづらいが、外面をヘラミガキ、脚部内面をハケメ調整している。漆町編年8群の標識資料である白江・ネンブツドウ B2 区土器ダマリ上層に類例があり、当該期並行に位置づけられる。

### B 包含層出土遺物（図版 17・36）

包含層出土遺物は、破片のみで全形を知り得るものはない。高杯（21）と壺（22）と甕（23～25）が図化できた。21 は、杯底部片で厚手でやや難なつくりであり、新しい様相を示す。甕は、口縁部の断面が「コ」の字状で、口縁端部をつまみ上げるもの（24・25）がある。

### C 小 結

全体の様相は、高杯・器台が少なく鉢が多いこと、甕の口縁端部を面取りするものが主体となることから、漆町編年8群・新潟シンボ編年8期を中心とした時期に収まると考えられる。既往の調査では阿賀野市調査 B 区の土坑 1 から新潟シンボ編年7期ころの月影系の高杯（図版 52-88）や甕（同 79）が、B2-20 号造構から新潟シンボ編年9期ころの鉢や器台が出土しており、付近を一定期間生活の場として利用していた状況を示している。また、胴部をヘラナデ・ケズリ調整する甕については、北関東・南東北との交流が推測され、阿賀野川流域の交通路を利用した当地域と他地域との交流関係も想定される。

## 2 古 代

古代の遺物は、数点出土している。遺物の出土は、遺跡南側に集中する。既往の調査では、阿賀野市調査地での遺物出土量が卓越しており、今回の調査結果とも調和している。古代の遺跡は古墳時代の遺跡範囲と重複しており、古墳時代から古代までは共通した立地に集落が営まれていたと推測される。

26 は、土師器小甕の底部と見られ、ロクロ成形されている。L 区 P6002 から出土した。27 は土師器長胴甕の胴部片で、タタキ成形されている。O 区の中世の溝 SD6051 に混入して出土した。28 は M 区、29 は L 区から出土した須恵器片で、共に佐渡小泊窯跡群産である。

## 3 中 世

中世は、境塚遺跡の盛期である。今回の調査は、調査面積が狭いため遺物の出土量は少なく、土器類が大半を占める。器種は、土師質土器皿・小皿、珠洲焼、珠洲・瓷器系陶器、瀬戸・美濃焼、青磁がある。土器以外は、曲物、杭などの木製品と砥石・石鉢がある。以下、遺物の種類別に記述する。

### A 土 器（図版 17・18・36・37）

#### 1) L 区

SD3015 (30～33)

30 は、瀬戸・美濃焼の平底未広楕か平楕〔藤沢 2008〕の口縁部片と判断したが、判然としない。31～33 は、龍泉窯系青磁である。31 は、大宰府分類〔山本 2000〕の小楕III-1a 類で、13 世紀中ごろ～14 世紀初頭前後に位置づけられる。32 は楕II-b 類、33 が楕II-a 類で、共に 13 世紀前半に位置づけられる。

## 2) M 区

## SB6249 (34)

34はP6197から出土した瀬戸・美濃焼の口縁部片で、古瀬戸と思われるが器種が判然としない。花瓶や小瓶の類であろうか。

## SK6223 (35)

35は、五頭山麓窯〔鶴巻2010〕産瓷器系陶器の腰胴部片と思われる。猪沢1号窯に類似した簾状のスタンプ文が施されており、13世紀末前後の所産であろう。

## SD3007 (36・37)

36は、てづくね成形の土師質土器皿で、底部付近に同心円状のスタンプ様の文様がみられる。37は珠洲焼の腰口縁部で、吉岡〔1994〕編年IV-1期の所産であろう。

## 遺構外 (38~41)

38は瀬戸・美濃焼の端反皿と判断した。大窯IV期〔藤沢2002〕ころの所産か。39は、龍泉窯系青磁碗II-a類〔山本2000〕片である。40は五頭山麓窯の須恵器系甕、41は同甕器系甕の胴部片である。

## 3) N 区

## SB6035 (42)

42は、P6070から出土した。土師質土器皿で、ロクロ成形されている。底部の切り離し方法は不明である。口縁部の立ち上がり方から、53のような深身の器形になると推測される。

## SE6006 (43~45)

上層から土師質土器皿類がまとまって出土したが細片が多く、図化できたものは2点のみである。43・44は小皿で、43は底部が厚手で口縁部が強く外傾する。45は、珠洲焼片口鉢片で、鉢目の幅と単位、口縁部の形状から、吉岡〔1994〕編年III期に位置づけられる。

## SK6009 (46)

46は、龍泉窯系青磁碗II-a類〔山本2000〕の破片である。

## SD3066 (47~50)

47・48共に糸切底の土師質土器皿の底部片で、深身で内湾する器形になると推測される。49は、龍泉窯系青磁碗II-b類〔山本2000〕の破片である。50は、珠洲焼甕T種の口縁部で、吉岡〔1994〕編年III期に位置づけられよう。

## 遺構外 (51)

51は糸切底の土師質土器皿で、腰部がやや鋭角に立ち上がり、箱形の器形になると推測される。

## 4) O 区

## SD6053 (52)

52は珠洲焼片口鉢で、鉢目の単位・幅から、吉岡〔1994〕編年IV期に位置づけられる。

## SD6054 (53~64)

遺構出土遺物の中では、最も多くの土器が出土している。ロクロ成形の土師質土器皿類のみで、陶磁器類の出土はない。底部の切り離しは、56がヘラ切りである以外は、すべて糸切りである。皿は、全形が

判明した 53 や 54 の形状から、口縁部が外反する器形が主体となるようである。小皿は、63 が厚手で口縁部が外反気味に短く立ち上がる。64 の口縁部は内湾気味に薄く引き出される。

### B 石 製 品（図版 19・37）

器種が判明したものでは、石鉢（65）と砥石（66・67）が出土している。65 は N 区遺構外出土で、外側にノミ状の工具で成形した痕跡が認められ、内面と割れ口の一部にススの付着が見られる。66 は、N 区 SE6006 から出土した。金属器を研いだと思われる鋭い筋状の線状痕が認められる。67 は、O 区 SD6054 から出土した。線状痕が不明瞭で、面的に摩耗している。

### C 金 属 製 品（図版 19・37）

M 区の中世の遺構から鉄製品が 2 点（68・69）出土している。68 は SD6187、69 が P6166 出土である。68 は鋒の付着が著しく形状が判然としないが、X 線写真的画像から鉄鎌か鑿を判断した。身が長く、茎との幅差は小さい。関部は三角形状にやや張り出す。69 は鋒の付着が著しいうえに X 線写真的画像でも形状がはっきりせず器種を確定できないが、断面形が扁平であることから刀子刃部の可能性がある。

### D 木 製 品（図版 19・37）

N 区 SE6006 から杭（70）と曲物（71）が出土している。70 は水溜用の曲物を固定するために打ち込まれたものと思われる。刃物で下端を鉛筆の先端状に削っている。71 は遺存状況が悪く、下部のみ残存していた。2 枚の板材を二重に組み合わせた後、高さ約 4.5cm の板枠を下端に廻して木釘と樹皮で固定している。

### E 小 結

既往の調査で遺構からまとめて出土した土師質土器は、共伴した陶磁器の特徴から、SE3030【荒川ほか 2016】・SE5129【飯坂ほか 2018】が吉岡【1994】編年の珠洲Ⅲ期ころ、SE3031・SE3046【荒川ほか 2016】・SD101【荒川ほか 2012】が珠洲Ⅳ1～2 期、SD239【荒川ほか 2012】が珠洲Ⅳ2～3 期に位置づけられる。SE3030 の土師質土器皿は古代の小椀の器形に類似し、小皿は器高が 1.5cm 以下で器壁が薄く口縁端部を尖らせ氣味に内屈させるものが多い。SE5129 の土師質土器皿は、口径 12cm 前後で器高指数が 30 を超える深身器形と器高指数 25 前後の浅身器形が半々で組成し、口縁部が内湾または外傾する。小皿は器高 2cm 前後で、器壁が厚く口縁端部を丸めるものが多い。SE3046・3031、SD101・239 の土師質土器皿は、器高指数が 30 未満とやや浅身で、すべて口縁部が外反または外傾する。小皿は、器壁が厚く、口縁部が外反する。よって、陶磁器との共伴関係を考慮すれば、珠洲Ⅳ期前後の土師質土器皿の型式変化は、口縁部が内湾し器高指数が大きい深身器形から、口縁部が外反し器高指数が小さい浅身器形への変遷が推定される。小皿は、薄手で口縁部が内湾または内屈し器高が低い器形から、厚手で口縁部が外傾または外反し、器高が高い器形へ型式変化すると推測される。

上記の検討から、今回出土した土師質土器皿類の時期的位置づけは、SE6006 の小皿（43）や、SD6054 の皿（53）と小皿（63・64）の器形的特徴が SE3030・SE5129 出土資料に類似し、吉岡【1994】編年の珠洲Ⅲ期～Ⅳ1 期、13 世紀末～14 世紀前葉になると考えられる。また、土師質土器皿類の出土状況は、既往の調査で出土量が多かった E 区に隣接する O・N 区に集中しており、これまでの出土傾向に合致している。

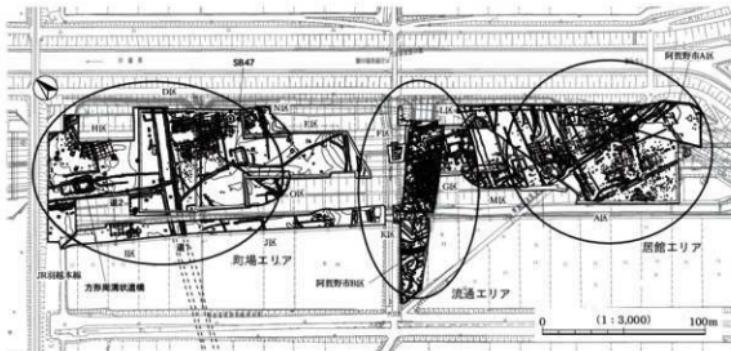
## 第VI章 ま　と　め

2019年度の境塚遺跡の本発掘調査は、新潟県教育委員会（以下、県教委）が実施する第4次調査にあたる。境塚遺跡全体では県教委が2009・2014・2015・2019年度に、阿賀野市教育委員会（以下、市教委）が2008・2009年度に本発掘調査を実施し、縄文時代・古墳時代・古代・中世の遺構・遺物が検出されている（第Ⅰ章2参照）。暫定2車線施工範囲内の調査であることから未調査区が存在するが、おおむね集落の構造を把握することができる。調査延べ面積は42,550m<sup>2</sup>に及び、第4次調査面積はその約2.6%を占める。古墳時代前期・古代・中世の遺物が出土し、その時期幅は既往調査の枠内に収まる。遺物の詳細な時期や傾向については第V章の小結に記述した。

古墳時代の遺構・遺物は既往調査の中層に該当し、調査区M区北西半にはほぼ限定して検出された。調査区南東側に向かって地形がやや下っていくことから、標高が高い場所に生活の場があったことが想定される。調査区外の北西側には六日野集落、その後に月崎集落が帶状に続き、この一連と考えられる自然堤防に沿って古墳時代の集落が形成されている可能性がある。M区は集落のほぼ南限の縁辺部と考えられる。遺物には北関東・南東北との交流が推測されるものがあり、阿賀野川流域の河川を通じた交流が想定される。古代の出土遺物は少量であるが、古墳時代の遺物と共に分布を示し、同様の立地環境で集落が形成されていたものと思われる。

中世に属する遺構・遺物は、すべての調査区で検出した。境塚遺跡は既往の調査結果によると13世紀後半から15世紀前半を主体とし、「大規模な幹線道路を利用した陸上交通と、阿賀野川に通じる百津瀬を利用した河川交通との結節点に成立した町」と考えられ、「広域に及ぶ幹線道路の整備とこれを基軸とした町場の形成には、白河莊の地頭職であった大見氏の関わが推測」されている〔荒川2019〕。遺跡は耕地整理により削平されている部分も多いが、遺構の検出状況や出土遺物の内容から、第13図のように大きく3つのエリアに分けられている。堀で区画された居館エリア、河川に沿って遺構が密集する流通エリア、「道1」とその両側に掘立柱建物が立ち並ぶ町場エリアで、遺構の変遷はⅠ期、Ⅱ期（Ⅱ-1期・Ⅱ-2期・Ⅱ-3a期・Ⅱ-3b期）、Ⅲ期の6期に区分される。幹線道路としては「道1」と「道2」があり、Ⅰ期が「道1」の構築以前、Ⅲ期が「道1」の廃絶以後とされる。町場エリアの「道2」の存続時期はⅡ-2期・Ⅱ-3a期で、13世紀後半から14世紀前半と考えられている。「道2」の廃絶に伴って町場エリアは14世紀後半には衰退するが、流通エリア・居館エリアは15世紀後半まで継続する〔荒川ほか2016、飯坂ほか2018〕。これらの傾向を踏まえ、第4次調査の結果と照合してみたい。

今回の調査区ではL・M区が流通エリアと居館エリアの間、N・O区が町場エリアにそれぞれ位置する。出土遺物は少量だが、L・M区ではN・O区と比較して青磁や瀬戸・美濃焼が多く出土しており、堀に開まれないことからも流通エリアとしての要件を満たす。G区・L区のSD3015、M区SD6167は同一の溝で、第14図に見られるように土地更正図との照合では大字前山と大字百津との境に位置する。第2次調査の結果では近世以降の構築と判断されているが、第4次調査では中世以前の遺物しか出土しておらず、また上記の「道1」とも走向が同じである。M区で検出された直交方向及び平行する溝からも近世以降の遺物は検出できなかった。またこれらの溝群と掘立柱建物の軸方向も一致する。第2次調査の所見通り近世以降の可能性もあるが、継続使用された結果で、構築時期は中世まで遡る可能性がある。また流通



第13図 中世遺構全体図

『塙跡遺跡III』第48図へ加筆



第14図 検出遺構と土地更正図

『塙跡遺跡II』第14図へ加筆

(阿賀野川土地改良区所蔵 北蒲原郡水原町 北蒲原郡南部耕地整理組合 第一区現形推定図から作成)

エリアと居館エリアを分ける境にも位置する溝である。

N・O区は町場エリアに位置し、隣接するE区同様に土師質土器が多く出土した。その形態的特徴から13世紀末から14世紀前葉の所産と考えられ、既往調査で想定された町場エリアの盛衰と一致する。N区は掘立柱建物の柱穴が多く検出され、井戸も付随することからE区同様の集落の中心部が東側まで拡がっていたと考えられる。E区も含めて掘立柱建物が集中する範囲は、第14図の街区で区切られた範囲と一致する。一方O区は集落の中心から外れているが、遺構検出面の標高はN区より高く、立地的な環境は良い。耕地整理により遺構が削られた可能性もあるが、コの字に溝で囲まれた建物(SB47)が「神を祀った祭場あるいはお堂などの宗教施設でなかったかと推測」されている【飯坂ほか2018】ことから、集落から見てその背後に建物を構築しなかった可能性がある。

## 引用・参考文献

- 相沢 央 2004 「古代 第四章 蝦夷「征討」と発久遺跡」『葦神村史』通史編 葦神村
- 相田泰臣ほか 2014 『史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書 - 第 15・16・17・18・19 次調査-』 新潟市教育委員会
- 阿部洋輔 1987 「第一章 第一節 二 越後の地頭」『新潟県史』通史編 2 中世 新潟県
- 荒川隆史 2004 「第IV章 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 133 集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 153 集 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 232 集 境塚遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史ほか 2016 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 262 集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史 2016 「阿賀野市 境塚遺跡」『新潟県考古学会 第 28 回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- 荒川隆史 2019 「阿賀野バイパスの調査成果」『第 23 回遺跡発掘調査報告会・シンポジウム「白河城の考古学」資料』
- 荒谷伸郎ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 215 集 山口遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 278 集 境塚遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石橋夏樹 2016 「第IV章 2 C 井戸」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 262 集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 宇野隆夫 1982 「井戸考」『史林』第 65 卷第 5 号 史学研究会
- 遠藤孝司 2003 「第一章 第一節 第二項 四一 高畠遺跡」『葦神村史』資料編一 原始・古代・中世 葦神村
- 大熊 孝 1996 「越後平野の治水と河川開発史」『第四紀研究』第 35 卷第 3 号 日本国第四紀学会
- 小川正忠・竹原秀雄 1998 「新版標準土色帖」 日本研事業株式会社
- 小野本敦ほか 2017 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 270 集 柄目木遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 1999 「第V章 1 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 93 集 和泉 A 遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学ほか 2013 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 237 集 柄目木遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鐘方正樹 2003 『井戸の考古学』 同成社
- 川上真雄 1999 『葦神村文化財調査報告 9 前田遺跡・芦本杉遺跡』 葦神村教育委員会
- 川上真雄 2002 『葦神村文化財調査報告 13 腹廻遺跡』 葦神村教育委員会
- 葦神团体研究グループ 1976・1980 「葦神丘陵の地質」『新潟県地学教育研究会誌』No.11・15
- 佐藤友子ほか 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 203 集 庚塚遺跡・孤塚遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤友子ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 216 集 柄目木遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 「シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」実行委員会 2005 『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』 新潟県考古学会

- 田嶋明人 1986 「IV 考察 一漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡I』 石川県立埋蔵文化財センター
- 田辺早苗 1991 『神林村埋蔵文化財報告第3 長松遺跡発掘調査報告書』 新潟県岩船郡神林村教育委員会
- 田村 哲 1987 「第一章 第一節 一 錦倉殿と御家人」『新潟県史』通史編2 中世 新潟県
- 田村 哲 2004 「中世 第三章 南北朝・室町前期の白河莊」『篠神村史』通史編 篠神村
- 鶴巻康志 2010 「越後国(新潟県)五頭山麓窯(北沢窯)(須恵器系)(篠神窯)(瓷器系)『古陶の譜 中世のやきもの 一六古窯とその周辺』」印象社
- 中山俊道・渡辺達郎 2001 「篠神村文化財調査報告11 上高闘遺跡」 篠神村教育委員会
- 中野豈任 1967 「白河庄について」『社会科研究』第十二集 新潟県高等学校教育研究会社会科部会
- 成田園之 2000 「百津湯を探し求めて」『水原郷土誌料』第二十八集 水原町教育委員会
- 新潟県 1975 「新津」『下越開発地域 土地分類基本調査』新潟県農地部農地建設課
- 樋口真己 2004 「中世 第一章 白河莊の成立と城氏の展開」「中世 第二章 錦倉期の白河莊」『篠神村史』通史編 篠神村
- 北陸地方建設局阿賀野川工事事務所 1984 「阿賀野川水宮地形分類図 説明書」
- 北陸地方建設局阿賀野川工事事務所 1988 「阿賀野川史改修六〇年の歩み」
- 藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『(財)瀬戸市埋蔵文化財センター紀要』第10輯 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 2008 「中世瀬戸窯の研究」 高志書院
- 古澤妥史ほか 2011 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集 境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稻荷遺跡』新潟県阿賀野市教育委員会
- 山本信夫 2000 「大宰府市の文化財 第49集 大宰府条坊跡 XV -陶磁器分類編-」 太宰府市教育委員会
- 吉岡康暢 1994 「中世須恵器の研究」 吉川弘文館
- 渡邊朋和ほか 2001 「八幡山遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 渡辺雄雄 1973 「VI 安田町保田雲雀丘遺跡発見報告」『水原町立水原博物館研究報告』No.4 水原町立水原博物館

L区 土坑(SK) 観察表

遺構番号	グリッド	標出	標高	規模(cm)				底面標高(m)	理土堆積	王城方向	出土遺物	切り合い	
				標位	平面	縦断面	立ち上がり						
6001	26W4	N	円形	台形状	盛斜度	79	77	61	47	28	6.783	単壁	N-43°-E

L区 溝(SD) 観察表

遺構番号	グリッド	標出	標高	規模(cm)				底面標高(m)	理土堆積	出土遺物	切り合い	備考
				標位	上端長径	上端幅	下端長径					
3015	26W13-14-17-22-23	N	(470)	346	(346)	65	21	6.791 ~ 6.834	N-29°-E	漆器・漆器片・木柾子・青磁小片	GIA SD01167と同一通報、MIA SD01167と同一通報。	
3025	26W11-12	N	(206)	113	(159)	65	26	6.967 ~ 6.993	N-51°-E	土漆質土器	GIA SD01025と同一通報。	

L区 ピット(P) 観察表

遺構番号	グリッド	標出	標高	規模(cm)				底面標高(m)	理土堆積	出土遺物	切り合い	備考
				標位	上端長径	上端幅	下端長径					
6002	26W24	N	47	45	55	6.551	柱底					
6003	26W4	N	24	23	36	6.786	柱底					
6004	26W24	N	22	(9)	—	—	—					P6002
6005	26W19	N	29	24	18	6.786	柱底					

M区 振立柱建物(SB) 観察表

遺構番号	グリッド	標出	標高	規模(cm)				底面標高(m)	理土堆積	出土遺物	切り合い	面積(㎡)
				標位	上端長径	上端幅	下端長径					
6138	24-25Y-Z	1階	3階	4.03	7.67	4.03	2.25 ~ 3.32	N-68°-W				30.9
6145	24Y	1階	3階	4.93	(5.80)	4.83	(1.67 ~ 2.54)	N-77°-W				(28.01)
6248	25Y	2階	(2階)	3.56	(3.29)	1.46 ~ 2.05	(1.43 ~ 1.90)	N-80°-E				(11.71)
6249	24X-Y	1階	3階	3.78	5.98	3.78 ~ 4.32	1.74 ~ 2.22	N-72°-W				22.60

M区 SB6138の柱穴(P) 観察表

遺構番号	グリッド	標出	標高	規模(cm)				底面標高(m)	理土堆積	出土遺物	切り合い
				標位	上端長径	上端幅	下端長径				
6105	25Y23	N	45	39	46	6.538	柱底				
6120	24Y20	N	33	30	39	6.674	—				P600167, PB169
6122	25Y21	N	50	43	46	6.593	柱底				
6123	24Z5-25Z2	N	36	34	42	6.562	柱底				
6134	25Z2-7	N	34	32	37	6.600	柱底				
6148	25Y16	N	29	29	43	6.649	柱底				
6149	25Z6	N	36	32	46	6.661	柱底				
6158	25Y24	N	33	27	37	6.603	柱底				
6176	24Y17-25	N	39	36	26	6.746	—				
	24Z4-7										

M区 SB6248の柱穴(P) 観察表

遺構番号	グリッド	標出	標高	規模(cm)				底面標高(m)	理土堆積	出土遺物	切り合い
				標位	上端長径	上端幅	下端長径				
6131	25Y17-22	N	37	28	51	6.534	柱底				
6140	25Y16	N	31	30	45	6.617	柱底				
6141	25Y21	N	28	19	18	6.895	柱底				
6163	25Y18	N	34	30	31	6.695	レンズ状				
6166	25Y11	N	37	30	37	6.689	水平				<SK6139

M区 ピット(P) 観察表(1)

遺構番号	グリッド	標出	標高	規模(cm)				底面標高(m)	理土堆積	出土遺物	切り合い	備考
				標位	上端長径	上端幅	下端長径					
6098	25Y17-22	N	48	36	23	6.797	柱底					
6099	25Y22	N	27	27	27	6.936	単壁					
6100	25Y17	N	35	33	22	6.814	柱底					
6101	25Z3	N	28	24	29	6.721	単壁					
6102	25Z4	N	31	28	26	6.699	単壁					
6103	24Z4	N	38	32	21	6.719	柱底					>SD6167
6104	25Y22	N	24	19	17	6.795	単壁					
6106	24Y15-20	N	50	33	30	6.763	柱底					>SD6167, PB167
6107	25Y16	N	45	34	30	6.768	柱底					
6108	25Y21	N	29	26	27	6.772	単壁					
6109	25Y17	N	35	35	24	6.802	レンズ状					
6110	25Y22	N	34	22	23	6.805	柱底					
6116	25Y11-16	N	30	25	33	6.738	柱底					
6117	24Y24	N	36	31	51	6.690	柱底					>SD6167
6118	25Y23	N	31	28	26	6.642	柱底					
6119	24Y20	N	30	29	45	6.602	水平					>SD6167
6121	24Y25	N	31	27	18	6.636	レンズ状					
6124	25Z4	N	41	32	31	6.689	柱底					

## 観察表

## M 区 ピット (P) 観察表 (2)

測線番号	グリッド	標高 標尺	距離 (cm)	底面標高 (m)	堆積層	出土遺物	切り合せ	備考
6129	25Y16	N	30	31	6.729	利根		
6130	25Y22	N	30	25	6.806	利根		
6133	25Z1 - 6	N	28	25	3	6.919	単層	>SD6113
6135	25A5 - 10	N	33	29	6	6.913	単層	>SD6114
6136	25Y16 - 17	N	24	20	29	6.765	レンズ状	
6137	25Y17	N	32	31	26	6.778	利根	
6142	25Y23	N	35	23	22	6.771	利根	
6143	25Y21	N	21	16	14	6.908	単層	
6144	24Z15	N	32	31	68	6.297	利根	
6146	24Z3	N	30	27	31	6.785	水平・レンズ状	
6150	24Y23	N	36	31	17	6.868	水平	>P6151
6151	24Y18 - 23	N	41	(20)	20	6.912	単層	>P6150
6152	25Z4	N	34	20	20	6.583	単層	>SD6177
6153	24Y18	N	26	26	36	6.724	利根	
6157	25Z4	N	38	(18)	16	6.806	単層	>SD6177
6159	25Y23	N	25	20	20	6.670	レンズ状	
6160	25Y23 - 24	N	23	23	30	6.703	利根	
6162	24Y20 - 25	N	36	31	40	6.656	利根	
6165	25Y17	N	19	15	60	6.384	利根	
6168	24Y17	N	28	25	45	6.710	単層	
6169	24Y20	N	(27)	32	40	6.638	利根?	>SD6167, P6120 (SD6138)
6170	24Y20	N	27	24	14	6.708	利根	>SD6167
6171	25Y16	N	37	37	22	6.832	利根?	
6172	24Y25	N	25	22	13	6.782		>SD6167
6174	25A5 - 10	N	(28)	34	16	6.713	単層	>SD6114
6178	24Y17	N	32	29	29	6.643	利根	>SD6186, P6228
6179	24Y15 - 20	N	(15)	27	9	6.689	利根	>SD6167, P6106
6181	25Y21	N	28	22	13	6.917	単層	
6183	24Y12	N	41	26	12	7.096	単層	
6185	25Y11	N	19	(15)	28	6.659	単層	>SD6111
6190	24Y11 - 6	N	27	29	14	7.122	単層	
6192	24Y22	N	30	(27)	32	6.811	単層	
6194	23Y10 - 15 24Y6 - 11	N	31	31	36	6.809	利根	
6196	24Y14	N	26	23	29	6.692	単層	
6198	24Y17	N	19	(9)	26	6.692	利根	
6199	24Y12	N	30	24	19	6.986	単層	
6200	24Y9 - 14	N	(20)	(28)	9	7.053	単層	>SD6202
6204	24Y6	N	30	29	20	7.033	単層	
6206	24Y22	N	35	34	28	6.690	レンズ状	
6206	25A33	N	49	39	28	7.001	単層	I層部
6212	25AA14	N	39	(17)	21	6.692	単層	
6214	24Z14	N	24	22	44	6.587	利根	>SD6111
6220	24Y14	N	30	30	35	6.565	利根	>SD6213
6221	24Y14	N	23	17	7	6.832	レンズ状	>SD6167
6222	24Y9	N	31	30	17	6.736	利根	>SD6202
6224	24Y16	N	(9)	10	50	6.610	—	
6225	24Y17	N	14	(8)	16	6.730	単層	
6228	24Y17	N	29	(19)	13	6.832	利根	>SD6186, P6178
6229	24Y11	N	23	23	6.912	利根	I層部	
6243	25Y21	N	24	24	17	6.660	単層	
6244	25Y21	N	16	15	8	6.765	単層	
6245	24Y17	N	23	19	8	6.825	単層	>SD6186
6246	24Y12	N	33	31	16	6.811	利根	>SD6232
6247	24Y13	N	43	38	20	6.627	利根	

## M 区 土坑 (SK) 観察表

測線番号	グリッド	地質 標高	断面 形状	立面上の 上端断面	上端断面 堆積層	下端断面	下端断面 堆積層	深度 (m)	底面標高 (m)	堆積方向	出土遺物	切り合せ	
6095	23Y4 - 5	N	砂岩	立面上がり	上端断面	上端断面	下端断面	(32)	(16)	7.059	レンズ状	N-3°-E	
6139	24Y15-25Y11	N	円柱	砂岩	堆積層	92	85	76	70	25	6.817	レンズ状	N-48°-W
6147	24Z4	N	砂岩	砂岩	堆積層	106	66	93	54	25	6.761	レンズ状	N-12°-E
6163	25AA9	N	砂岩	砂岩	堆積層	94	29	67	40	32	6.636	レンズ状	N-79°-E
6189	23Y4 - 5 - 9	N	不整形	砂岩?	堆積層	(111)	(33)	(95)	(21)	23	6.666	単層?	N-6°-E
6201	24Y9	N	砂岩	砂岩	堆積層	76	62	63	37	23	6.952	単層	N-0°-E
6202	24Y9 - 14	N	砂岩	砂岩	堆積層	(44)	92	(33)	50	28	6.857	レンズ状	N-33°-W
6207	23X20 - 24 - 25	N	右折	砂岩	堆積層	62	50	44	27	15	7.161	レンズ状	N-41°-E
6213	24Y13 - 18 - 19	N	砂岩	砂岩	堆積層	156	95	123	79	17	6.907	レンズ状	N-28°-E
6223	24Y10	N	円柱	砂岩	堆積層	90	83	66	47	14	6.733	レンズ状	N-63°-W
6227	23X14 - 15 - 19 - 20 - 24X16	N	右折	砂岩	堆積層	(74)	42	(70)	32	51	6.811	レンズ状	N-72°-W
6231	23Y15 - 20 - 24Y11 - 16	N	不整形	細柱	堆積層	(289)	280	287	263	15	6.987	レンズ状	N-74°-E
												上端断面1 - 2 右折 砂岩層厚 4 - 45 0.6m±0.7m ± 16	>SD6232

## M 区 溝 (SD) 観察表

連続番号	グリッド	検出 部位	規模 (cm)				底面 標高 (m)	下傾方向	出土遺物	切り合い	備考
			上端長さ	上端幅 基盤	下端長さ	下端幅 基盤					
6111	24Z1- 24Z15- 24Z16- 24Z20	IV	(480)	84 ~ 61 SPA ~ A' 40	(476)	15 ~ 46 SPA ~ A' 26	6 ~ 8	6.914 ~ 7.061 N 86°W N 21°E			<SD6132, PG6185 - 6214
6113	24Z2- 24Z16-21	IV	(1624)	89 ~ 113 SPA ~ A' 71	(1571)	43 ~ 61 SPA ~ A' 50	9 ~ 16	6.811 ~ 6.904 N 71°W			>SK6147, SD6177 >SD6132 - 6176, PG6133
6114	25Z22- 25A5-10	IV	(701)	47 ~ 62 SPA ~ A' 55	(650)	10 ~ 34 SPA ~ A' 32	11 ~ 50	6.511 ~ 6.812 N 73°W			>PG6154 >PG6135
6115	25Z17- 25Z21	IV	(412)	45 ~ 99 SPA ~ A' 51	(397)	20 ~ 32 SPA ~ A' 32	18 ~ 25	6.740 ~ 6.827 N 11°W			<SD6132
	24Z20										
6132	25Z11- 25Z12-13	IV	(1300)	36 ~ 80 SPA ~ A' 64	(1296)	8 ~ 39 SPA ~ A' 32	12 ~ 40	6.594 ~ 6.782 N 86°W N 12°E			<SD6111 - 6113 - 6115 - 6177
6164	25AA1D- 26AA1	IV	(222)	29 ~ 44 SPA ~ A' 36	(182)	16 ~ 36 SPA ~ A' 27	8 ~ 14	6.723 ~ 6.793 N 25°E			
	24Z8- 24Y10- 15, 25Y11	IV	(1002)	235 ~ 341 SPA ~ A' 27B	(1002)	203 ~ 305 SPA ~ A' 252	12 ~ 30	6.776 ~ 6.846 N 29°E	土器部		<SK6139 - 6122, PG6103 - 6106, 6117 - 6119 - 6120 (SD6130) - 6170 - 6172 >SD6113, PG6169 - 6179 - 6221
6167	25Y25- 25Z18	IV	(710)	41 ~ 58 SPA ~ A' 41	(706)	22 ~ 38 SPA ~ A' 23	8 ~ 18	6.754 ~ 6.843 N 22°E			<SD6113 - 6132, PG157 >PG152
6177	25Y25- 25Z18	IV	(710)	41 ~ 58 SPA ~ A' 41	(706)	22 ~ 38 SPA ~ A' 23	8 ~ 18	6.754 ~ 6.843 N 22°E			<SD6113 - 6132, PG157 >PG152
6186	23X24- 24Y3- 24Y16-21	IV	(1477)	87 ~ 135 SPA ~ A' 110	(1470)	52 ~ 90 SPA ~ A' 89	17 ~ 41	6.864 ~ 7.124 N 76°W N 17°E	土器部		>SD6007, PG6178 >SD6187 - 6191, PG6192 >SD6190, 6192, (SD6190) - 6193 >SD6095, 6195, SD6097 - 6186, 6191 >PG6217 (SD6249)
6187	23Y5- 24X24- 24Y4	IV	(894)	56 ~ 124 SPA ~ A' 47	(780)	39 ~ 119 SPA ~ A' 47	12 ~ 40	6.799 ~ 7.155 N 83°E	土器部有孔鉢7 ・半周飾品		
6191	24X16- 23Y9	IV	(739)	(74)	(739)	(65)	6 ~ 24	7.011 ~ 7.125 N 32°E	土器部		>SD6099, 6100, SD6100, 6100 >SD6187 - 6200
6209	23X20- 24X16	IV	286	26 ~ 65 SPA ~ A' 40	290	13 ~ 38 SPA ~ A' 24	5 ~ 11	7.112 ~ 7.198 N 67°W	土器部		>SD6191
6232	23Y20- 24Y7	VI	(450)	288	(441)	250	20	6.818 ~ 7.007 N 25°E	土器部壺1-2 第 1台18号19瓶20		>SK6231, PG6246
3007	23Y10- 24X17	IV	(1241)	60 ~ 115	-	-	-	N 27°E	土器部小口36 ・深鉢		>SD6086 - 6187 - SD6188 - 6189
	15- 24X17										C6SE0007と同一 土器・近似代表 器
	0191										

## N 区 捩立柱建物 (SB) 観察表

連続番号	グリッド	東間	西間	身寄室長 (m)	身寄室幅 (m)	廻廊間長 (m)	廻廊幅 (m)	軒下柱間長 (m)	軒下柱幅 (m)	主軸方向	面積 (m <sup>2</sup> )
6025	16-175- 176	2.00	2.00	2.68	4.36	0.94	1.61	1.19 ~ 1.56	~ 1.56	N 60°W	10.81
6035	16-175- 176	1.00	3.00	3.72	8.86	3.60	3.72	1.98 ~ 3.51	~ 3.51	N 39°E	32.94
6059	17L	2.00	2.00	2.95	3.96	1.76	2.20	1.12 ~ 1.72	~ 1.72	N 68°W	11.68

## N 区 SB6025 の柱穴 (P) 観察表

連続番号	グリッド	検出 部位	規格 (cm)	底面 標高 (m)	壁面 長径 幅	壁面 厚径 幅	底面 標高 (m)	廻廊 壁面 長径 幅	廻廊 壁面 厚径 幅	出土遺物	切り合い
6026	16L14	IV	20 ~ 22	6.910	4.75	1.50					
6042	16L18-19	IV	37 ~ 39	6.840	4.75	1.50					
6068	17L16	IV	47 ~ 23	6.962	4.75	1.50					
6069	16L18-19	IV	31 ~ 24	11 ~ 7.086	4.75	1.50					
6072	16L20	IV	31 ~ 27	40 ~ 6.858	4.75	1.50					
6073	16L15	IV	26 ~ 24	21 ~ 7.038	4.75	1.50					
6076	17L21	IV	34 ~ 25	20 ~ 6.968	4.75	1.50					
6079	16L25	IV	29 ~ 25	11 ~ 7.026	4.75	1.50					
6084	16L19-24	IV	30 ~ 36	19 ~ 7.010	4.75	1.50					
6087	16L25	IV	30 ~ 28	31 ~ 6.661	4.75	1.50					

## N 区 SB6059 の柱穴 (P) 観察表

連続番号	グリッド	検出 部位	規格 (cm)	底面 標高 (m)	壁面 長径 幅	壁面 厚径 幅	底面 標高 (m)	廻廊 壁面 長径 幅	廻廊 壁面 厚径 幅	出土遺物	切り合い
6059	17L13-14	IV	37 ~ 35	6.992	4.75	1.50					
6060	17L11	IV	40 ~ 38	7.013	4.75	1.50					
6061	17L11-16	IV	29 ~ 29	7.050	4.75	1.50					
6063	17L7	IV	43 ~ 37	6.761	—	—					
6064	17L18-23	IV	41 ~ 35	6.902	4.75	1.50					
6071	17L17	IV	34 ~ 32	6.776	4.75	1.50					
6088	17L18	IV	24 ~ 21	6.982	4.75	1.50					
6089	17L12-13	IV	29 ~ 25	7.033	4.75	1.50					

## N 区 SB6035 の柱穴 (P) 観察表

連続番号	グリッド	検出 部位	規格 (cm)	底面 標高 (m)	壁面 長径 幅	壁面 厚径 幅	底面 標高 (m)	廻廊 壁面 長径 幅	廻廊 壁面 厚径 幅	出土遺物	切り合い
6036	17L2	IV	48 ~ 40	41 ~ 6.745	4.75	1.50					
6037	17L8-9	IV	42 ~ 32	48 ~ 6.690	4.75	1.50					>PG6040
6039	17L13	IV	43 ~ 41	46 ~ 6.711	4.75	1.50					
6046	17L6-7	IV	45 ~ 27	43 ~ 6.746	4.75	1.50					>PG6047
6048	17L21	IV	48 ~ 37	68 ~ 6.527	4.75	1.50					
6049	16L19-20	IV	44 ~ 43	67 ~ 6.571	4.75	1.50					>PG6093
6070	16L15	IV	50 ~ 52	41 ~ 6.856	4.75	1.50					
6071	17L17	IV	34 ~ 32	42 ~ 6.776	4.75	1.50					

## 観察表

## N区 ピット(P) 観察表

通標番号	グリッド	検出 網目	網面 (cm)			底面標高 (m)	理上網目	出土遺物	切り合ひ	備考
			長辺	短辺	深度					
6011	17M8	N	28	28	25	6.946	斜底	-SD6007, P6094		
6012	17L23 17M3	N	45	40	23	6.939	斜底	-SD6007		
6013	17M12	N	43	34	37	6.587	斜底	-SD6007		
6014	17M16	N	32	29	11	7.040	半底			
6015	17M16	N	25	23	37	6.816	斜底	-SD6007		
6016	17M16	N	(27)	(23)	29	6.865	水平			
6017	17L23・24	N	40	38	32	6.856	斜底			
6018	17M8	N	42	38	29	6.879	斜底	-SD6007, P6094		
6019	16M9	N	34	(31)	27	6.936	斜底			
6020	16L24・25	N	38	34	46	6.730	半底			
6021	16L19・20・24・25	N	32	31	45	6.711	斜底			
6022	17L13・18	N	49	44	33	6.830	斜底			
6027	17L6・7	N	47	45	25	6.919	斜底			
6028	17M3・4	N	37	32	35	6.818	斜底			
6029	17M8	N	41	35	32	6.843	半底			
6030	17L9・10	N	37	34	22	6.916	斜底			
6031	17M7・12	N	(96)	(28)	21	7.006	半底			
6032	16L25	N	(23)	22	15	6.990	斜底	-P6033		
6033	16L25	N	31	23	26	6.879	斜底	-P6032		
6034	17L23	N	61	46	47	6.672	半底			
6038	17L7	N	46	30	23	6.948	斜底			
6040	17L8・9	N	(39)	54	26	6.886	半底	-P6037 (SB6035)		
6041	17L16・17	N	21	21	24	6.956	半底			
6043	17M14	N	60	46	29	6.844	レンズ状・水平			
6044	16L15・20	N	34	31	16	7.055	斜底			
6045	17L17・22	N	33	29	15	7.040	斜底			
6047	17L20・6・7	N	51	41	36	6.842	斜底	-P6046 (SB6035)		
6062	17L12・13	N	28	24	31	6.840	斜底			
6063	17L21	N	29	26	16	6.703	レンズ状			
6067	16L20・17L16	N	32	31	45	6.711	斜底			
6074	17L19・20	N	39	27	32	6.938	半底			
6075	17L20・17L2	N	39	39	17	6.976	斜底			
6078	17L6	N	44	38	22	6.946	斜底			
6081	16L10	N	22	20	29	6.924	斜底			
6090	17L3	N	21	57	46	6.658	斜底			
6091	17L1	N	43	42	31	6.799	斜底			
6092	17L8・13	N	45	41	29	6.762	斜底			
6093	16L20	N	(60)	74	44	6.822	レンズ状	-P6049 (SB6035)		
6094	17M8	N	36	(27)	20	6.968	レンズ状	-P6011 - 6018 -SD6007		
6097	17L17	N	19	19	5	6.970	半底			
6125	17L24	N	(30)	(29)	19	6.976	半底	-SK6024		
6126	17L24	N	69	59	44	6.717	半底	-SK6024, P6127		
6127	17L24	N	(20)	(15)	32	6.815	半底	-SK6024, P6126		
6128	17L24・17M4	N	30	29	17	6.967	半底	-SK6024		
6154	17L24	N	(28)	(24)	24	6.921	半底	-SK6024		
6155	17L24	N	(27)	(28)	20	6.952	斜底	-SK6024		
6156	17L24	N	(26)	(22)	25	6.906	斜底	-SK6024		
6196	17L25・17M5	N	21	17	27	6.843	—			
6233	17L20	N	41	36	44	6.845	斜底	-SE6006		
6234	17L20	N	30	26	25	6.833	レンズ状	-SE6006		
(1)	18L6	N	22	20	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(2)	18L6	N	(19)	22	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(3)	18L11	N	(16)	(14)	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(4)	18L17	N	24	21	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(5)	18L17	N	29	23	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(6)	18L17	N	33	(17)	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(7)	18L17	N	(29)	32	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(8)	18L17	N	(30)	24	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(9)	18L22・23	N	27	22	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(10)	18L23	N	(28)	52	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。
(11)	18L23	N	(19)	(19)	—	—	—			私鉄区、通横線口まで。

## N区 土坑(SK) 観察表

通標番号	グリッド	検出 網目	網面 (cm)			底面標高 (m)	理上網目	出土遺物	切り合ひ	備考	
			上面	網底前	立ち上がり						
6008	17L15	N	相内田	半内状	急斜度	91	46	58	38	40	6.602 レンズ状 N-7 東 -SD6007
6009	17L14・15・19・20	N	相内田	半内状	急斜度	157	117	88	65	60	6.545 レンズ状 N-28 東 芳縞陶46 -SD6007
6010	17M2・7	N	相内田	半内状	急斜度	86	60	52	28	28	6.933 レンズ状 N-41 東
6024	17L24・25 17M4	N	左肩	右肩状	急斜度	(170)	172	151	152	23	6.935 水平 N-39°-W -P6126 - 6128 -SD6007, P6125 - 6127 - 6154 - 6155 - 6156
6077	17L8・9	N	左肩	右肩状	腰やか	146	55	105	33	17	7.037 レンズ状 N-43 東 距冲 -SD6007
6096	17L24・25 17M4・5	N	左肩	半内状	急斜度	124	121	58	53	35	6.802 レンズ状 N-28 東 -SD6004 -SD3096

N区 溝(SD) 観察表

透析番号	グリッド	標出 部位	幅幅(cm)				底面標高 (m)	下端方向	出土遺物	図り合い	備考	
			上面長さ	上面幅	下面長さ	下面幅						
3066	17M21-18L11	N	(1893)	72 ~ 107	(1089)	34 ~ 58	SPA ~ A' 54	17 ~ 33	6.821 ~ 6.916	N-31°-E	上端買入 鋼鉄47 塵 44 磁石49 鉛鉛 銅塊50 銀幣	>SD6006, SK6024- 6026
3069	16M3-16L5	N	(1861)	39 ~ 75	(1117)	18 ~ 31	SPA ~ A' 19	5 ~ 28	6.942 ~ 7.035	N-28°-E		EIS030019- 3073と同一通路。
6007	16M25-17L10 18L8	N	(1964)	65 ~ 106	(2001)	42 ~ 75	SPA ~ A' 75	14 ~ 34	6.890 ~ 6.976	N-28°-E	上端買入鉢	>SK6008 ~ 6009, 6024, PM011- 6023 ~ 6015- 6218 ~ 6094

N区 井戸(SE) 観察表

透析番号	グリッド	標出 部位	幅幅(cm)				底面標高 (m)	下端方向	出土遺物	図り合い	備考			
			平面	前面	立ち上がり	上面長さ								
6006	17L20 ~ 25 18L11 ~ 16- 21	N	方型	縫合状	垂直	288	345	62	69	220	4.913	レンズ状 N-29°-W	上端買入鉢小鉢43- 44 磁石片17枚45- 46 銅子 鎌形71 4.8575	>SS03066, PM232- 6234

O区 溝(SD) 観察表

透析番号	グリッド	標出 部位	幅幅(cm)				底面標高 (m)	下端方向	出土遺物	図り合い	備考		
			上面長さ	上面幅	下面長さ	下面幅							
6051	15Q1-2-15P3	N	(800)	43 ~ 69	(798)	39 ~ 36	SPA ~ A' 43	11 ~ 38	6.971 ~ 7.043	N-22°-E	上端鉄器	>SD6052- 6053- 6054	
6052	15P1-6 21-15P3	N	(792)	48 ~ 68	(792)	19 ~ 44	SPA ~ A' 51	8 ~ 10	7.080 ~ 7.139	N-26°-E	上端買入鉢	>SD6051- SD6053	
6053	15Q3-16P16	N	(451)	25 ~ 38	(435)	11 ~ 17	SPA ~ A' 18	10 ~ 15	7.029 ~ 7.053	N-52°-W	陶器鉢鉄頭52	>SD6051- 6052	
6054	15Q1-14Q9	N	(1927)	78 ~ 184	(1923)	49 ~ 83	SPA ~ A' 67	20 ~ 31	6.851 ~ 6.946	N-13°-W	陶器鉢鉄頭52	上端買入鉢頭53- 55 - 6 小鉢54- 44 磁石片60枚 64 銅67 鉄頭57	>SD6051- 6058- P0085 >SD6057
6055	14Q4-5-14P9	N	(663)	44 ~ 71	(667)	29 ~ 40	SPA ~ A' 49	6 ~ 15	7.044 ~ 7.134	N-10°-W		>SD6057	
6056	14P16-1-14P9	N	(709)	34 ~ 59	(700)	17 ~ 37	SPA ~ A' 40	7 ~ 12	7.097 ~ 7.152	N-42°-E		>SD6057	
6057	14P1-15P21	N	1332	SPA ~ A' 53	1305	SPA ~ A' 21	6 ~ 18	7.005 ~ 7.125	N-56°-W		>SD6054- 6055- 6056		
6058	14Q14-15Q16	N	(431)	68 ~ 106	(430)	23 ~ 80	SPA ~ A' 91	13 ~ 19	6.894 ~ 6.996	N-75°-W		>SD6054	

O区 ピット(P) 観察表

透析番号	グリッド	標出 部位	幅幅(cm)				底面 長径 幅 深さ	底面標高 (m)	土工規格	出土遺物	図り合い	備考
			長径	幅	幅	深さ						
6080	15P7	N	72	66	50	6.966	水平		上端買入鉢			
6082	14Q12-17	N	48	38	19	6.964	水平					
6083	15P9	N	(49)	(25)	18	7.017	水平					
6085	14P4	N	35	32	26	6.925	レンズ状					>SD6054
6086	15P9	N	(32)	(25)	26	6.960	レンズ状					

## 観察表

古墳時代の土器観察表(1)

順位 No.	地区	グリッド	通路	耕作	種類	形態	法量(cm)			口縁部 直徑	口縁部 直徑	底部 直徑	底部 直徑	外表面調 色	内表面調 色	底部 調色	備考			
							口径	底径	高さ											
1	MIE	23X 23Y 24Y	SKE227 SKE231 SDE232	I	土師器	壺			(4.7)					T.SVR7/4 に-平-壺	T.SVR7/4 に-平-壺	良好	φ0.5~4mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。 金銀土を含む。	ヘラスガラ 新部:ケズリ 底部:ケズリ	全体に風化 著しい。	
2	MIE	23X 23Y 24Y	SKE227 SDE232	I	土師器	壺				12/36	7.SVR7/2 直筒壺	N3/0 直筒					良好	φ0.5~3mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。 金銀土を含む。	ハケメ・ナダ ヘラナダ ナダ	同一体体あ り。
3	MIE	23Y 24Y	SKE231	I	土師器	壺			(11.2)	(3.2)	6/36	10YRR8/2 N3/1	10YRR8/2 N3/1				良好	φ0.5~3mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。	新部:ケズリ 底:不明	風化著しい。
4	MIE ベルト-レ ンチ3	23Y 24Y	SKE231	I	土師器	壺	(10.0)	(3.2)	7/36					5YR7/6 に-平-壺	5YR7/3 に-平-壺	良好	φ1~2mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。	ハケメのちナ ダ・ココナダ ナダ	内面風化	
5	MIE ベルト-レ ンチ3	23Y 24Y 24Y-レ ンチ3	SKE231	I	V	土師器	鉢	(15.2)	2.0	8.9	6/36	36/36	5YR7/4 に-平-壺	5YR7/4 に-平-壺	良好	φ0.5~5mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	上半:不明 口:ヨコナダ 底:ヨコナダ	口:不明 底:ヨコナダ	全体に風化 著しい。同 一體体あり。	
6	MIE ベルト-レ ンチ3 No3	23Y 24Y東西 ベルト-レ ンチ3	SKE231	I	V	土師器	鉢	(16.0)	2.6	5/36	36/36	7.SVR7/4 に-平-壺	7.SVR7/4 に-平-壺	良好	φ0.5~3mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	不明	不明	ケズリ	全体に風化 著しい。同 一體体あり。	
7	MIE 24Y-レ ンチ3	23Y 24Y-レ ンチ3	SKE231	I	土師器	有孔鉢	(17.2)	1.6	10.5	4/36	12/36	2.5YR7/6 に-平-壺	5YR7/4 に-平-壺	良好	φ0.5~5mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	口:ヨコナダ 底:不明	口:ヨコナダ 底:不明	全体に風化 著しい。同 一體体あり。		
8	MIE	23Y 24Y	SKE231	I	土師器	壺	15.2		(12.7)	31/36		5YR8/3 直筒	5YR8/3 直筒	良好	φ0.5~2mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。	口:ヨコナダ 底:ハケメ	口:ヨコナダ 底:ハケメ	全体に風化 著しい。同 一體体スコ ダ		
9	MIE 24Y東西 ベルト-レ ンチ3 No4	23Y 24Y	SKE231	I	土師器	壺	(19.4)		6/36			5YR7/3 に-平-壺	5YR7/3 に-平-壺	良好	φ1~2mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	ヨコオサエ	ヨコオサエ	風化著しい。		
10	MIE 24Y-レ ンチ3 No5	23Y 24Y-レ ンチ3 No5	SKE231	I	土師器	壺	(17.0)		预定 8.0	6/36		5YR7/4 に-平-壺	10YR7/2 に-平-直筒	良好	φ1~3mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	不明	黒:ケズリ 他不明		風化著しい。	
11	MIE	23Y 24Y	SKE231	I	土師器	壺	12.1		(8.1)	33/36		7.SVR7/3 に-平-壺	7.SVR8/1 N3/1	良好	φ0.5~4mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。	口:ヨコナダ 底:ヘラナダ	口:ヨコナダ 底:ヘラナダ			
12	MIE 24Y-レ ンチ3	23Y 24Y-レ ンチ3	SKE231	I	土師器	壺	(17.0)		(2.0)	6/36				φ1~4mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。	ヨコナダ	ヨコナダ	部分的に風 化			
13	MIE 24Y-東西 ベルト-レ ンチ3 No3	23Y 24Y	SKE231	I	土師器	壺	(18.0)		(2.4)	6/36		10YRR8/3 直筒	10YRR7/4 に-直-直筒	良好	φ1~4mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	口:ヨコナダ 底:ヨコナダ	口:ヨコナダ 底:ヨコナダ	全体に風化 著しい。		
14	MIE 24Y-レ ンチ3	23Y 24Y-レ ンチ3	SKE231	I	土師器	壺	(19.0)		(0.9)	4/36		5YR7/4 に-平-壺	5YR7/4 に-平-壺	良好	φ1~4mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	不明	不明		風化著しい。	
15	MIE 24Y-レ ンチ3	23Y 24Y-レ ンチ3	SKE231	I	土師器	壺	(20.0)		(3.5)	6/36		10YRR8/3 直筒	7.SVR8/6 直筒	良好	φ1~6mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。	不明	不明		全体に風化 著しい。	
16	MIE	23Y 24Y	SKE231	I	土師器	壺		2.2	(8.0)	36/36	2.5YR5/6 直筒	N5/0 直筒	良好	φ1~3mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	ケズリ	不明	ケズリ	全体に風化 著しい。		
17	MIE 23X-Y 24Y	SD6232	I	土師器	有孔鉢		2.2	(4.3)	36/36	5YR8/3 直筒	7.DVR8/0 直筒	良好	φ0.5~2mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	ハケメのちナ ダ	ハケメのちナ ダ	ナダ	底面焼成 度:丸(No. SD6216)			
18	MIE 24Y	SD6232	I	土師器	筋白	9.8	(11.3)	8.2	33/36	4/30	7.SVR8/6 直筒	7.SVR8/6 直筒	良好	φ1~3mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	黒化:一部ヘ ラスガラ	黒化:一部ヘ ラスガラ	ナダ	風化著しい。		
19	MIE 24Y	SD6232	I	土師器	壺			(3.6)	36/36	5YR7/6 壺	N6/0 壺	良好	φ1~6mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	ハケメ	不明	不明	全体に風化 著しい。			
20	MIE 24Y	SD6232	I	土師器	高杯			(3.5)			10YRR8/2 N3/1	7.SVR7/3 N3/1	良好	φ1~6mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	ヨコナダ	ヨコナダ ハメテ ナダ	ナダ	内面風化		
21	MIE 24X22	カク ラン	土師器	高杯							10YRR8/2 N3/1	7.SVR7/3 N3/1	良好	φ1~6mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。金 銀土を含む。	ヘラミモガ	ヘラミモガ		馬蹄風化 ハカリ		
MIE 23Y10	V	土師器	壺		5.0	(2.3)			27/36	7.SVR7/1 N3/1	7.SVR8/0 N3/1	良好	φ0.5~3mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。	ナダ・ヨコハ マ・ナダ	ナダ・ヨコハ マ・ナダ	ナダ				
23	MIE 23X24	V	土師器	壺	(18.0)			(1.8)	3/36		5YR8/3 に-平-直筒	7.SVR7/3 に-平-直筒	良好	φ1~5mmの垂 れ縁(長石・石英) を多量に含む。	ヨコナダ	ヨコナダ ヨコハマ	ナダ	希望標本 か天王山?		

## 観察表

古墳時代の土器観察表(2)

報告No.	地区	グリッド	遺構	層位	種類	形態	法量(cm)	口縁部 口径	底縁 底径	高さ	内面色調	外面色調	成形	釉上	外面調査	内面調査	底部 調査	備考
24 MIK 23X12-19	V	土塚周	無	(20.0)	(2.9)	4/36	T.SYR6/3 に-5V1縁	7.5YR6/1 褐色	良好	約1~3mmの垂直 の白い石子を含む。	口:ナチュラル のケメのちヨコテ・ サツリ・ナマヘ 体:ハゲメ							
25 MIK 24Y11	V	土塚周	無	(21.0)	(3.7)	4/36	SYR7/4 に-5V1縁	SYR7/4 に-5V1縁	良好	約1~4mmの垂直 の白い石子を含む。 底:赤褐色の 少量化。	口:ナチュラル のケメのちヨコテ・ サツリ・ナマヘ 体:ハゲメ	不明	不明			風化著しい。 既倒傾。		

古代・中世の土器観察表(1)

報告No.	地区	グリッド	遺構	層位	種類	形態	法量(cm)	口縁部 口径	底縁 底径	高さ	内面色調	外面色調	成形	釉上	外面調査	内面調査	底部 調査	備考
26 LHK 26Y24 P6002	I	土塚周	小椎	(7.6)	(1.5)	7/36	7.5YR8/3 に-5V1縁	7.5YR8/1 褐色	良好	約1.5~3mmの垂直 の白い石子を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	古代				
27 OIK 15P7 SD6051	I	土塚周	長断面			(2.6)	SYR7/4 に-5V1縁	SYR7/1 褐色	良好	約1.5~2mmの垂直 の白い石子を含む。	平行タキ ス				直立の 柱状。			
28 MIK 24Y9	V	瓦塗地	無柄杯	(8.0)	(1.0)	7/36	N7/ K6.1	N7/ K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	小泊原跡群				
29 LHK 26V	II	瓦塗地	壺			(2.4)	N7/ K6.1	N7/ K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	筋子目タタ キ	同心円あわ せ	瓦底	小泊原跡群				
30 LHK 26V SI03015	I	瓦塗地 広場か 平地?	無柄杯	(16.0)	(3.8)	1.5/36	2.5YR8/2 K6.1	2.5YR8/2 K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ -施釉	ロクロナデ -施釉	中施原か ら					
31 LHK 26V SI03015	I	瓦塗地 広場か 平地?	小柄杯 1c縁	(9.0)	(2.7)	6/36	2.5GTY7/1 に-5V1縁	2.5GYV7/1 褐色	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	13c末ごろ ~	14c初期				
32 LHK 26V SI03015	I	瓦塗地 極Ⅱ	無柄杯	(6.2)	(4.4)	8/36	GYR7/1 に-5V1縁	GYR7/1 褐色	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ -施釉	ロクロナデ	ロクロナデ	13c前半				
33 LHK 26V SI03015	I	瓦塗地 極Ⅱ	無柄杯	(4.0)			2.5GY8/1 に-5V1縁	2.5GYV8/1 褐色	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ -施釉	ロクロナデ	ロクロナデ	13c前半				
34 MIK 24X22 SB66249 P6197	I	豪江 - 瓦塗地	小柄杯 花瓶?	(12.0)	(1.9)	4/36	10YR8/2 K6.1	2.5YR8/2 K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	白練原にオ ーバーライ ド有り。13c 後半から 写真あり。中 施原式				
35 MIK 24Y10 SK8223	I	走柵系 陶器	壺			(4.0)	N3/0 K6.1	N4/0 K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ナデ	ナデ	ナデ	官窯室か 13c末				
36 MIK 24X21 SI03007	I	土塚周	壺			(7.6)	(1.2)	8/36							官窯室の跡 写真あり。下 づくね成形			
37 MIK 23Y10 SI03007	I	走柵系	壺			(3.3)		N7/0 K6.1	N7/0 K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	IV期			
38 MIK 23X19	V	豪江 - 瓦塗地	腹反張 か	(6.0)	(1.7)	5/36					中やや 濃い茶色 粘土-長石を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	大泊原 2c			
39 MIK 24Y	B	走柵系 陶器	壺Ⅱ			(2.4)	2.5GY7/1 に-5V1縁	2.5GYV7/1 褐色	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ -施釉	ロクロナデ	ロクロナデ	13c前半				
40 MIK 24X	津土 系施原	壺	Ⅱ			(5.7)	N4/0 K6.1	N5/0 K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	官窯室				
41 MIK 25Z23	タク 系施原	壺	Ⅲ			(3.9)	N5/0 K6.1	10YR6/2. K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ナデ	ナデ	ナデ	官窯室				
42 NIK 16L15 SB66035 P6070	I	土塚周	壺			(8.3)	(1.9)	5/36	SYR7/6 縁	SYR8/4 縁	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	内外面-施原 スス-コゲ		
43 NIK 17120 SI06006	2	土塚周	小壺	(7.2)	(5.0)	1.6	9/26	14/36	7.5YR8/4 底直縁	7.5YR8/4 底直縁	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ			
44 NIK 17120 SI06006	4	土塚周	小壺	(6.0)	(9.0)		9/36	7.5YR7/3 に-5V1縁	7.5YR7/3 に-5V1縁	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ				
45 NIK 17120 SI06006	4	土塚周	片口壺	29.0		(7.0)		N7/0 K6.1	N7/0 K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	田原 同一鉢 体あり。口部 細部磨石にして 施原。			
46 NIK 17134-19 -20	SI06000	I	走柵系 陶器	壺Ⅱ		(1.4)	10GY7/1 に-5V1縁	10GY7/1 褐色	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ -施釉	ロクロナデ	ナデ	13c前半				
47 NIK 17M SD3056	I	土塚周	壺			(6.0)	(2.0)	5/36	7.5YR7/4 に-5V1縁	7.5YR7/4 に-5V1縁	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ			
48 NIK 17M SD3056	I	土塚周	壺					7/36	SYR7/4 に-5V1縁	SYR7/4 に-5V1縁	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ			
49 NIK 17M SD3056	I	走柵系	壺					7.5GYV8/1 に-5V1縁	7.5GYV8/1 褐色	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	13c前半			
50 NIK 17M SD3056	I	走柵系	壺					9/36	N6/0 K6.1	N6/0 K6.1	良好	中やや 濃い茶色の 粘土を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	田原		

## 観察表

古代・中世の土器観察表（2）

報告No.	地区	グリッド	通緝	棚位	種類	器種	法量 (cm)			底部 底面半 底面半径	外色面 内色面	施成	第1:	外面調査	内面調査	底面調査	備考		
							口径	底径	高さ										
51	NKR	18N		上層質 土壌	小品		(6.0)	(1.2)		7/36	T.5YR7/2 明褐色	良好	約0.5～1mmの 白い石子、赤土 の塊を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り	外側一歩付 者		
52	OIK	15P22	SD6053	I	陶器底	片口跡		(4.0)		N7/0 灰白	T.5YR7/2 明褐色	やや 不良	細かな白色・褐色 の粒を多く含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	木の下脚目 (7集)	古期		
53	OIK	14P15	SD6054	I	上層質 土壌	盤	(12.2)	(8.0)	4.2	1/36	7.5YR7/6 褐	SVR7/6 褐	良好	細かな白色・褐色 の粒を多く含む。 底面は褐色。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り(右)		
54	OIK	14P25	SD6054	I	上層質 土壌	板	(12.0)		8.0	8/36	7.5YR8/3 浅褐色	良好	細かな白色 の粒を多く含む。	ロクロナデ	ロクロナデ				
55	OIK	14P20	SD6054	I	上層質 土壌	皿か	(11.0)		(2.7)	4/36	7.5YR7/6 褐	SVR7/6 褐	良好	細かな白色・褐色 の粒を多く含む。	ロクロナデ	ロクロナデ			
56	OIK	14P20	SD6054	I	上層質 土壌	皿		(7.0)	(1.1)	9/36	7.5YR7/3 灰-灰褐色	T.5YR7/1 明褐色	良好	細かな白色・褐色 の粒を多く含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		
57	OIK	14P25	SD6054	I	上層質 土壠	小皿		(7.0)	(0.8)	7/36	7.5YR8/4 浅褐色	7.5YR8/2 灰	良好	細白、微かな白色 の粒子・石子、灰-褐 色の塊状物を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り(右)		
58	OIK	14P25	SD6054	I	上層質 土壠	小皿		(7.0)	(1.2)	7/36	7.5YR7/3 灰-灰褐色	7.5YR8/3 灰-灰褐色	良好	細白、微かな白色 の粒子・石子を わずかに含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り(右)		
59	OIK	14P15	SD6054	I	上層質 土壠	小皿		(6.0)	(0.7)		7.5YR7/4 灰-灰褐色	7.5YR8/4 灰-灰褐色	良好	細白、微かな白色 の粒子を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り(右)		
60	OIK	14P15	SD6054	I	上層質 土壠	小皿		(6.0)	(0.9)	6/36	7.5YR8/3 灰-灰褐色	7.5YR8/3 灰-灰褐色	やや 不良	細白、微かな白色 の粒子・石子を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り	風化著しい。	
61	OIK	14P20	SD6054	I	上層質 土壠	小皿		(5.4)	(1.0)	11/36	7.5YR8/3 灰-灰褐色	7.5YR8/3 灰-灰褐色	良好	細白、微かな白色 の粒子を僅かに 含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り	風化著しい。	
62	OIK	14P15	SD6054	I	上層質 土壠	小皿			(7.0)	(1.0)	3/36	7.5YR8/4 灰-灰褐色	7.5YR8/4 灰-灰褐色	良好	細白、約2mmの 石子・微細な白色 の粒子を少しある。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り(右)	風化著しい。
63	OIK	14P25	SD6054	I	上層質 土壠	小皿	(7.0)	(6.0)	1.4	11/36	7.5YR7/3 灰-灰褐色	7.5YR8/4 灰-灰褐色	良好	細白、微かな白色 の粒子・石子を含む わずかに含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り(右)		
64	OIK	14P25	SD6054	I	上層質 土壠	小皿	(6.0)	(6.0)	2.1	4/36	7.5YR8/3 灰-灰褐色	7.5YR7/8 灰-灰褐色	良好	細白、微かな白色 の粒子・石子を含む。	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り		

石製品・石器観察表

報告No.	地区	グリッド	通緝	棚位	種類	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			
65	NKR	16L		建上	石製品	鉢	砂岩		(13.8)	(4.7)	185.0	内面入又・化粧物跡付。
66	NKR	17L20	SE6006	8号	石器	砾石	海岡石	(10.0)	(5.6)	(4.4)	269.3	
67	OIK	14P20	SD6054	I	石器	砾石	海岡石	(3.8)	(2.2)	(1.2)	9.9	

金属製品

報告No.	地区	グリッド	通緝	棚位	種類	器種	法量 (cm)			備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	
68	MKR	24Y2	SD6187	I	鉄製品	鉢	(10.8)	1.3	40.7	銹
69	MKR	25Y2	P6166	I	鉄製品	鉢	(7.2)	(0.9)	12.9	

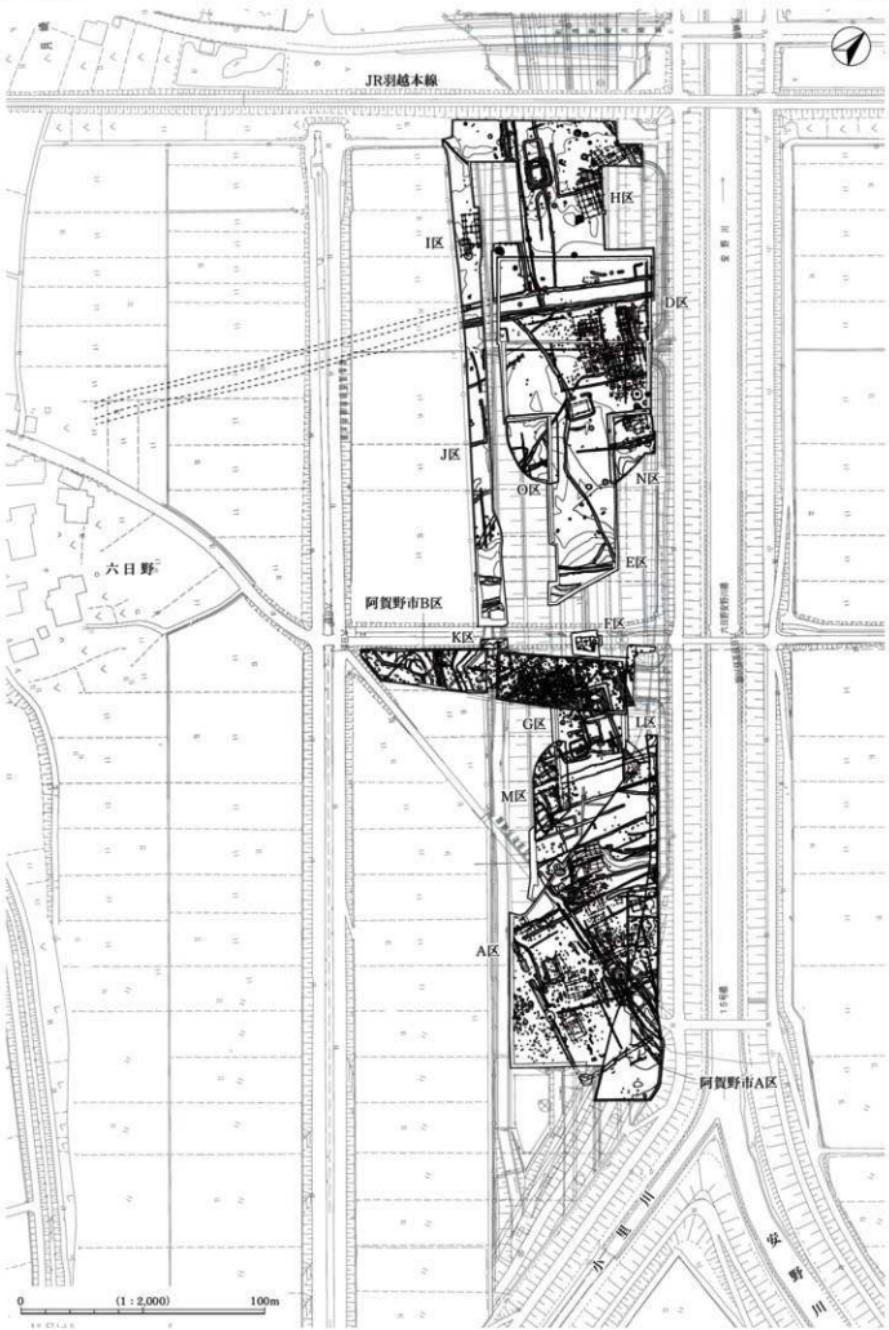
木製品観察表

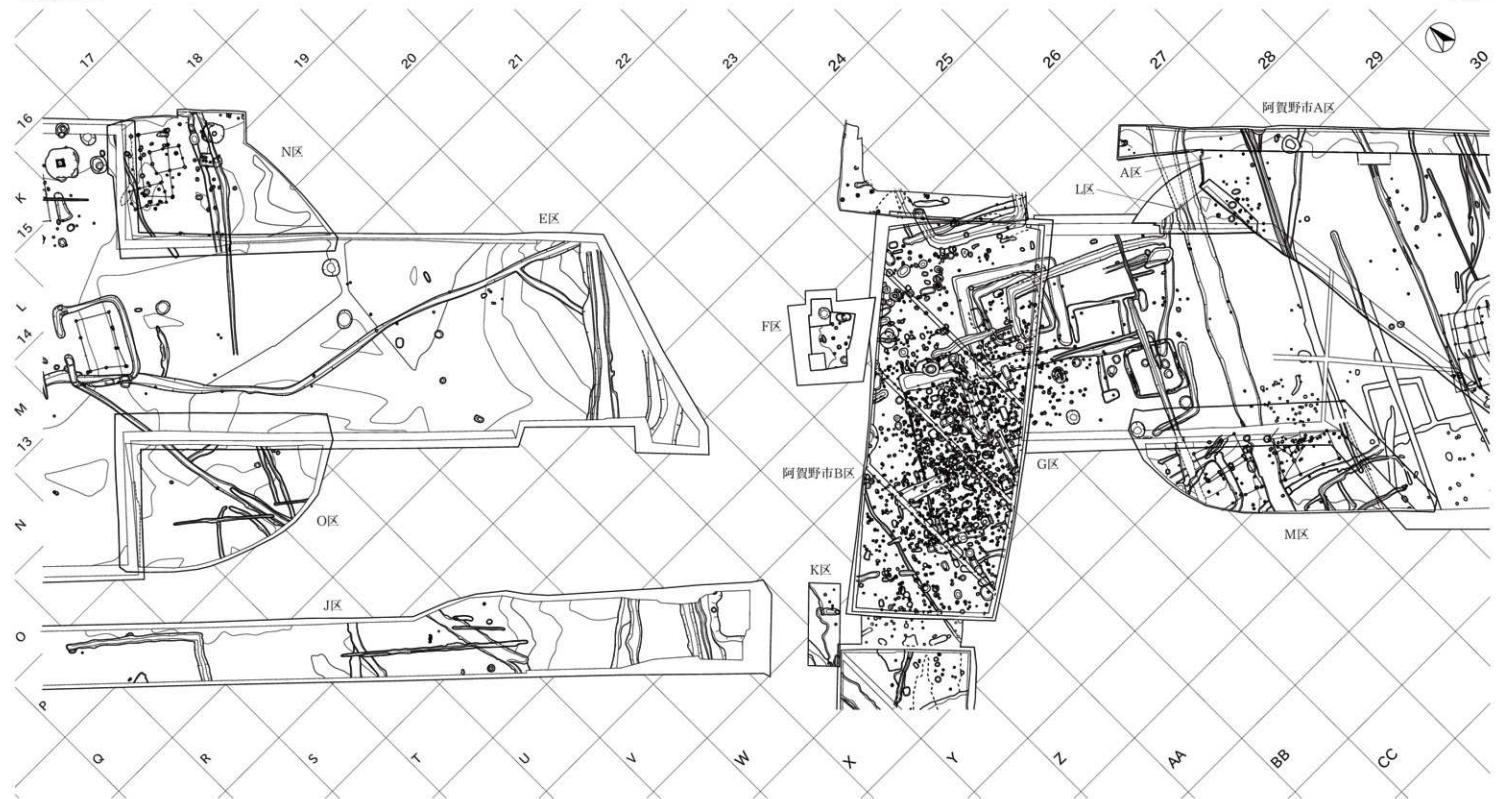
報告No.	グリッド	通緝番号	棚位	上位棚	分類	器種	細分名	本取り	法量 (cm)			備考
									原寸長	直径 (cm)	厚さ (cm)	
70	17L20	SE6006	東側	施設	杭	芯打ち			30.7	4.3	4.5	ナシ
71	17L20	SE6006	西側	水槽	芯物	桿目			17.4	45.8	0.5	スギ ナシ 全体にPVC、西側ケビキ柄、板を埋め柱頭を残す(1脚隠す)。

図 版

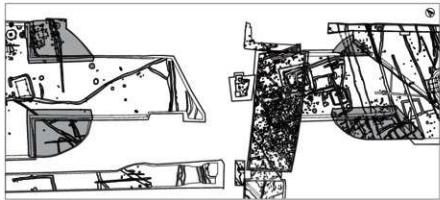
調査範囲図

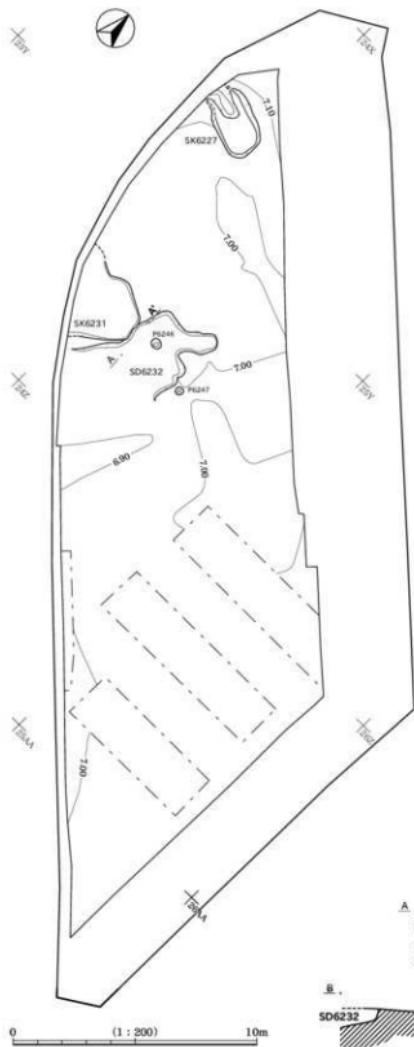
図版 1



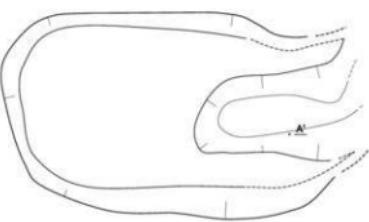


0 (1 : 500) 20m





SK6227



A-A' 7.3m

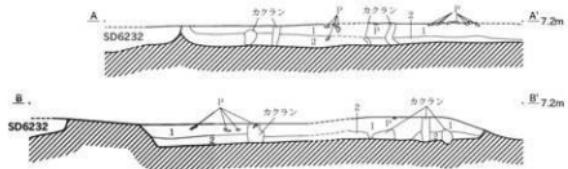


B-B' 7.3m



SK6227  
1 2.5YT/2m 黄色シルト φ 20mm以下の炭化物微量含む 剥離・しまり強い  
2 2.5YT/2m 黄色シルト φ 10mm以下の炭化物微量含む 剥離・しまり弱い

SK6231

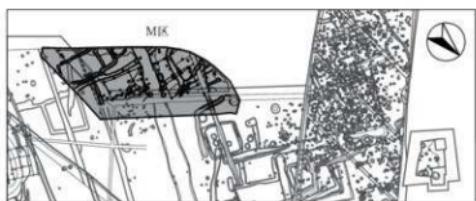


SK6231

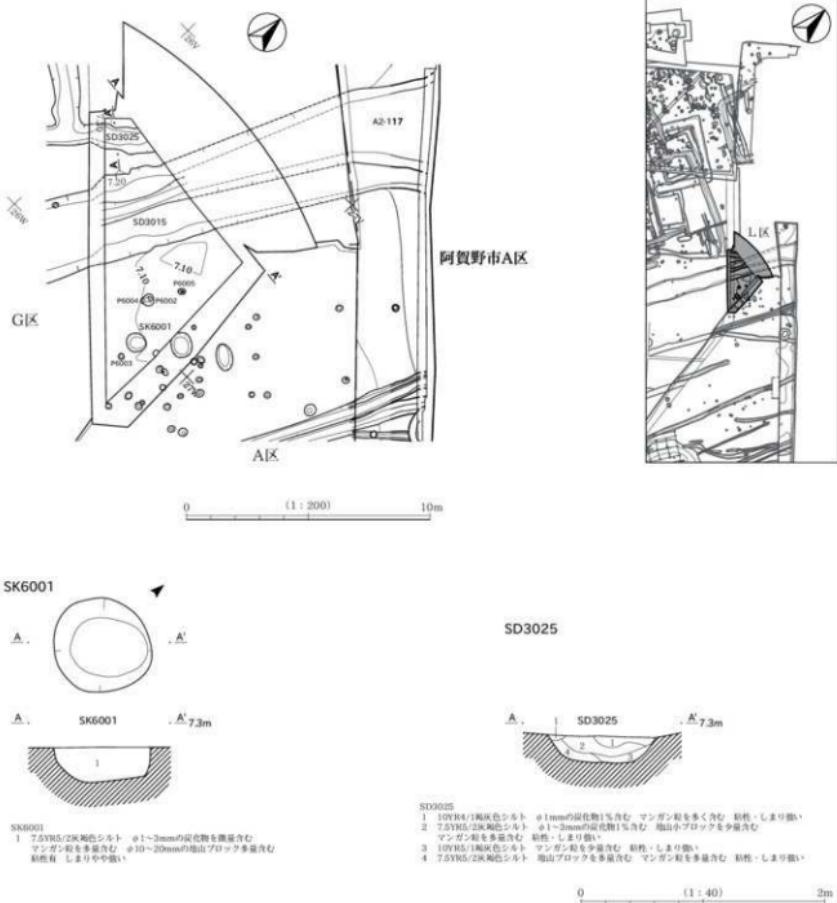
1 2.5YT/1m 白色シルト φ 20mm以下の炭化物中量含む  
2.5YT/1m 黄色シルト 中プロック少量含む 剥離・しまり強い  
2 2.5YT/1m 黄色シルト 中プロック少量含む 剥離・しまり弱い  
2.5YT/1m 黄色セラミット 中プロック少量含む 剥離・しまり弱い

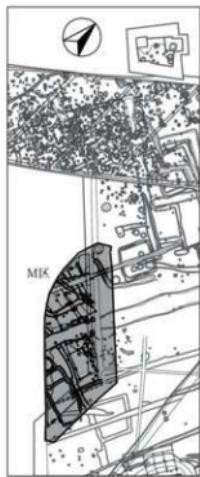
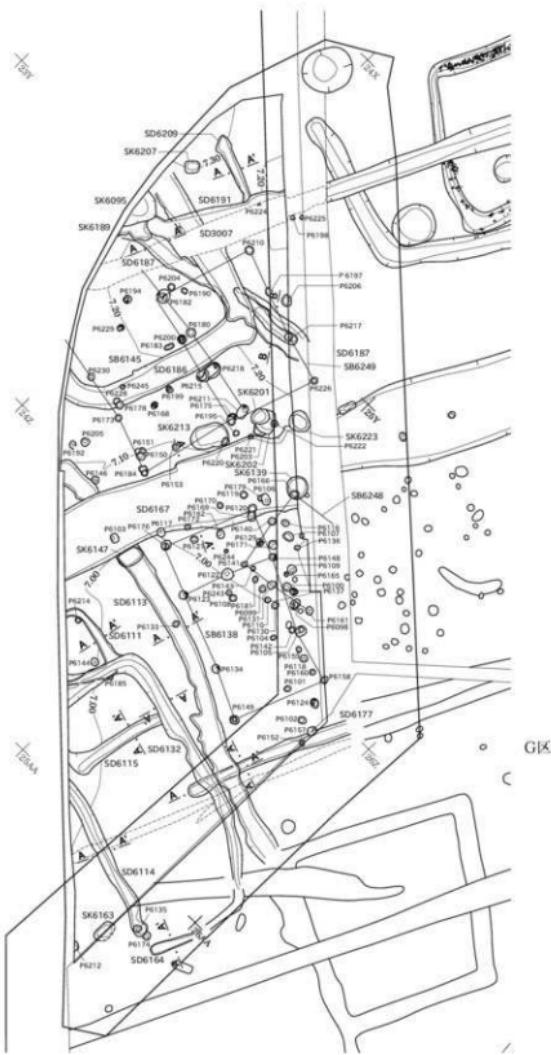
SD6232

1 2.5YT/1m 白色シルト 2.5YT/1m 白色シルト 中プロック少量含む  
φ 20mm以下の炭化物微量含む 剥離弱い

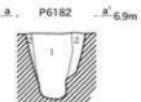
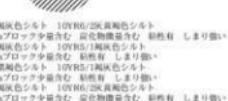
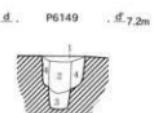
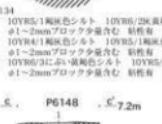
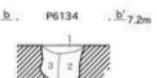
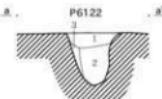
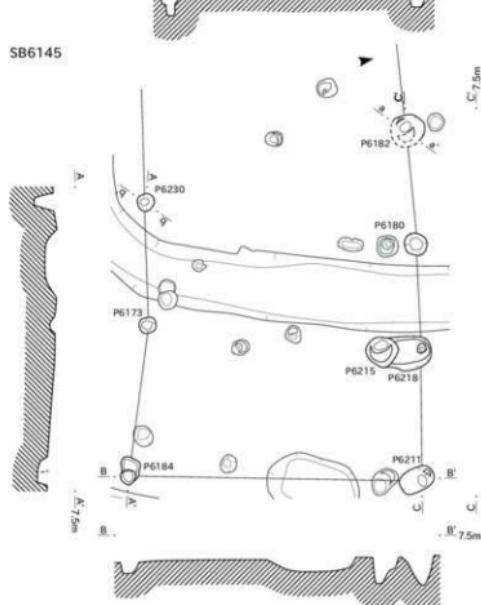
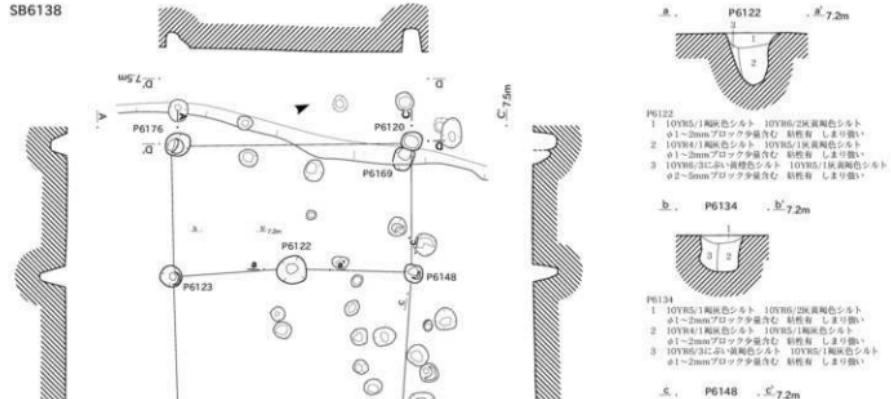


0 (1 : 40) 2m





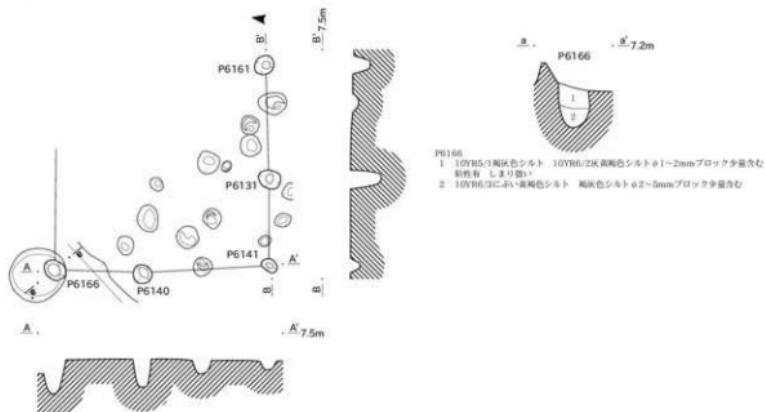
(1 : 200) 10m



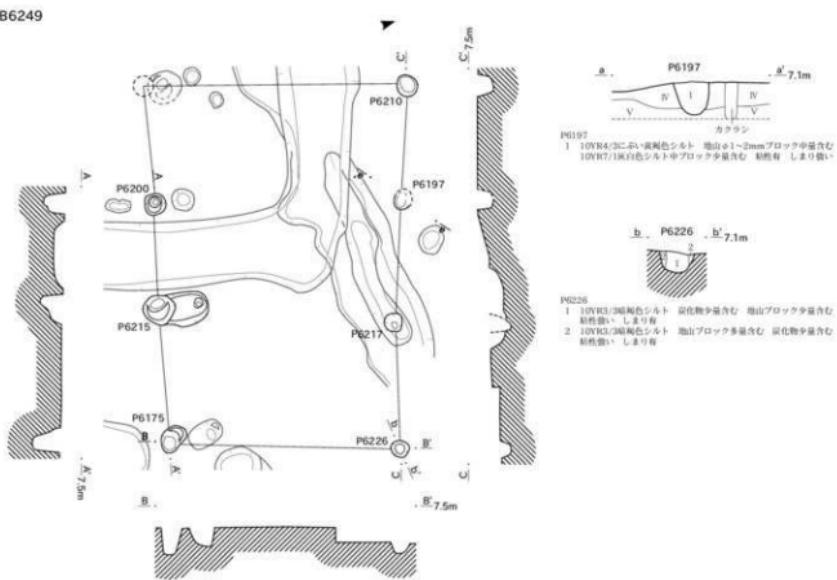
M 区 中世遺構個別図(2)

圖版 7

SB6248

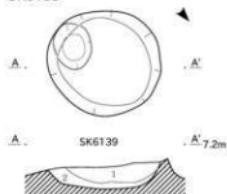


SB6249



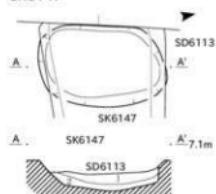
0 平面図・エレベーション図 (1:80) 4m  
0 断面図 (1:40) 2m

SK6139



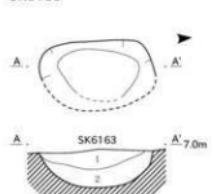
SK6139  
1 10YR4/1褐色シルト 塗山物φ1~2mmブロック多量含む 粘性有 しまり無い  
2 φ1~2mmブロック少量含む 粘性有 しまり無い

SK6147



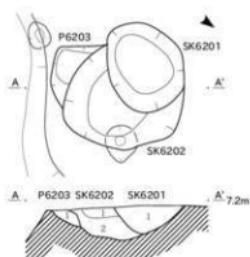
SK6147  
1 10YR4/3IC-20 前褐色シルト 塗化物少含む  
2 10YR4/2灰褐色シルト 10YR5/1褐色シルト  
粘性有 しまり無い

SK6163



SK6163  
1 10YR4/1褐色シルト マンガングリーン含む  
2 5Y6/1灰褐色シルト 粘性有 しまり無い

P6203・SK6202・SK6201

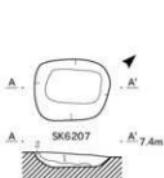


SK6201  
1 10YR4/4褐色シルト 塗化物φ1~2mmブロック多量含む  
粘性有 しまり無い

SK6202  
1 10YR4/3IC-20 前褐色シルト 塗山物φ1~2mmブロック多量含む  
粘性有 しまり無い  
2 10YR4/1褐色シルト 塗山物φ1~2mmブロック中量含む  
粘性有 しまり無い

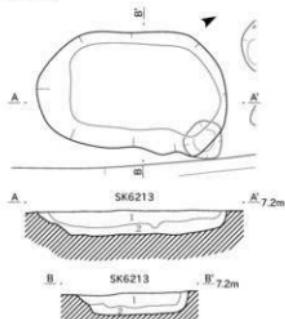
P6203  
1 10YR3/2灰褐色シルト 周山石子少量含む 粘性有 しまり無い

SK6207



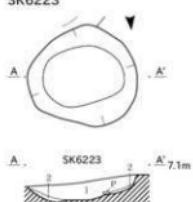
SK6207  
1 10YR4/1褐色シルト 粘性有 しまり有  
2 5Y6/2灰褐色シルト 粘性有 しまり有

SK6213



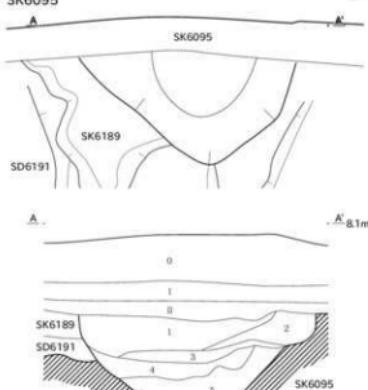
SK6213  
1 10YR5/3褐色シルト 塗化物少含む  
2 10YR5/2灰褐色シルト 塗化物多量含む  
1層ブロック含む 粘性有 しまり有

SK6223



SK6223  
1 10YR4/3IC-20 前褐色シルト  
φ1~2mmブロック中量含む  
粘性有 しまり無い  
2 10YR4/0灰褐色シルト  
塗山物φ1~2mmブロック多量含む  
粘性有 しまり無い

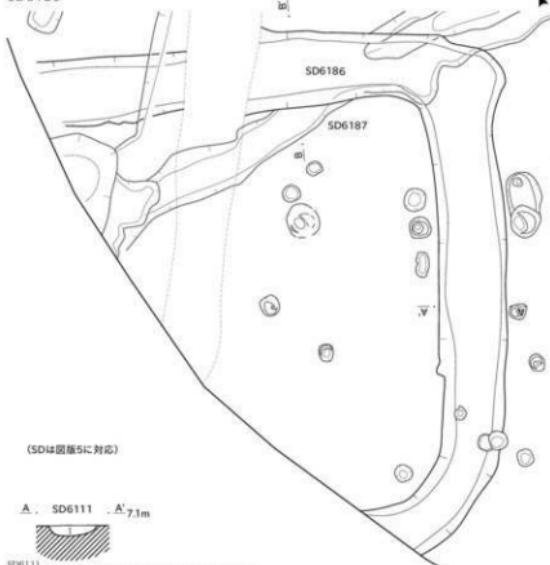
SK6095



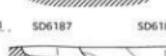
SK6095  
1 10YR4/0灰褐色シルト φ1~2mmブロック中量含む 10YR4/2灰褐色シルト含む 粘性有 しまり無い  
2 10YR4/2灰褐色シルト φ1~3mmブロック中量含む 10YR4/3IC-20 前褐色シルト含む  
3 10YR4/2灰褐色シルト 粘性有 しまり無い 10YR7/0灰褐色シルト含む  
4 10YR3/2灰褐色シルト φ1~5mmの塗化物多量含む 10YR7/10灰褐色シルト含む マンガングリーン含む 粘性有 しまり無い  
5 10YR3/6明褐色シルト φ1~3mmの塗化物多量含む 10YR3/2灰褐色シルト含む マンガングリーン含む 粘性有 しまり無い

## M 区 中世遺構個別図(4)

SD6186



A. SD6186 . A'. 7.3m

SD6186  
1 10YR5/4に少く黄褐色シルト 塗化物微量含む 地山(古層) 多量含む  
粘性有 しまり無

2 10YR7/4に少く黄褐色シルト 1層に比べ地山プロックを含む

3 10YR5/2K 黄褐色シルト 塗化物微量含む 地山(古層) 黄量含む  
粘性無 しまり有

4 10YR7/4に少く黄褐色シルト 2層と同質

SD6187  
1 10YR5/2K 黄褐色シルト 塗化物微量含む 地山(古層) 黄量含む  
粘性無 しまり有2 10YR5/2K 黄褐色シルト 1層に比べ地山(古層) 多量含む  
粘性有 しまり有

A. SD6111 . A'. 7.1m

SD6111  
1 5YR1/8赤色粘土 部分的に5YR8/2K白色シルトプロック含む  
粘性 しまり無

A. SD6113 . A'. 7.0m

SD6113  
1 5YR5/1K褐色シルト 10YR6/2K黄褐色シルトプロックを含む  
炭化物微量含む 粘性有 しまり無

A. SD6114 . A'. 7.2m

SD6114  
1 5YR1/8K白色シルト 5YR1/8K白色シルト少量含む 粘性 しまり有  
2 5YR1/8K白色シルト 5YR1/8K白色シルト和中量含む 粘性 しまり有  
3 5YR1/8K白色シルト 5YR1/8K白色シルト少量含む 粘性 しまり有

A. SD6115 . A'. 7.1m

SD6115  
1 5YR1/8赤色粘土 マンザン軽多く含む 粘性 しまり無  
2 5YR1/8K白色シルト マンザン軽含む 粘性 しまり無

A. SD6132 . A'. 7.1m

SD6132  
1 7.5YR5/1K褐色粘土 7.5YR6/2K黄褐色シルトプロック含む 粘性 しまり無  
2 5YR1/8K白色粘土 2.5YR1/8K黄色シルトプロック含む 粘性 しまり無

A. SD6177 . A'. 7.2m



SD6177

1 10YR5/1K褐色シルト 10YR6/2K黄褐色シルト φ1~2mm プロック少量含む 粘性有 しまり無  
2 10YR6/3C4色 黄褐色シルト 10YR5/1K褐色シルト φ2~5mm プロック少量含む 地山 φ1~2mm ブロック中量含む  
粘性有 しまり無

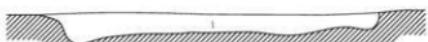
A. SD6177 SD6132 SD6173 . A'. 7.2m



A. SD6164 . A'. 7.2m

SD6164  
1 10YR5/1K褐色シルト 10YR6/2K黄褐色シルト  
φ1~2mm プロック少量含む 粘性有 しまり無

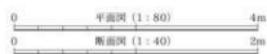
A. SD6167 . A'. 7.2m

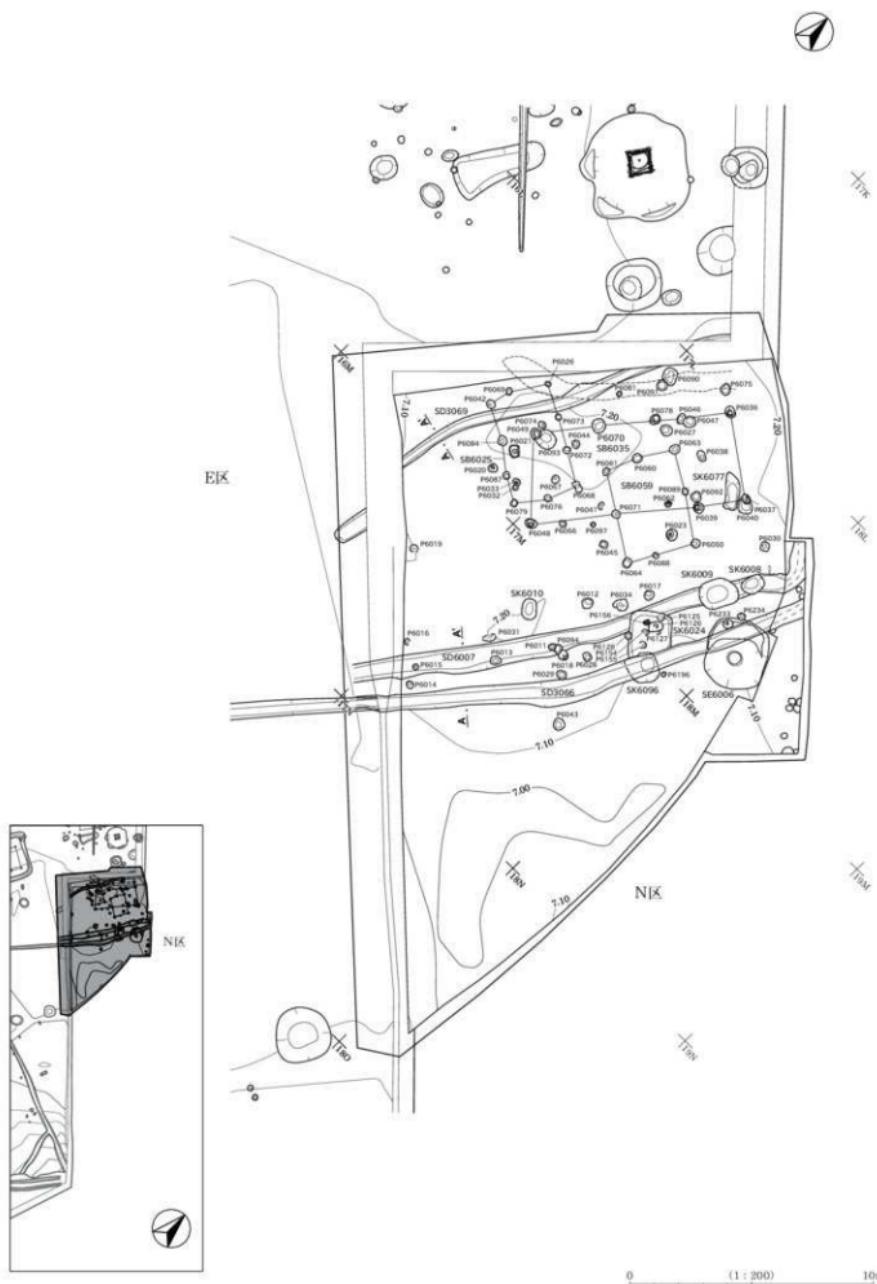
SD6167  
1 5YR1/8K白色シルト φ5mmの炭化物粒含む 遊物含有 粘性無 しまり無

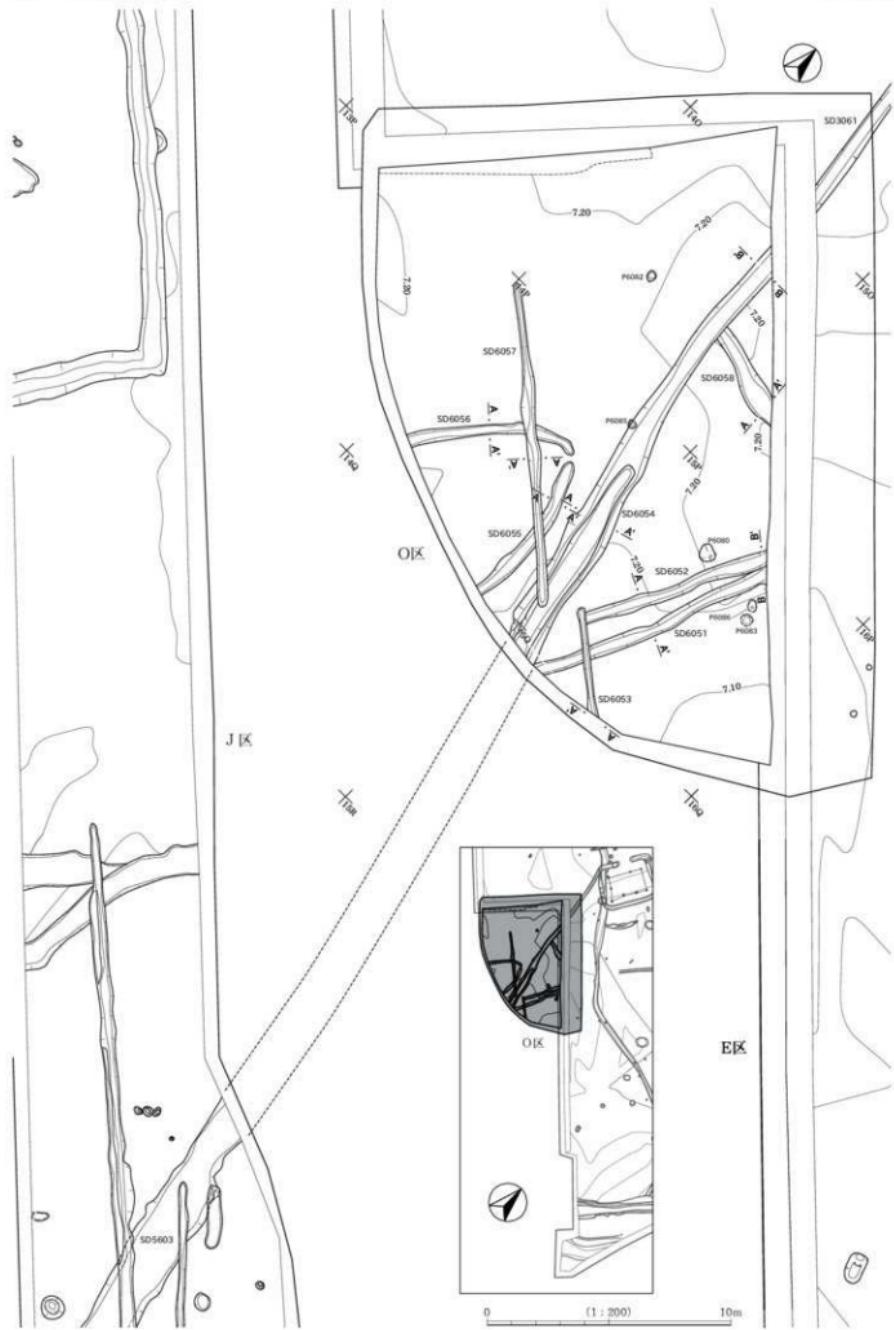
A. SD6187 . A'. 6.8m



A. SD6209 . A'. 7.3m

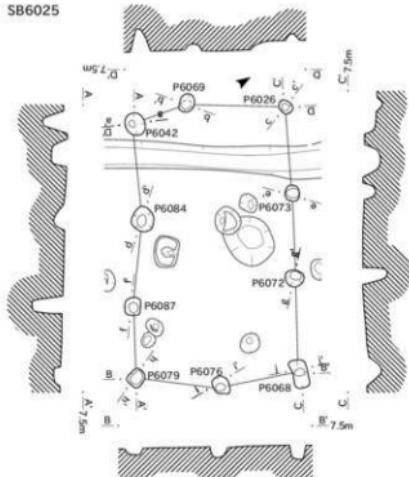
SD6209  
1 10YR5/2K黄褐色シルト 塗化物微量含む 地山(古層) 黄量含む 粘性無 しまり有  
2 2.5YR7/2K黄褐色シルト 粘性無 しまり有SD6187  
1 10YR5/2K黄褐色シルト 塗化物微量含む 地山(古層) 黄量含む 粘性無 しまり有  
2 10YR6/2K黄褐色シルト 1層に比べ地山(古層) 多量含む 粘性有 しまり有  
3 2.5YR7/2K黄褐色シルト 地山(古層) 黄量含む 粘性無 しまり有





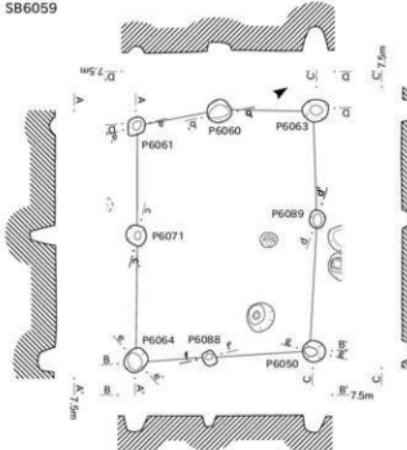
図版 12

SB6025



- P6076**  $\text{f} \sim \text{f}'$ , 7.2m  
1. 10YR4/1 深紅色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物少量含む  
地山ブロック少含む 粘性有 しまり無い  
2. 10YR4/1 深紅色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物少量含む  
10YR4/1 深紅色シルト少量含む マンガングリ少含む  
粘性有 しまり無い  
3. 10YR4/1  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物少量含む  
地山ブロック少含む 粘性有 しまり無い
- P6068**  $\text{f} \sim \text{f}'$ , 7.2m  
1. 10YR4/1 深紅色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
粘性有 しまり無い  
2. 10YR4/1 深紅色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
地山ブロック少含む 粘性有 しまり無い  
3. 10YR4/1 深紅色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
地山ブロック少含む 粘性有 しまり無い
- P6065**  $\text{f} \sim \text{f}'$ , 7.2m  
1. 10YR4/1 深紅色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
粘性有 しまり無い  
2. 10YR4/1 深紅色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
地山ブロック少含む 粘性有 しまり無い  
3. 10YR4/1 深紅色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
地山ブロック少含む 粘性有 しまり無い

SB6059



0 平面図・エレベーション図 (1:80) 4m  
0 断面図 (1:40) 2m

N 区 中世遺構個別図(1)

**P6042**  $\text{g} \sim \text{g}'$ , 7.3m

1. 10YR5/2 深黄褐色シルト 2.5YR/2K白色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
2. 10YR5/2 深黄褐色シルト 少量含む 粘性・しまり無い  
3. 2.5YR/2K白色シルト 10YR5/2 深黄褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
4. 2.5YR/2K白色シルト 10YR5/2 深黄褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い

**P6069**  $\text{b} \sim \text{b}'$ , 7.3m

1. 10YR5/2 深黄褐色シルト 2.5YR/2K白色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
2. 2.5YR/2K白色シルト 10YR5/2 深黄褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い

**P6026**  $\text{c} \sim \text{c}'$ , 7.1m

1. 2.5YR/2 深黄褐色シルト 10YR5/2 深黄褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり有  
2. 5YR/2K白色シルト 10YR5/2 深黄褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無

**P6084**  $\text{d} \sim \text{d}'$ , 7.3m

1. 10YR7/4 深褐色シルト 地山ブロック少量含む  
マングン粒少含む 粘性有 しりびり有  
2. 10YR5/2 深黄褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
10YR5/2 深黄褐色シルト 少量含む マングン粒少含む  
粘性有 しまり無い

**P6073**  $\text{e} \sim \text{e}'$ , 7.3m

1. 2.5YR/4 深褐色シルト 10YR5/1 深褐色シルト  
2.5YR/2K白色シルトブロック含む 粘性・しまり無い

**P6087**  $\text{f} \sim \text{f}'$ , 7.3m

1. 10YR4/4 深褐色シルト 10YR7/6 深褐色シルトブロック含む  
 $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む マングン粒少含む 粘性・しまり無い  
2. 10YR5/2 深褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む 粘性・しまり無い  
3. 10YR4/1 深褐色シルト 10YR7/6 深褐色シルトブロック含む  
 $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む 粘性・しまり無い

**P6072**  $\text{g} \sim \text{g}'$ , 7.3m

1. 10YR4/4 深褐色シルト 2.5YR/2K白色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
2. 10YR4/4 深褐色シルト 2.5YR/2K白色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
3. 10YR5/2 深褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
10YR5/2 深褐色シルト 少量含む マングン粒少含む  
粘性・しまり無い  
4. 2.5YR/2K白色シルト 10YR5/1 深褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い

**P6079**  $\text{h} \sim \text{h}'$ , 7.2m

1. 2.5YR/2 深黄褐色シルト 2.5YR/6 深褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い

**P6061**  $\text{g} \sim \text{g}'$ , 7.3m

1. 10YR4/1 深褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
10YR7/4/5 深褐色シルト 少量含む マングン粒少含む  
粘性有 しまり無い  
2. 10YR7/4/5 深褐色シルト 2.5YR/2K白色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
3. 10YR7/4/5 深褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
マングン粒少含む 粘性有 しまり無い

**P6050**  $\text{h} \sim \text{h}'$ , 7.2m

1. 10YR5/1 深褐色シルト 2.5YR/2K白色シルトブロック含む  
粘性少含む 粘性・しまり無い  
2. 10YR7/6 深褐色シルト 10YR5/1 深褐色シルトブロック含む  
粘性少含む 粘性・しまり無い  
3. 2.5YR/6 深褐色シルト 10YR5/1 深褐色シルトブロック含む  
粘性少含む 粘性・しまり無い

**P6071**  $\text{g} \sim \text{g}'$ , 7.2m

1. 10YR8/1 深褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
地山ブロック少量含む マングン粒少含む 粘性有  
2. 10YR7/4/5 深褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
地山ブロック少量含む マングン粒少含む 粘性有  
3. 10YR7/4/5 深褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
マングン粒少含む 粘性有 しまり無い

**P6089**  $\text{g} \sim \text{g}'$ , 7.3m

1. 10YR5/1 深褐色シルト 10YR7/6 深褐色シルトブロック含む  
多量含む 粘性・しまり無い  
2. 10YR7/6 深褐色シルト 10YR5/1 深褐色シルトブロック含む  
粘性少含む 粘性・しまり無い  
3. 2.5YR/6 深褐色シルト  $\phi 1\sim3\text{mm}$  の炭化物微量含む  
10YR5/1 深褐色シルト 少量含む マングン粒少含む  
粘性有 しまり無い

**P6064**  $\text{g} \sim \text{g}'$ , 7.2m

1. 10YR4/1 深褐色シルト 2.5YR/2 深黄褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
2. 2.5YR/2 深黄褐色シルト 10YR5/1 深褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
3. 2.5YR/2K白色シルト 10YR5/1 深褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い

**P6050**  $\text{h} \sim \text{h}'$ , 7.2m

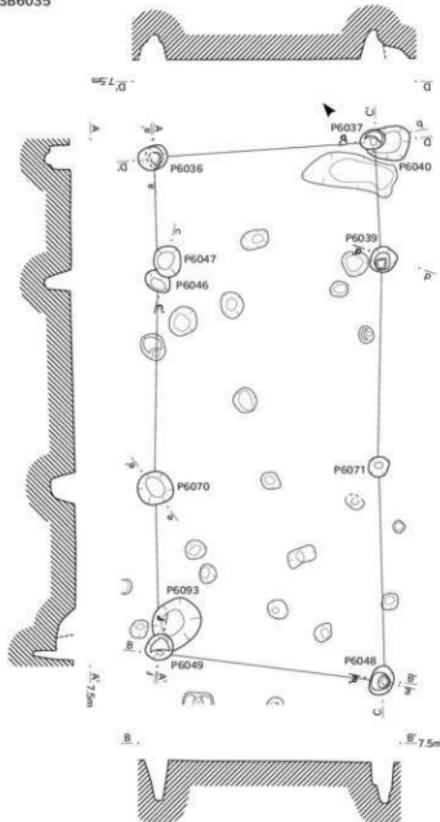
1. 10YR5/2 深黄褐色シルト 2.5YR/6 深褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
2. 2.5YR/6 深褐色シルト 10YR5/2 深黄褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
3. 2.5YR/6K白色シルト 10YR7/6 深褐色シルトブロック含む  
多量含む 粘性・しまり無い

**P6088**

1. 10YR7/6 深褐色シルト 10YR5/1 深褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い  
2. 10YR7/6 深褐色シルト 10YR7/6 深褐色シルトブロック含む  
粘性・しまり無い

## N 区 中世遺構個別図(2)

SB6035



P6049

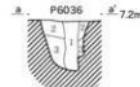


1. 2.5YR 1/4明灰色シート - 2.5YR 2/8白色シートブロック含む  
粘性・しまり無い
2. 10YR 5/2明灰色シート - 2.5YR 2/8白色シートブロック含む  
粘性・しまり無い
3. 10YR 7/0明黄色シート - 2.5YR 2/8白色シート  
シートブロック含む  
粘性・しまり無い

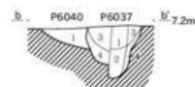
P6048



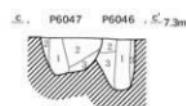
1. 10YR 4/2明灰色シート - 5YR 6/0明黄色シートブロック多量含む  
粘性・しまり無い
2. 2.5YR 1/4明灰色シート - 2.5YR 2/8白色シート  
シートブロック含む
3. 2.5YR 2/8白色シート - 10YR 7/0明黄色シート  
シートブロック含む  
粘性・しまり無い



- P6036
1. 10YR 4/2明灰色シート - #1-3mm炭化物漂浮含む  
粘性有・しまり無い
  2. 10YR 6/0明黄色シート - 10YR 4/2明黄色シート多量含む
  3. 10YR 7/4明黄色シート - 10YR 4/2明黄色シート少量含む  
#1-3mmの炭化物漂浮含む  
粘性・しまり無い

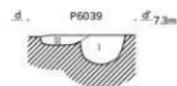


- P6037
1. 10YR 4/2明灰色シート - 10YR 6/0明黄色シートブロック含む  
粘性・しまり無い
  2. 10YR 5/2明灰色シート - 粘性・しまり無い
  3. 10YR 5/2明灰色シート - 10YR 7/0明黄色シートブロック含む  
粘性・しまり無い
  4. 2.5YR 1/4明灰色シート - 10YR 5/2明黄色シートブロック含む  
粘性・しまり無い
- P6040
1. 10YR 4/2明灰色シート - 10YR 6/0明黄色シートブロック含む  
粘性・しまり無い



- P6046
1. 10YR 4/1明灰色シート - 2.5YR 6/0明黄色シート  
シートブロック含む  
粘性・しまり無い
  2. 10YR 5/1明灰色シート - 2.5YR 6/0明黄色シート  
シートブロック含む
  3. 2.5YR 4/2明灰色シート - 2.5YR 2/8白色シート  
シートブロック含む  
粘性・しまり無い

- P6047
1. 10YR 4/1明灰色シート - 2.5YR 6/0明黄色シート  
シートブロック含む  
粘性・しまり無い
  2. 2.5YR 1/4明灰色シート - 2.5YR 2/8白色シート  
シートブロック含む
  3. 2.5YR 2/8白色シート - 10YR 7/0明黄色シート  
シートブロック含む  
粘性・しまり無い



- P6039
1. 10YR 4/2明灰色シート - 地山ブロック少量含む  
从黄色シート上ブロック微量含む  
粘性有・しまり無い

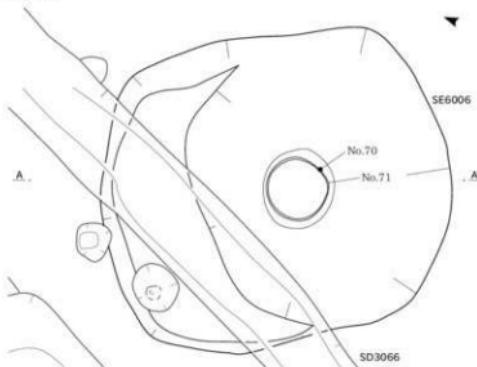


- P6070
1. 10YR 4/1明灰色シート・粘性・しまり無い
  2. 2.5YR 6/0明黄色シート - 10YR 4/1明灰色シートブロック多量含む  
粘性・しまり無い

図版 14

N 区 中世遺構個別図(3)

SE6006



SE6006

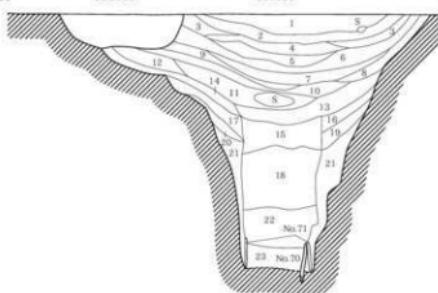
- 1 LOV84/32.高い黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 2 LOV84/32.早い黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 3 LOV84/32.早い黄褐色シルト φ1~5mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 4 LOV84/32.早い黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 5 LOV84/32.早い黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄や有り しまり強い
- 6 LOV84/32.早い黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 7 2.5%の黄褐色シルト LOV84/46色シルト多量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 8 LOV84/32.早い黄褐色シルト 地山小プロック微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 9 LOV84/32.早い黄褐色シルト 地山小プロック微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 10 LOV84/32.早い黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 11 LOV84/32.早い黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む マンガン粒多量含む 硫化鉄微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 12 2.5%の黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 13 2.5%の黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 14 2.5%の黄褐色シルト LOV84/32.高い黄褐色シルトプロック多量含む  
地山小プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む  
粘性や有 しまり強い
- 15 LOV84/28.黄褐色粘土 φ1~10mmの炭化物微量含む 2.5%/2K黃色粘土  
プロック含む 地山プロック含む 硫化鉄や有り しまり強い
- 16 LOV84/28.黄褐色粘土 φ1~3mmの炭化物微量含む 2.5%/2K黃色粘土  
プロック含む 地山プロック含む 硫化鉄や有り しまり強い
- 17 2.5%の黄褐色シルト φ1~10mmの炭化物微量含む 地山プロック微量含む  
粘性や有 しまりやや強い
- 18 LOV84/28.黄褐色粘土 φ1~10mmの炭化物微量含む 2.5%/2K黃色粘土  
プロック含む 地山プロック含む 硫化鉄や有り しまりやや強い
- 19 2.5%の黄褐色粘土 φ1~3mmの炭化物微量含む 2.5%/2K黃色粘土  
プロック含む 地山プロック含む 硫化鉄や有り しまりやや強い
- 20 LOV84/28.黄褐色粘土 φ1~3mmの炭化物微量含む 2.5%/2K黃色粘土  
小プロック微量含む 硫化鉄や有り しまりやや強い
- 21 2.5%の黄褐色粘土 φ1~3mmの炭化物微量含む 2.5%/2K黃色粘土  
地山プロック微量含む 硫化鉄・玉藻片微量含む マンガン粒含む  
粘性や有 しまりやや強い
- 22 2.5%の黄褐色粘土 φ1~10mmの炭化物微量含む 2.5%/2K黃色粘土  
小プロック微量含む マンガン粒含む 硫化鉄や有り しまり強い
- 23 2.5%/2K黃色砂質シルト マンガン粒多量含む 硫化鉄無し しまり強い

SD3066

SD3066

SE6006

A'-7.2m

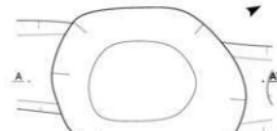


SK6008



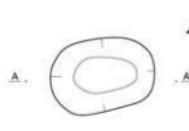
SK6008 A-A' 7.2m

SK6009



SK6009 A-A' 7.2m

SK6010



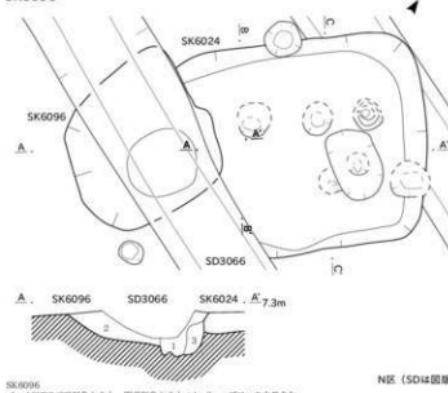
SK6010 A-A' 7.3m

- SK6008  
 1 LOV82/2.乳白色シルト φ1~3mmの炭化物微量含む  
地山プロック微量含む 粘性有 しまり強い  
 2 LOV82/2.乳白色シルト φ1~3mmの炭化物微量含む  
地山プロック微量含む 粘性有 しまり強い

- SK6009  
 1 LOV85/4.褐色シルト 10YR5/6.黄褐色シルトの地山  
φ1~5mmの炭化物微量含む 粘性有 しまり強い  
 2 LOV85/1.褐色シルト 10YR3/1.黄褐色粘土上  
φ1~2mmの炭化物微量含む 粘性有 しまり強い  
 3 10YR3/6.黄褐色シルト 10YR5/6.黄褐色シルトの地山  
φ5~10mmの炭化物微量含む 粘性有 しまり強い

## N 区 中世遺構個別図 (4)・O 区 中世遺構個別図

## SK6096



## SK6096

- 1 LOYR2/3灰褐色シルト 塗覆物微量含む  
粘性少シルトブロック多量含む
- 2 LOYR6/4灰褐色シルト 塗覆物シルト粒子少量含む
- 3 LOYR6/6灰褐色シルト 塗覆物シルト粒子少量含む

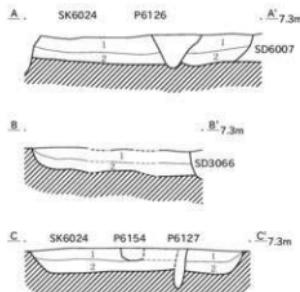
## SK6077



## SK6077

- 1 LOYR3/1黒褐色シルト φ1~3mm塗覆物微量含む  
地山ブロック少量含む マンガン粒少量含む 粘性有 しまり強い
- 2 LOYR4/2灰褐色シルト φ1~3mm塗覆物微量含む  
地山ブロック少量含む マンガン粒少量含む 粘性有 しまり強い

## O 区 (SDは図版 11に対応)



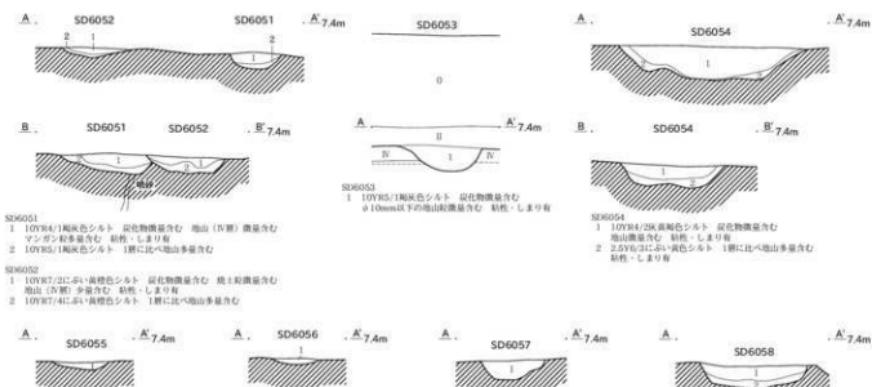
- SD3007  
 1 2.5YR2/2灰褐色シルト LOYR4/4灰褐色シルトブロック多量含む  
マングン粒少量含む 粘性有 しまり強い  
 2 2.5YR5/3黄褐色シルト LOYR4/4灰褐色シルトブロック少量含む  
マングン粒少量含む 粘性有 しまり強い

- SD3069  
 1 10YR2/2黒褐色シルト φ1~3mmの炭化物微量含む  
地山ブロック少量含む マンガン粒少量含む  
 粘性有 しまり強い  
 2 10YR5/3黄褐色シルト φ1~3mmの炭化物微量含む  
1層上 黑褐色シルト マンガン粒少量含む 粘性有  
しまり強い



- SD6007  
 1 10YR3/4灰褐色シルト 10YR4/6灰褐色シルト 10YR5/2灰褐色シルトを  
ブロック状に含む 粘性や中 しまり有  
 2 10YR4/6灰褐色シルト 10YR5/4灰褐色シルト 10YR5/2灰褐色シルトを  
ブロック状に含む 粘性や中 しまり有  
 3 10YR5/3に赤い灰褐色シルト 10YR5/4灰褐色シルトをブロック状に含む  
マングン粒少量含む 粘性 しまり有

## O 区 (SDは図版 11に対応)



- SD6051  
 1 10YR6/1灰褐色シルト 塗覆物微量含む 地山 (IV層) 多量含む  
地山ブロック少量含む 粘性 しまり有  
 2 10YR5/1灰褐色シルト 1層に比べ地山多量含む

- SD6052  
 1 LOYR7/2に赤い灰褐色シルト 塗覆物微量含む 地土剥離含む  
地出 (V層) 少量含む 粘性 しまり有  
 2 LOYR7/4に赤い灰褐色シルト 1層に比べ地山多量含む

- SD6055  
 1 LOYR7/2に赤い灰褐色シルト 塗覆物微量含む  
地山 (V層) 多量含む 粘性 しまり有
- SD6056  
 1 LOYR7/4に赤い灰褐色シルト  
地山 (V層) 多量含む 粘性 しまり有

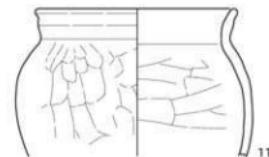
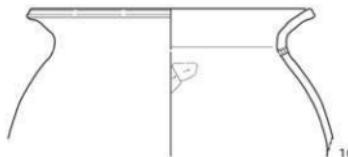
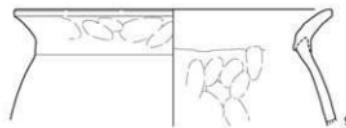
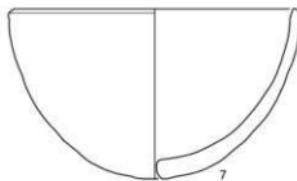
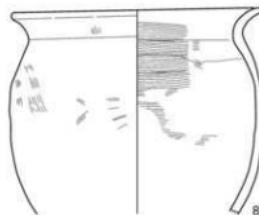
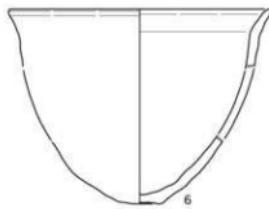
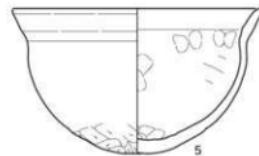
- SD6057  
 1 LOYR7/4に赤い灰褐色シルト  
地山 (V層) 多量含む 粘性 しまり有

- SD6058  
 1 LOYR4/1灰褐色シルトと LOYR7/4に赤い灰褐色シルトの  
混合土 地山 (V層) 多量含む 粘性 しまり有  
 2 10YR7/4に赤い灰褐色シルト 1層に比べ地山多量含む  
多量含む 粘性 しまり有

古墳時代  
M区  
SK6227 (1・2)



SK6231 (3~13)

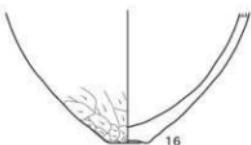
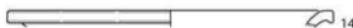


## 古墳時代の土器(2)、古代の土器・陶磁器、中世の土器・陶磁器(1)

古墳時代

M区

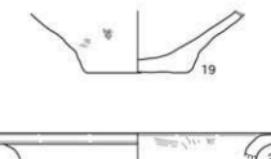
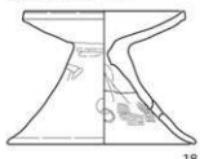
SK6231 (14~16)



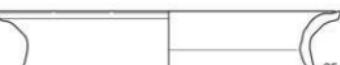
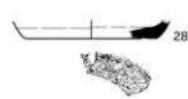
SD6187 (17)



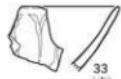
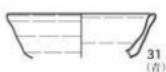
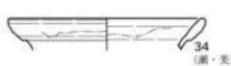
SD6232 (18~20)



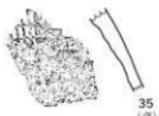
遺構外 (21~25)

古代  
L区  
P6002 (26)O区  
SD6051 (27)M区  
遺構外 (28)L区  
遺構外 (29)

29

中世  
L区  
SD3015 (30~33)M区  
SB6249-P6197 (34)

SK6223 (35)

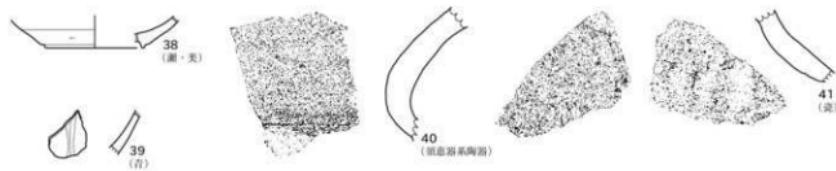


SD3007 (36~37)



0 15cm (1:3)

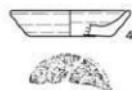
中世の土器2  
M区  
遺構外 (38~41)



N区  
SB6035-P6070 (42)



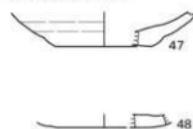
SE6006 (43~45)



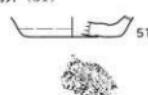
SK6009 (46)



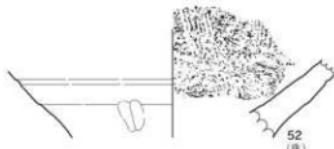
SD3066 (47~50)



遺構外 (51)



O区  
SD6053 (52)



SD6054 (53~64)



## 中世の石製品・金属製品・木製品

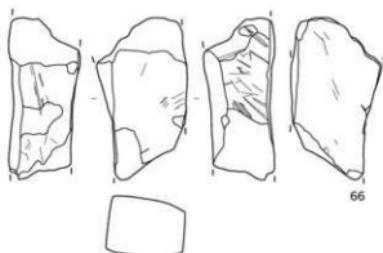
石製品 (65~67)  
N区造構外 (65)

O区SD6054 (67)

木製品 (70・71)  
N区SE6006 (70・71)

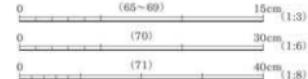


N区SE6006 (66)



金属製品 (68・69)  
M区SD6187 (68)

M区P6166 (69)





N・O 区 全景(北西から)



M 区 全景(東から)



M 区中層 完掘(東から)



M 区 SK6227 セクション(南東から)



M 区 SK6231 遺物出土状況(南西から)



L 区 完掘(南東から)



N 区 完掘(南東から)



N 区 SE6006 探出状況(南西から)



N 区 SE6006 水灌施設(曲物)検出(南西から)



N 区 SE6006 完掘(南西から)



M 区南壁 基本層序・SD6132 (北東から)



M 区南壁 基本層序・SD6113 (北東から)



M 区 SK6227 セクション (南東から)



M 区 SK6227 遺物出土状況 (南東から)



M 区 SK6227 完掘 (南東から)



M 区 SK6227・6231 完掘 (東から)



M 区 SK6231 セクション (東から)



M 区 SK6231 SD6232 セクション (北から)



M 区 SK6231 遺物出土状況（東から）



M 区 SK6231 遺物出土状況（南から）



M 区 SD6232 完掘（南西から）



M 区 SD6232 完掘（北東から）



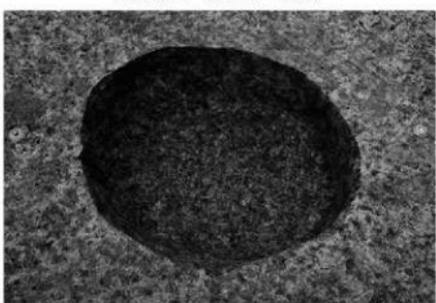
M 区 P6246 セクション（北から）



M 区 P6247 セクション（北から）



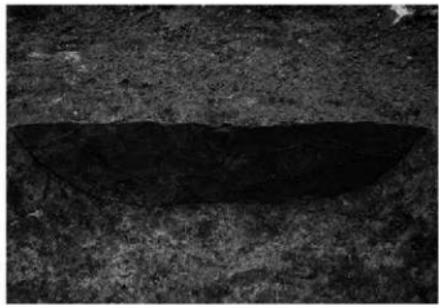
L 区 SK6001 セクション（南東から）



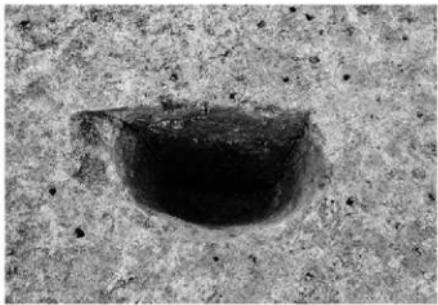
L 区 SK6001 完掘（南東から）



L 区 SD3015・3025 北壁 セクション（南から）



L 区 SD3025 セクション（北東から）



L 区 P6003 セクション（南東から）



M 区 SB6138-P6122 セクション（北西から）



M 区 SB6138-P6123 セクション（南西から）



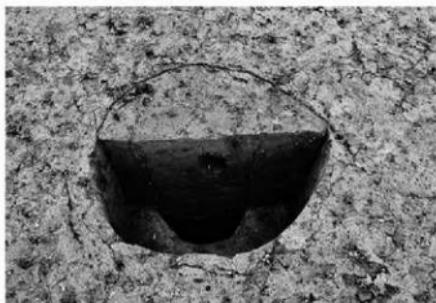
M 区 SB6138・6145・6248・6249 (南西から)



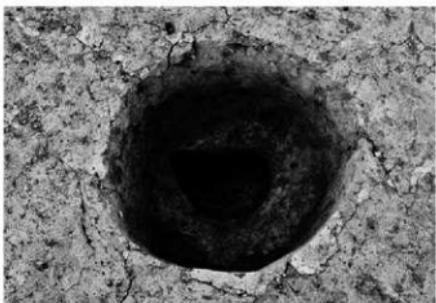
M 区 SB6138-P6134 セクション (南西から)



M 区 SB6138-P6148 セクション (北東から)



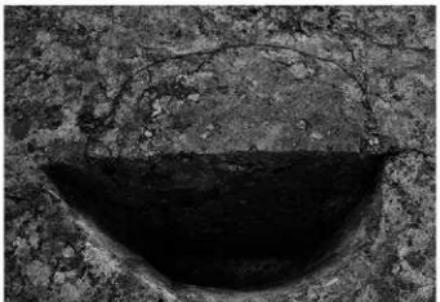
M 区 SB6138-P6149 セクション (南西から)



M 区 SB6138-P6149 完掘 (南西から)



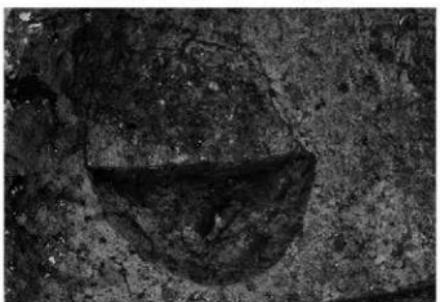
M 区 SB6145-P6182 セクション（南東から）



M 区 SB6145-P6230 セクション（南東から）



M 区 SB6248-P6131 セクション（西から）



M 区 SB6248-P6166 セクション（北東から）



M 区 SB6248-P6161 セクション（西から）



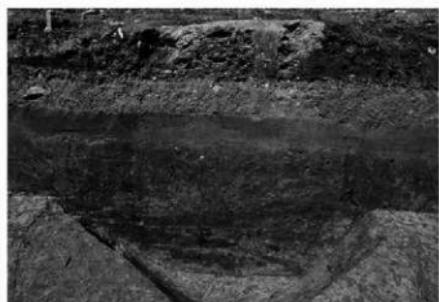
M 区 SB6249-P6197 セクション（北西から）



M 区 SB6249-P6197 遺物出土状況（北西から）



M 区 SB6249-P6226 セクション（南から）



M 区 SK6095 セクション（北東から）



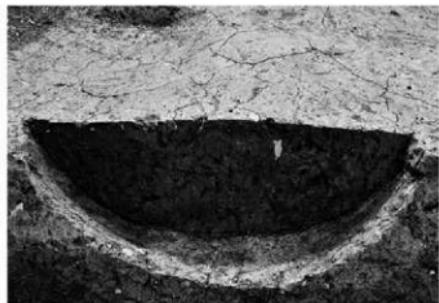
M 区 SK6139 セクション（北東から）



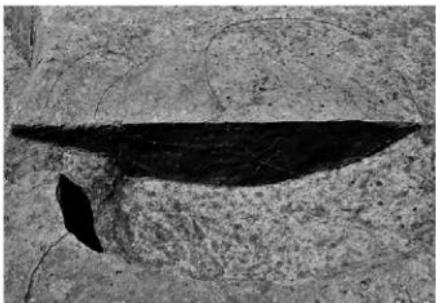
M 区 SK6139 完掘（北東から）



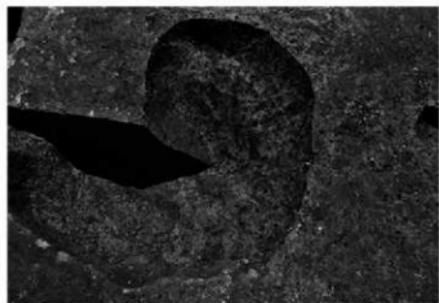
M 区 SK6147 セクション（東から）



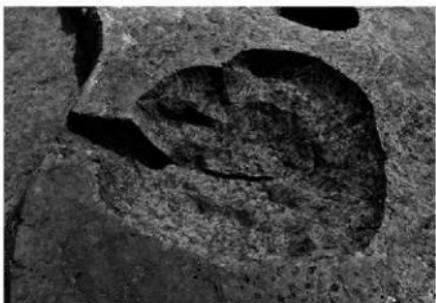
M 区 SK6163 セクション（東から）



M 区 P6203・SK6202・6201（左から） セクション（北東から）



M 区 SK6201 完掘（北東から）



M 区 SK6202 完掘（北東から）



M 区 SK6207 セクション（南東から）



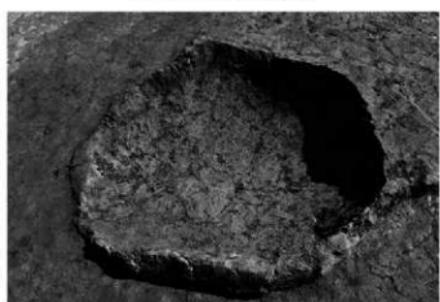
M 区 SK6213 セクション（北東から）



M 区 SK6213 完掘（南東から）



M 区 SK6223 セクション（北から）



M 区 SK6223 完掘（北から）



M 区 SD6111 セクション（南東から）



M 区 SD6113 セクション（南東から）



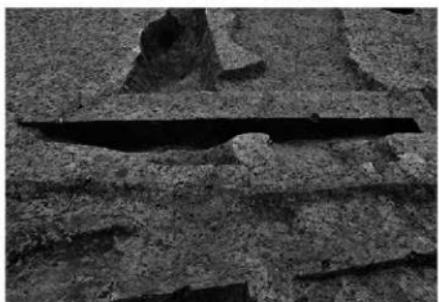
M 区 SD6114 セクション（南東から）



M 区 SD6115 セクション（北東から）



M 区 SD6132 セクション（西から）



M 区 SD6177・6132・6113（左から） セクション（南東から）



M 区 SD6164 セクション（北東から）



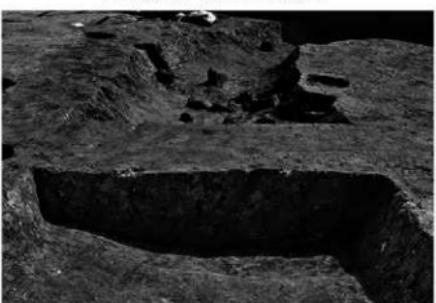
M 区 SD6167 セクション（北東から）



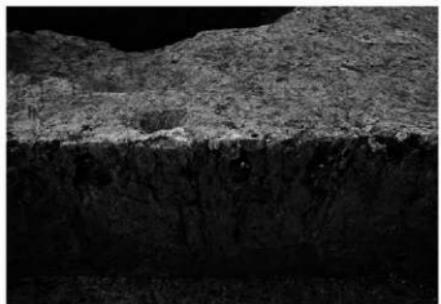
M 区 SD6177 セクション（北東から）



M 区 SD6186・6187 セクション（東から）



M 区 SD6186 セクション（北東から）



M区 SD6187 セクション(南東から)



M区 SD6209 セクション(南東から)



N区 S86025・6035・6059(南西から)



N区 東壁 基本層序(西から)



N区 S86025-P6072 セクション(北東から)



N 区 SB6025-P6076 セクション（東から）



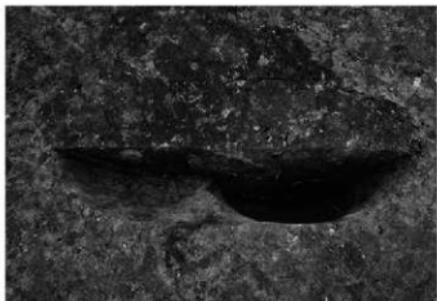
N 区 SB6025-P6042 セクション（北西から）



N 区 SB6025-P6026 セクション（東から）



N 区 SB6035-P6036 セクション（北西から）



N 区 SB6035-P6040・6037（左から） セクション（北東から）



N 区 SB6035-P6048 セクション（北東から）



N 区 SB6035-P6071 セクション（南西から）



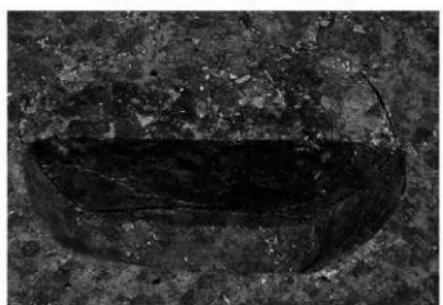
N 区 SB6059-P6050 セクション（南東から）



N 区 SB6059-P6060 セクション（西から）



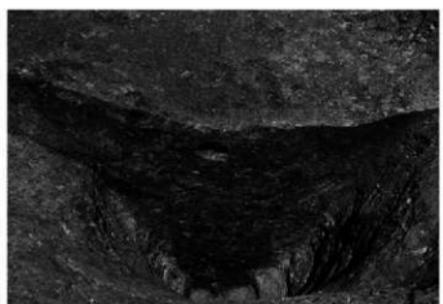
N 区 SB6059-P6063 セクション（南から）



N 区 SB6059-P6064 セクション（南から）



N 区 SE6006 セクション（南西から）



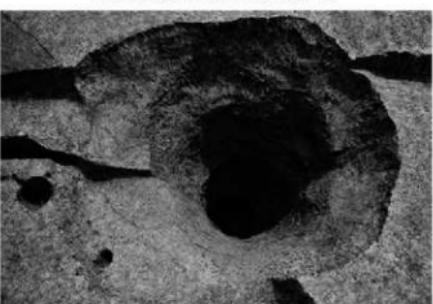
N 区 SE6006 セクション（南西から）



N 区 SE6006 遺物出土状況（南西から）



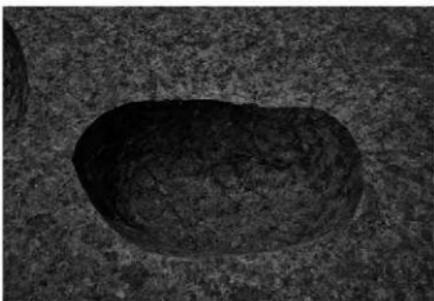
N 区 SE6006 桧検出状況（北西から）



N 区 SE6006 完掘（南西から）



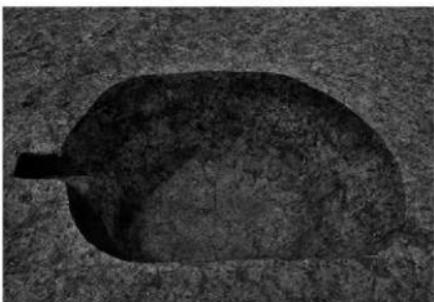
N 区 SK6008 セクション（東から）



N 区 SK6008 完掘（東から）



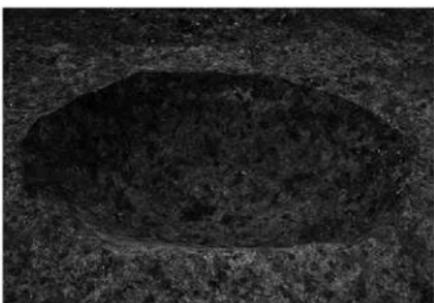
N 区 SK6009 セクション（南東から）



N 区 SK6009 完掘（南東から）



N 区 SK6010 セクション（北東から）



N 区 SK6010 完掘（北東から）



N 区 SK6024 セクション（南東から）



N 区 SK6024 完掘（南東から）



N 区 SK6077 セクション（北東から）



N 区 SK6077 完掘（北東から）



N 区 SK6096 セクション（北東から）



N 区 SK6096 完掘（北東から）



N 区 SD3066・SE6006（左から） セクション（北東から）



N 区 SD3069 セクション（北から）



N 区 SD6007 セクション（南西から）



O 区南西壁 基本層序（北東から）



O 区 SD6051・6052 セクション（北東から）



O 区 SD6053 セクション（北から）



O 区 SD6054 セクション（北から）



O 区 SD6054 遺物出土状況（南西から）



O 区 SD6055 セクション（南から）



O 区 SD6056 セクション（南西から）



O 区 SD6057 セクション（北西から）

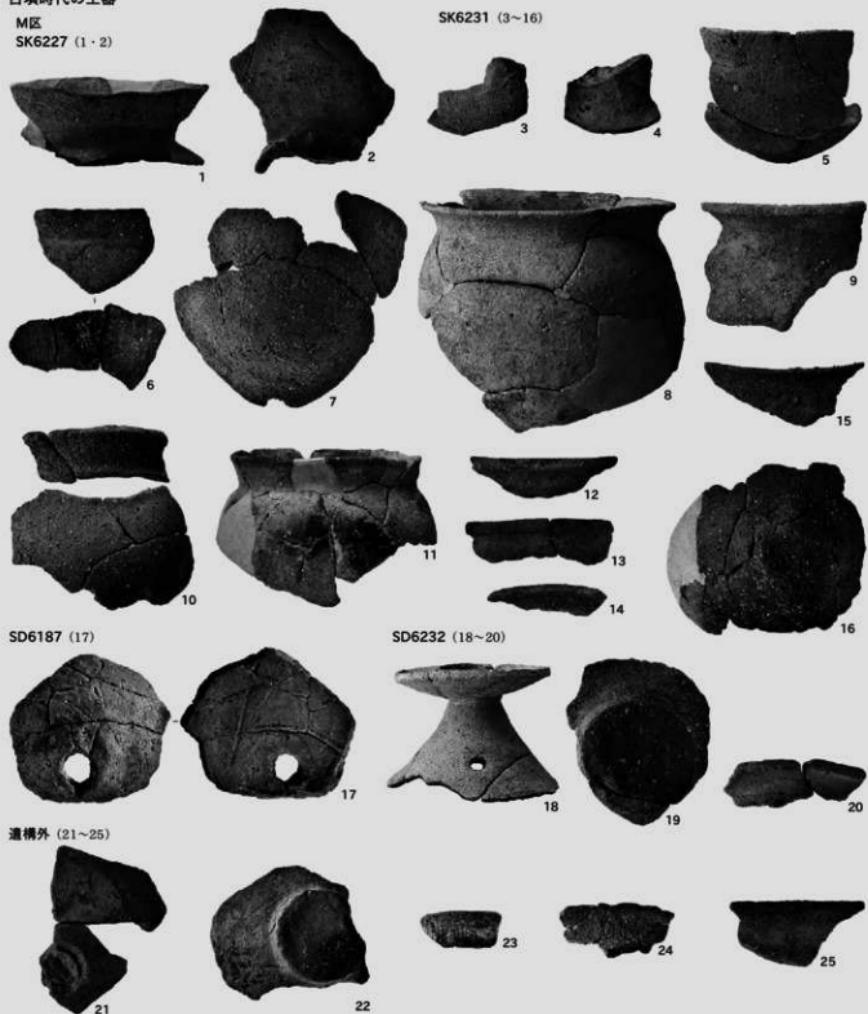


O 区 SD6058 セクション（東から）

## 古墳時代の土器

M区

SK6227 (1・2)



## 古代の土器・陶器

P6002 (26)

SD6051 (27)

遺構外 (28~29)



## 中世の土器・陶磁器(1)

L区

SD3015 (30~33)



M区

SB6249-P6197 (34)

SK6223 (35)

SD3007 (36~37)



34



35



36



37

## 中世の土器・陶磁器(2)

M区  
遺構外(38~41)



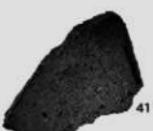
38



39



40



41



42

SE6006(43~45)



43



44



45

SK6009(46)



46



47



48



49



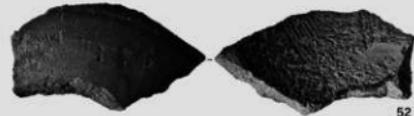
50



51

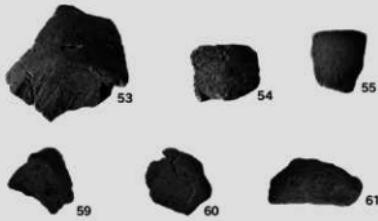
O区

SD6053(52)



52

SD6054(53~64)



## 木製品

N区 SE6006(70·71)



62



63



## 金属製品

M区 SD6187(68) P6166(69)



68



71

## 石製品

N区 遺構外(65)



65

O区 SD6054(67)



66

67

68

69

N区 SE6006(66)



66



70



38~69 [1:3]

70 [1:6]

71 [1:8]

## 報告書抄録

ふりがな	さかいいづかいせきよん だいよじちょうさ						
書名	境塚遺跡IV 第4次調査						
副書名	一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書						
巻次	XVII						
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第289集						
編著者名	石川智紀・塙野寛人（以上、埋文事業団）、篠澤正史・松井智・中俣茂（株式会社吉田建設）、高橋均・石橋夏樹（株式会社帆舟組）						
編集機関	公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL 0250(25)3981						
発行年月日	2021(令和3)年3月19日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m <sup>2</sup>	発掘原因
境塚遺跡	新潟県阿賀野市 百津字境塚 月崎字六日野塚	15223	401	37° 49° 41°	139° 12° 37°	20190416～ 20190628	1,119m <sup>2</sup> 一般国道49号 阿賀野バイパス 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
境塚遺跡	遺物包含地	古墳時代前期	土坑2基、溝1条、 ピット2基		土師器		
	遺物包含地	古代			土師器、須恵器		
	集落	中世（13世紀後半～15世紀前半）	掘立柱建物7棟、井戸1基、土坑18基、溝18条、ピット193基 (掘立柱建物の柱穴含む)		土師質土器・珠洲焼、 瓷器系陶器・瀬戸・ 美濃焼・青磁・磁石・ 石鉢・木製品		
要約	阿賀野川右岸の7.0mの自然堤防上に位置する。調査の結果、古墳時代前期・古代・中世（13世紀後半～15世紀前半）の遺構・遺物を検出した。調査区M区では古墳時代前期の土坑と溝などを検出した。中世の遺構は調査区全域で確認され、掘立柱建物、井戸、溝などを検出した。掘立柱建物は遺構が複数あり、少なくとも2時期以上の変遷が認められる。井戸からは、水槽施設の一部である曲物と杭などの木製品が出土した。						

### 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第289集

一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書 XVII

### 境塚遺跡 IV 第4次調査

2021(令和3)年3月18日印刷

2021(令和3)年3月19日発行

編集・発行 新潟県教育委員会

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

電話 025(285)5511

公益財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1

電話 0250(25)3981

FAX 0250(25)3986

印刷・製本 株式会社ハイグラフ

〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号

電話 025(233)0321